

平成29年度

岩手県立博物館

年報

平成 29 年度博物館年報



地域展「明日につなぐ気仙のたからもの」 オープニングセレモニー
平成 30 年 3 月 2 日（金）

目で見る岩手県立博物館この1年



第68回企画展「遮光器土偶の世界」子ども展示解説会
平成29年8月11日(金・祝)



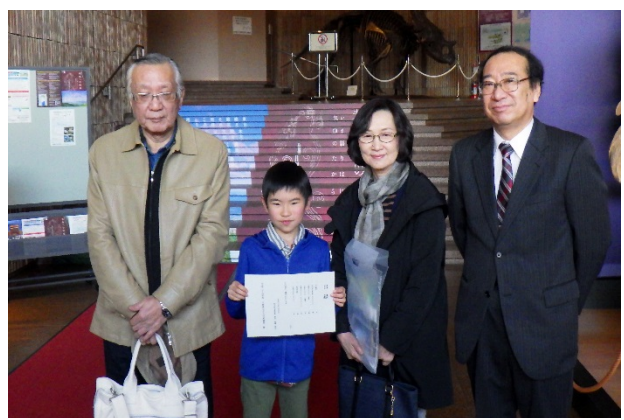
トピック展「ゆく酉くる戌」
平成29年11月28日(火)～平成30年2月25日



ゴールデンウィークスペシャルイベント「走れ! 蒸気機関車&新幹線」
平成29年5月4日(木)～5日(金)



合同移動展 岩手県文化振興事業団プレゼンツ
「文化・芸術が集うとき in 釜石市」
展示解説会 平成30年2月18日(日)



年間入館者数5万人達成
平成30年3月30日(土)



「天に響け 陸前高田 奇跡のオルガン演奏会」
平成30年3月3日(日)



展覧会のため90年ぶりで「里帰り」が実現した
ミス岩手こと「岩手鈴子」
バーミンガム公立図書館蔵



国際博物館の日記念事業 県博バックヤードツアー
平成29年5月21日(日)



博物館館園実習
平成29年8月17日(木)～25日(木)



文化財等取り扱い講習会
平成29年8月17日(木)～25日(木)



第74回自然観察会(於:稲庭岳)
平成29年9月23日(土)



博物館まつり 「たのしい!! むかしあそび」
平成29年10月1日(日)

目次

目で見る岩手県立博物館この1年	- 前付 -
1. 沿革	- 2 -
2. 施設の概要	
(1) 建築の概要	- 4 -
(2) 配置図・展示室等平面図	- 4 -
(3) 各室面積表	- 5 -
3. 博物館協議会	- 6 -
4. 予算	- 6 -
5. 事業の概要	
(1) 展示活動	- 7 -
(2) 教育普及活動	- 20 -
(3) 調査研究活動	- 38 -
(4) 資料収集保管活動	- 48 -
(5) 総務企画調整	- 55 -
6. 文化財レスキュー活動	
(1) はじめに	- 61 -
(2) 安定化处理	- 61 -
(3) 確立した安定化处理技術の普及	- 63 -
(4) 被災地支援	- 64 -
(5) 今後の課題	- 65 -
7. 岩手県立博物館友の会	
(1) 概要	- 66 -
(2) 会員数	- 66 -
(3) 主催事業	- 66 -
8. 博物館利用者入館状況	- 68 -
9. 平成29年度公益財団法人岩手県文化振興事業団博物館組織	- 71 -
10. 岩手県立博物館使命書	- 72 -
11. 関係条例・規則等	- 73 -

1. 沿革

- 昭和 48 年 4 月 県教育委員会事務局社会教育課に博物館準備係（3 名）を設置
- 昭和 48 年 5 月 県庁内に副知事を委員長とし関係部長等を委員とする博物館調査委員会を設置
- 昭和 48 年 6 月 博物館資料調査委員（委員 22 名）を委嘱
- 昭和 48 年 7 月 民意集約機構として博物館建設調査協議会（委員 25 名）を設置
- 昭和 48 年 8 月 展示内容等の専門的指導助言を得るため、博物館専門委員会（委員 20 名）を設置
- 昭和 49 年 4 月 県教育委員会事務局に博物館開設準備室（庶務係、学芸班 10 名）を設置
- 昭和 50 年 5 月 博物館建設調査事務終了に伴い、引続き県立博物館建設委員会（委員 6 名）を設置
- 昭和 51 年 1 月 県立博物館の建設地を、盛岡市上田字松屋敷四十四田公園地内に決定
- 昭和 51 年 10 月 建設基本設計の委託を株式会社佐藤武夫設計事務所（東京都）に決定
- 昭和 52 年 4 月 博物館開設準備室を廃し、博物館建設事務所（総務課、学芸課、工務課、17 名）を設置
- 昭和 53 年 6 月 起工式
- 昭和 53 年 10 月 展示工事着手、民家の移築復元工事を財団法人文化財建造物保存技術協会に委託
- 昭和 54 年 11 月 定礎式
- 昭和 55 年 7 月 博物館条例公布、館の名称を岩手県立博物館 と決定
- 昭和 55 年 7 月 コンパニオン（非常勤専門職員 15 名）任用
- 昭和 55 年 10 月 岩手県立博物館設置
- 昭和 55 年 10 月 落成記念式典及びマイヨール作「三人の妖精」除幕式（4 日）
- 昭和 55 年 10 月 岩手県立博物館開館（5 日）
- 昭和 55 年 10 月 日本博物館協会、全国科学博物館協議会加盟
- 昭和 56 年 3 月 第 1 回岩手県立博物館協議会開催
- 昭和 59 年 10 月 皇太子同妃両殿下ご来館（14 日）
- 昭和 60 年 4 月 財団法人岩手県文化振興事業団発足、岩手県立博物館管理運営を委託
- 昭和 62 年 5 月 入館者 100 万人を突破（1 日）
- 平成 元年 3 月 地質総合展示室改修完了
- 平成 2 年 5 月 岩手県立博物館友の会設立（1 日）
- 平成 2 年 7 月 歴史古代展示室改修完了
- 平成 2 年 10 月 開館 10 周年記念特別企画展「北の鉄文化」開催
- 平成 3 年 2 月 入館者、県民人口を超える（14 日）
- 平成 3 年 11 月 入館者、150 万人を達成（1 日）
- 平成 3 年 12 月 歴史中世展示室改修完了
- 平成 4 年 1 月 コンパニオンを「解説員」に改称
- 平成 5 年 2 月 秋篠宮同妃両殿下ご来館（5 日）
- 平成 5 年 3 月 現勢展示室イヌワシの山改修完了
- 平成 5 年 10 月 国民文化祭いわて'93 記念展「じょうもん発信」開催
- 平成 5 年 10 月 皇太子殿下ご夫妻ご来館（10 日）
- 平成 6 年 1 月 「中尊寺黄金秘宝展」開催
- 平成 6 年 12 月 屋上改修工事完了
- 平成 9 年 12 月 文化振興事業団 10 周年記念「柳之御所遺跡発掘調査展」開催
- 平成 8 年 4 月 重要文化財勸告出品館となる

平成 9 年	2 月	重要文化財公開承認施設となる
平成 9 年	7 月	入館者、200 万人を達成 (16 日)
平成 10 年	1 月	ハイビジョン室設置
平成 12 年	3 月	収蔵庫等改修工事完了
平成 12 年	3 月	企画展第 50 回目を迎える (「岩手の経塚」)
平成 12 年	10 月	開館 20 周年記念特別企画展「北の馬文化」開催
平成 13 年	5 月	近代美術展示閉鎖 (美術館へ移管)
平成 14 年	3 月	マメンキサウルス (モシリユウ) 全身骨格複製標本展示
平成 18 年	4 月	施設等の管理部門に「指定管理者制度」導入。(財)岩手県文化振興事業団が指定管理者となる
平成 21 年	1 月	入館者、250 万人を達成 (10 日)
平成 21 年	4 月	(財)岩手県文化振興事業団が 2 期目の指定管理者となる
平成 22 年	1 月	外部階段改修工事完了
平成 22 年	10 月	開館 30 周年記念特別企画展「いわての漆」開催
平成 23 年	3 月	美化事業完了
平成 24 年	4 月	(公財)岩手県文化振興事業団が 3 期目の指定管理者となる
平成 24 年	12 月	秋篠宮同妃両殿下ご来館 (20 日)
平成 25 年	1 月	岩手県議会商工文教委員会現地調査(22 日)
平成 26 年	3 月	文部科学大臣から科学研究費補助金規程に規定する研究機関に指定される(20 日)
平成 26 年	3 月	仮設陸前高田市被災文化財等保存修復施設設置 (建築面積 115.22 m ² 、延床面積 230.44 m ²)
平成 26 年	5 月	仮設陸前高田市被災文化財等保存修復施設開所 (可視化により一般公開)
平成 27 年	1 月	岩手県議会商工文教委員会現地調査(14 日)
平成 27 年	4 月	(公財)岩手県文化振興事業団が 4 期目の指定管理者となる
平成 28 年	1 月	文化庁巡回展「発掘された日本列島 2015」、特別展「海に生きた歴史～」開催
平成 29 年	3 月	中央監視システム更新工事完了
平成 29 年	3 月	旧佐々木家・旧藤野家住宅保存修理 (屋根) 工事完了
平成 29 年	3 月	正面入口案内看板設置
平成 29 年	8 月	ボイラー更新工事完了
平成 30 年	2 月	岩手山眺望確保のための樹木剪定
平成 30 年	3 月	昇降機改修工事完了

2. 施設の概要

(1) 建築の概要

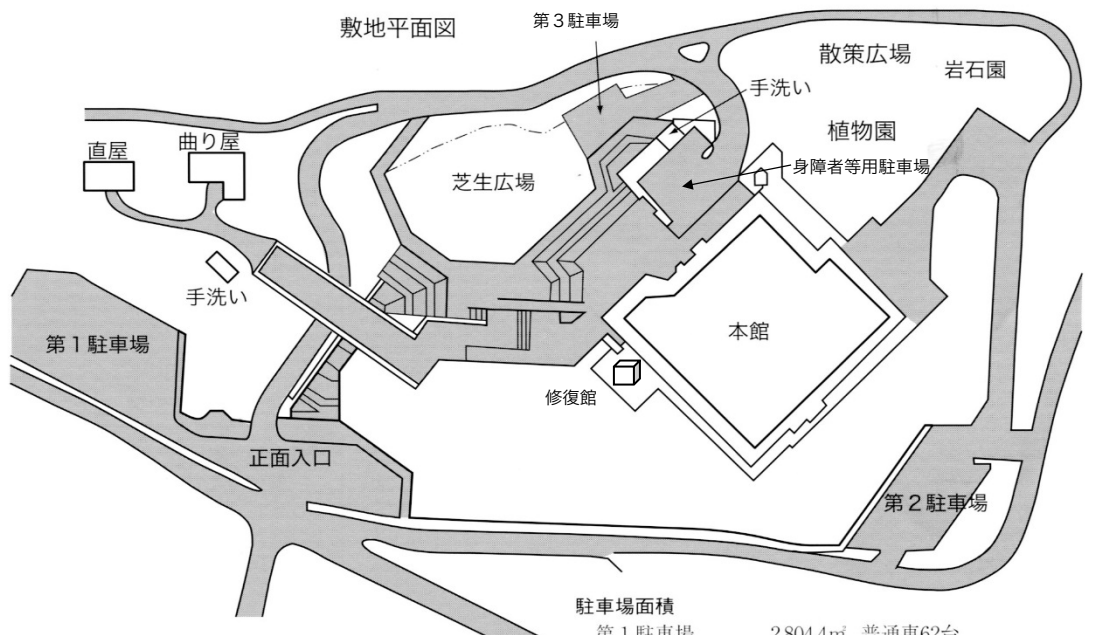
〈総工事費〉 44億3,000万円

〈工期〉 ●着工 昭和53年3月15日 ●完成 昭和55年9月30日

〈建築概要〉 ●敷地面積 53,112.78㎡ ●建築面積 5,192㎡ ●延床面積 12,051.56㎡

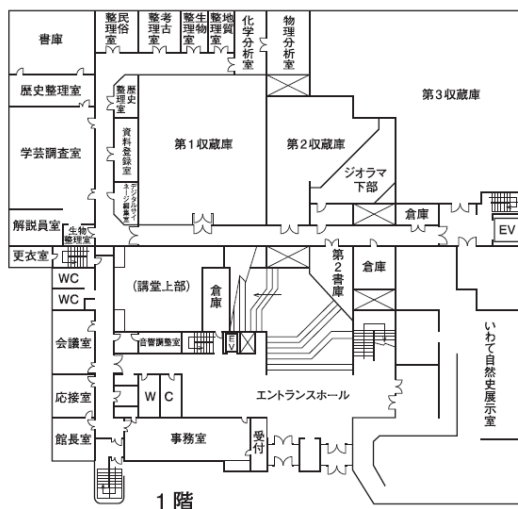
※仮設施設の面積等は含んでいない

(2) 配置図・展示室等平面図

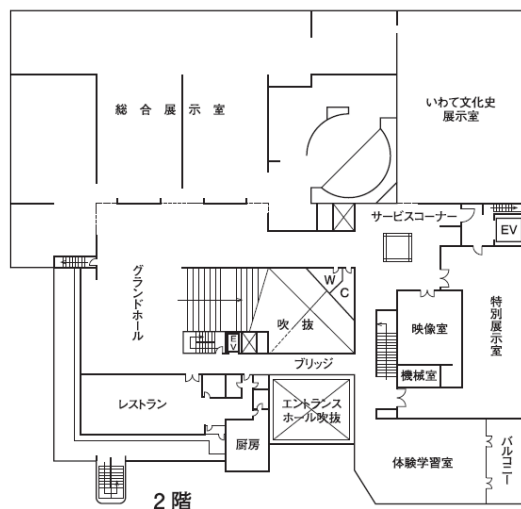


駐車場面積

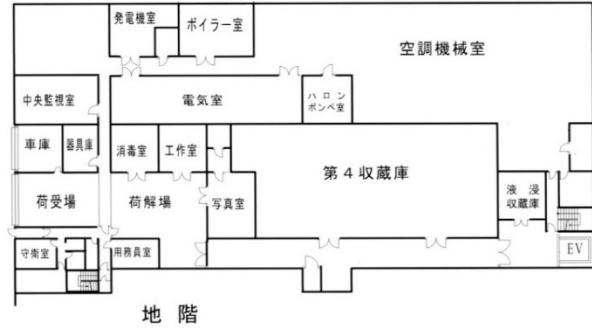
第1駐車場	2,804.4㎡	普通車62台
第2駐車場	1,251㎡	普通車12台、大型バス14台
第3駐車場	410.9㎡	普通車8台
身障者等用駐車場	93.5㎡	普通車5台



1階



2階



(3) 各室面積表

	部屋名	面積(m ²)
地階	空調機械室	766.09
	発電気室	50.26
	蓄電気室	9.71
	ボイラー室	64.36
	中央監視室	64.67
	電話交換機室	8.89
	電気室	142.54
	ハロンポンベ室	37.86
	消火栓ポンプ室	17.14
	エレベーター機械室	20.52
	第4収蔵庫	464.48
	第5収蔵庫(液浸)	39.72
	エレベーターシャフト	18.24
	車庫	38.33
	器具庫	25.24
	消毒室	37.86
	作業室	35.90
	暗室	11.91
	作業室	4.06
	写真室	52.94
	荷受場	79.63
	荷解場	113.75
	用務員室	26.39
	守衛室	18.00
	宿直室	21.17
	湯沸室	3.81
	浴室	5.71
便所	6.75	
タラップ室	6.75	
フォークリフト置場	12.75	
廊下・階段・その他	280.32	
小計	2,485.75	
中地階	いす保管庫	98.61
	外部用倉庫	20.38
	教室	81.07
	準備室	22.83
	実技室	115.66
	便所	29.02
	講堂	164.09
	効果室	14.50
	ホワイエ	68.29
	タラップ室	5.14
	廊下・その他	232.78
小計	852.37	

	部屋名	面積(m ²)
1階	いわて自然史展示室	729.27
	パネル倉庫	35.56
	風除室	3.21
	受付	18.65
	印刷室	8.50
	事務室	116.01
	館長室	43.33
	応接室	41.40
	会議室	64.23
	倉庫	14.25
	身障者便所	6.47
	No.3便所	43.85
	No.2便所	39.67
	音響調整室	20.84
	同上前室	10.28
	予備室	32.07
	ロッカー室	10.45
	女子更衣室	20.55
	学芸調査室	236.04
	歴史整理室	59.21
	書庫	113.36
	民俗整理室	35.84
	考古整理室	35.84
	生物整理室	25.10
	地質整理室	25.20
	歴史整理室	35.43
	第1資料登録室	21.90
	化学分析室	41.66
	物理分析室	53.94
	デジタルサイネージ編集室	20.72
	第1収蔵庫	365.15
	第2収蔵庫	188.25
	第3収蔵庫	608.38
倉庫	9.18	
第2書庫	42.69	
ジオラマ下部	119.13	
グランドホール	133.19	
ロビー1	101.79	
ロビー2	35.84	
階段・廊下・その他	888.10	
小計	4,454.53	

	部屋名	面積(m ²)
2階	総合展示室	1,553.85
	県土の誕生	102.35
	いわての夜明け	187.60
	いわてのあゆみ	743.20
	庶民のくらし	210.00
	いわての今	310.70
	いわて文化史展示室	489.07
	ミニプラザ(1)	210.42
	ミニプラザ(2)	129.50
	特別展示室	292.20
	映像室	124.00
	No.4便所	30.11
	体験学習室	217.17
	厨房	54.93
	休憩室	160.08
休憩室便所	10.98	
厨房事務室	10.24	
厨房便所	4.16	
食品庫	6.90	
グランドホール	213.66	
階段・廊下・その他	618.20	
小計	4,125.47	
塔屋	塔屋	133.44
合計	合計	12,051.56

- 展示面積 3,404.31 m²
- 収蔵庫面積 1665.98 m²
- 学芸調査室 236.04 m²
- 研究室 274.91 m²

3. 博物館協議会

岩手県立博物館協議会は、館長の諮問に応じ、博物館の運営に関し調査審議するとともに、館長に対して意見を述べる機関として設置されている。平成 29 年度の開催期日・協議事項は次のとおりである。

期日：平成 30 年 1 月 25 日（木）

場所：岩手県立博物館会議室

- 協議事項
- ・平成 28 年度博物館協議会の意見等への対応状況について
 - ・平成 29 年度博物館事業実施状況について
 - ・平成 30 年度博物館事業計画（案）について
 - ・運営全般について

岩手県立博物館協議会委員名簿（任期 平成 31 年 6 月 22 日まで）

氏名	職	分野
及川政己	盛岡市立東松園小学校長	学校教育 県小学校長会
佐藤進	盛岡市立上田中学校長	学校教育 県中学校長会
小田島 正明	岩手県立盛岡第四高等学校長	学校教育 県高等学校長協会
松田 恵美子	岩手県青年団体協議会会長	社会教育
大沢 リツ子	特定非営利法人岩手県地域婦人団体協議会理事	社会教育
野場 秀樹	一般社団法人岩手県 P T A 連合会副会長	社会教育
齋藤 桃子	石神の丘美術館主任学芸員	学識経験者 県博物館等連絡協議会
遠藤 健悦	八幡平市教育委員会教育長	学識経験者 県市町村教育委員会協議会
細越 千絵子	岩手県立博物館友の会会員	学識経験者 県立博物館友の会
千葉 陽介	㈱岩手日報社編集局学芸部次長	学識経験者
松政 正俊	岩手医科大学教授	学識経験者
菅野 文夫	岩手大学教授	学識経験者
飯坂 真紀	画家・民俗芸能研究者	学識経験者
沼里 由紀子	盛岡ふるさとガイドの会会員	学識経験者

（平成 29 年 6 月 23 日現在）

4. 予算

（単位：千円）

項目	14 年度	15 年度	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度
管理運営費	177,931	174,216	175,957	170,462				
総務企画調整費				5,243	3,759	4,172	3,945	3,782
展示活動費	16,120	13,372	17,775	11,673	10,074	7,090	10,826	8,115
資料収集保管活動費	43,020	41,262	40,659	40,319	29,894	27,599	21,846	21,983
調査研究活動費	4,012	4,487	4,811	7,273	7,326	7,585	7,276	7,304
教育普及活動費	4,888	5,465	5,450	1,987	1,633	1,683	1,798	1,558
業務管理費					37,699	34,282	34,155	33,251
指定管理者事業費					127,861	130,034	129,269	132,832
計	245,971	238,802	244,652	236,957	218,246	212,445	209,115	208,825
項目	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
総務企画調整費	5,317	4,471	3,984	3,807	3,442	3,882	3,401	3,380
展示活動費	3,949	7,443	6,619	6,811	7,589	9,686	11,321	8,262
資料収集保管活動費	22,817	20,911	21,109	21,446	19,911	20,086	18,304	18,951
調査研究活動費	7,556	6,921	6,703	6,611	5,956	4,986	3,438	3,428
教育普及活動費	1,616	1,664	1,770	1,515	1,295	1,275	444	454
業務管理費	32,439	32,122	32,529	33,880	35,950	36,277	34,449	34,735
指定管理者事業費	131,395	132,600	130,502	130,401	133,050	132,345	134,279	139,188
計	205,089	206,132	203,216	204,471	207,193	208,537	205,636	208,398

- ※ 1 職員の人件費を除く
 2 予算は、いずれも各年度の当初予算であるが、平成 27 年度は特別展「近代へのとびら」展、平成 28 年度は特別展「スポーツ博覧会いわて」展開催に係る特別予算を加算した。
 3 総務企画調整は 17 年度から項目を起こした。
 4 18 年度から、指定管理者制度が導入されたことにより業務管理費・指定管理者事業費の項目を起こした。

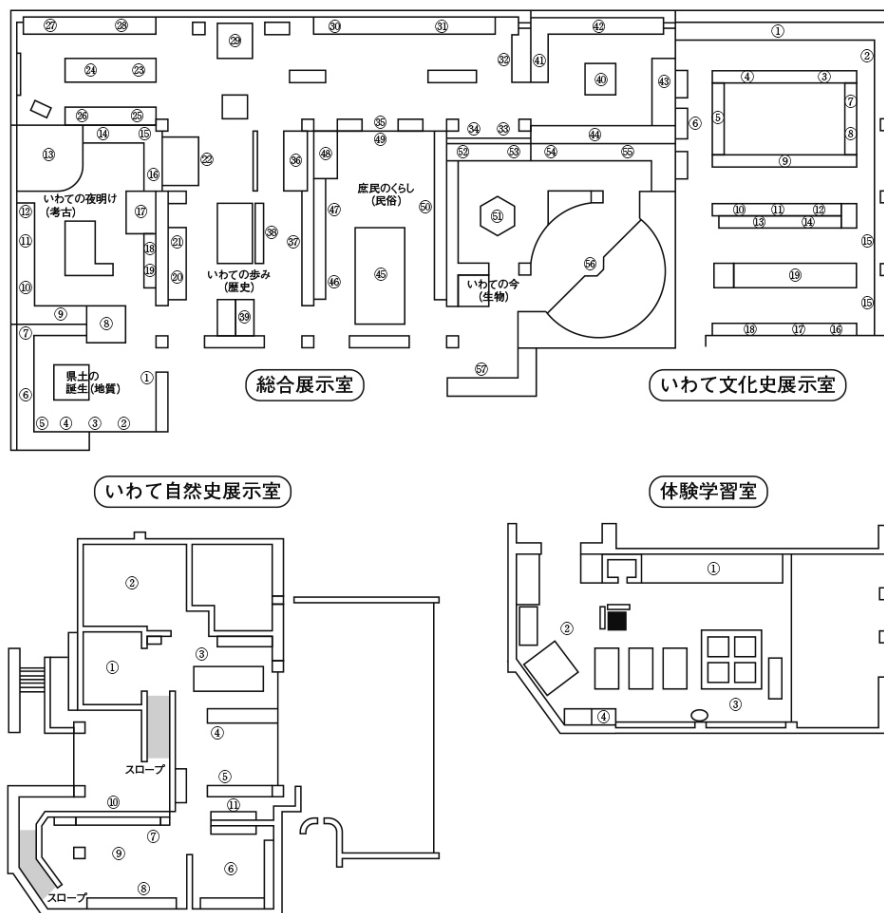
5. 事業の概要

5. (1) 展示活動

開館以来、県民の皆様からの寄贈資料や学芸員が自ら収集してきた資料、及び入手が困難なものについては購入等による資料収集活動を行ってきた。平成29年度(2018年3月31日)までに収蔵されている博物館資料の総点数は、302,111点にのぼる。その中で、常設展示として展示されているものはわずか2,000点程度に過ぎず、残りは収蔵庫に保管されている。収蔵庫保管資料については、季節や年中行事にあわせた展示替えの際に活用されている。

総合展示室では、地質・考古・歴史・民俗・生物の各部門に関連する展示資料が、いわて文化史展示室には民俗・歴史・考古部門に関連する展示資料が、いわて自然史展示室には地質・生物など自然史に関するより専門的な資料が展示され、充実した展示内容となっている。

平成29年度は、企画展「遮光器土偶の世界」、テーマ展「中世の南部氏と糠部」と「ひとの私たち～ひなまつりを迎える前に～」、巡回展「海を越えた絆～『ミス岩手』と青い目の人形～」、地域展「明日につなぐ気仙のたからもの-津波で被災した陸前高田資料を中心に-」などを開催した。また、岩手県文化振興事業団による埋蔵文化財センターとの合同移動展を釜石市民ホール「TETTO」で開催した。



展示室配置図

ア. 展示構成

エントランスホール

- ・兜蹴毘沙門天立像
- ・モシリユウとマメンキサウルス
- ・岩手の眺望

総合展示室

- 県土の誕生(地質)
 - 1 県土のおいたち
 - (1) 東北地方の地下断面
 - (2) 気仙隕石
 - (3) 岩手県の地質と岩石
 - 2 いわたの古生物相の変遷
 - (4) 生命史以前
 - (5) 古生代の生きもの
 - (6) 中生代の生きもの
 - (7) 古第三紀～新第三紀の生きもの
 - (8) 鮮新世～第四紀の生きもの
- いわたの夜明け(考古)
 - 3 旧石器時代
 - (9) 氷河期の人びと
 - 4 土器の時代
 - (10) 岩手の縄文土器
 - (11) 貝塚の形成
 - (12) 埋葬と装飾品
 - (13) 縄文人の暮らし
 - (14) 大洞文化
 - 5 稲作を始めた時代
 - (15) 弥生文化と岩手
 - 6 古墳を築いた時代
 - (16) 拓かれる北上平野
 - (17) 群集墳
 - (18) 集落と住居
 - (19) 生産技術の变革
- いわたの歩み(歴史)
 - 7 蝦夷から奥州藤原氏へ(古代)
 - (20) 古代の城柵
 - (21) 安倍氏の台頭
 - (22) 奥州平泉とその文化
 - 8 戦乱の時代とその文化(中世)
 - (23) 文治五年奥州合戦
 - (24) 豪族たちの動きと庶民
 - (25) 新しい仏教文化
 - (26) 九戸政実の乱
 - 9 藩制時代の人々(近世)
 - (27) 藩政の確立
 - (28) 凶作と一揆
 - (29) 盛岡城と町づくり
 - (30) 産金と製鉄

- (31) 南部と馬
 - (32) 街道と舟運
 - (33) 藩学と寺子屋
 - (34) 先駆者たち
 - (35) 維新前夜
- 10 進む近代化(近代)
 - (36) 生活の洋風化
 - (37) 岩手県の誕生
 - (38) 明治時代から大正時代へ
 - (39) 太平洋戦争
 - 11 古美術
 - (40) 鐺
 - (41) 絵画・工芸
 - (42) 刀剣
 - (43) 絵画・工芸
 - (44) 絵画
 - 庶民の暮らし(民俗)
 - 12 家の暮らし
 - (45) いろいろ
 - (46) 正月の行事
 - (47) 庶民の信仰
 - 13 働く人びと
 - (48) 農村の人びと
 - (49) 漁村の人びと
 - (50) 山村の人びと
 - 14 まつりと芸能
 - いわたの今(現勢・生物)
 - 15 わたしたちの郷土いわた
 - (51) 岩手県地形模型
 - (52) 岩手の四季
 - (53) 県の鳥・木・花
 - 16 恵まれた自然
 - (54) 岩手の風土
 - (55) 山や川の生き物
 - (56) イヌワシの山
 - (57) 豊かな海

いわて自然史展示室

- (1) 大地の中の小さな輝き
ー鉱物コレクションー
- (2) 地球史の中の岩手の自然
- (3) 海にもどって大進化
- (4) 海の哺乳類
- (5) 空に向かって大進化
- (6) 水辺の生きもの
- (7) 日本のキツツキと希少な鳥獣
- (8) 早池峰山の自然
- (9) 大空の覇者ワシ・タカの世界

- (10) 写真でみる岩手の自然
- (11) 東日本大震災と被災文化財等救援活動

いわて文化史展示室

考 古

- (1) 岩手の土器
- (2) 北上山系の洞穴遺跡
- (3) 岩手の石器と鉄器
- (4) 三陸の貝塚
- (5) 豊岡遺跡
- (6) 柳之御所遺跡

歴 史

- (7) 中国古印
- (8) 信仰
- (9) 近代
- (10) 板碑
- (11) 江戸時代の貨幣
- (12) 藩政時代の村

民 俗

- (13) 南部小絵馬
- (14) オシラサマ
- (15) まいりのほとけ
- (16) 郷土料理
- (17) いわたの民芸
- (18) 南部絵暦
- (19) むかしの暮らし大図鑑

体験学習室

- (1) 身につける
鎧、夜会服、野良着等
- (2) ためす
虫の鳴き声ボックス、機織等
- (3) あそぶ
かるた、板がえし等
- (4) よむ

屋外展示

民 家

- ・直屋 旧藤野家住宅(重文)
奥州市江刺区伊手御堂
- ・曲屋 旧佐々木家住宅(重文)
下閉伊郡岩泉町指畑

散策広場

- ・植物園
県内の植物等345種
- ・岩石園
火山岩、変成岩、堆積岩50種

イ. 常設展示の展示替え及び展示コーナー

長期間の展示による資料の劣化防止、季節や年中行事などにあわせた展示とするため、常設展示では不定期に展示替えを行っている。また、企画展やテーマ展に間接的に関わる資料や、夏休み・冬休みを主体として子供向けの資料をトピック展示した。

表5 (1)-1 平成29年度の主な展示替え・トピック展

No.	展示場所	種別	テーマ	展示資料	期日
1	総合展示室・いわて自然史展示室	展示替え		ハチノスサンゴほか	29.4.11～
2	総合展示室「庶民の暮らし」	トピック展	武者人形	花巻人形ほか	29.4.11 ～5.22
3	エントランスホール階段	展示替え		プテラノドン肢骨化石ほか	29.4.27～
4	総合展示室「庶民の暮らし」	展示替え		大漁着	29.5.10～
5	いわて文化史展示室	トピック展	馬	馬の郷土玩具、写真パネル	29.5.24 ～7.3
6	ミニプラザ	トピック展	一戸町御所野遺跡のトピック展示	当該遺跡の出土品、解説パネル（パネルのみ30.1.18）	29.6.3～ 8.20
7	総合展示室「県土の誕生」	展示替え		アンモナイト（スタケオセラス）ほか	29.6.3～
8	いわて文化史展示室「むかしの暮らし大図鑑」	展示替え	夏の風物詩	扇風機、ハエトリ器、氷削機ほか	29.7.4 ～9.19
9	いわて文化史展示室	展示替え	盛岡竿	盛岡竿、写真、パネル他	29.7.4 ～11.25
10	いわて自然史展示室	トピック展	岩手と世界のクワガタ&カブトムシ	岩手で採取できる全種ほか	29.7.19～ 9.18
11	いわて自然史展示室	トピック展	岩手に新しく入ってきた外来種	マダラコウラナメクジ、ヒナウンランほか	29.7.25～ 8.31
12	総合展示室・いわて自然史展示室	展示替え		魚類化石パランプリプテルスほか	29.8.9～
13	いわて文化史展示室	トピック展	発掘された岩手の中世城館	大林城・篠館・不動館、中館の出土品、写真パネル、縄張図	29.10.14 ～12.3
14	総合展示室「庶民の暮らし」	展示替え		大漁着、まいるのほとけ	29.10.3～
15	いわて自然史展示室	トピック展	どれがムジナ？	アナグマ、タヌキ、ハクビシン等	29.9.12 ～11.19
16	いわて文化史展示室「むかしの暮らし大図鑑」	展示替え	あたたまるための道具	湯たんぼ、こたつ、行火、火鉢等	29.11.26～ 30.2.26
17	いわて文化史展示室	トピック展	花巻人形 鶏と犬の土人形	花巻人形・蘇芳・胡粉・三千本膠	29.11.26～ 30.2.26
18	グランドホール	トピック展	ゆく西、くる戌	岩手地鶏、カラスバト、イソヒヨドリ雌雄、クマガラ、ニホンオオカミの頭骨、ホンDOTタヌキ、キタキツネほか	29.11.28～ 30.2.18
19	自然史展示室	展示替え		棘皮動物 アスコキスティテスほか	29.12.5～
20	総合展示室「庶民の暮らし」	トピック展	雛人形	花巻人形、享保雛等	29.12.28 ～30.3.4
21	いわて文化史展示室	トピック展	土偶—縄文時代の人のかたち—	土偶	29.12.28～
22	いわて文化史展示室	トピック展	戦後写真に見る沿岸南部	森口多里写真コレクション	30.1.15～
23	総合展示室・自然史展示室	展示替え		アンモナイト（ピクテティア）ほか	30.1.25～
24	総合展示室・自然史展示室	展示替え		岩手の鉱物（磁鉄鉱礫）、南部標本（釜石石）	30.2.14 ～2.21
25	いわて自然史展示室	トピック展	イタチたち	オコジョ、イイズナ、テンほか	30.11.21 ～3.18
26	グランドホール	トピック展	知られざる切手の世界	数百種類に及ぶ切手コレクションの中からアニメや動物の切手を展示	30.3.10 ～4.15

ウ. 特別展示の概要

平成 29 年度は以下の企画展・テーマ展等を開催した。合同移動展は公益財団法人岩手県文化振興事業団の主催事業で、当館・美術館・埋蔵文化財センター・県民会館の 4 事業所が釜石市を会場として実施したものである。

表 5 (1)-2 平成 29 年度の企画展・テーマ展・地域展・合同移動展

種 別	名 称	会 期
企画展	「遮光器土偶の世界」	平成 29 年 6 月 3 日 (土) ~ 8 月 20 日 (日)
テーマ展	「中世の南部氏と糠部」	平成 29 年 9 月 23 日 (土) ~ 29 年 11 月 26 日 (日)
巡回展	「海を越えた絆～「ミス岩手」と青い目の人形～」	陸前高田市コミュニティホール 平成 29 年 12 月 8 日 (金) ~ 10 日 (日) 一関市博物館 平成 29 年 12 月 12 日 (火) ~ 17 日 (日) 岩手県立博物館 平成 30 年 1 月 8 日 (月・祝) ~ 3 月 22 日 (木)
テーマ展	「ひとのかたち～ひなまつりを迎える前に」	平成 30 年 1 月 8 日 (月・祝) ~ 2 月 12 日 (月・祝)
地域展	「明日につなぐ気仙のたからもの一津波で被災した陸前高田資料を中心に」	平成 29 年 3 月 3 日 (土) ~ 3 月 28 日 (水)
合同移動展	「文化・芸術が集うとき in 釜石市」	平成 30 年 2 月 16 日 (金) ~ 2 月 18 日 (日)

(ア) テーマ展「絵画でたどる 19 世紀岩手の風景」

江戸から明治へと時代が移った 19 世紀は、武士の世が終わり、岩手県が誕生し、人々の暮らしが劇的に変化した時代である。西洋の文物が流入し、鉄道が通り、日常の風景も変化した。大政奉還から 150 年が経過したことを契機とし、江戸の面影と明治の鼓動を伝える絵画をとおして、19 世紀のふるさと岩手の風景に思いを馳せる展覧会である。

会期 平成 29 年 3 月 18 日 (土) ~ 5 月 7 日 (日) 45 日間

会場 特別展示室、ミニプラザ

会期中の入館者数 14,316 人

〔展示内容〕

I. 旅の空～奥州街道をゆく～

盛岡藩主や明治天皇も旅をした奥州街道沿いには、よく知られた名所や旧跡があります。街道をゆく旅人が目にした風景を明治天皇巡幸時に撮影された写真を交えて紹介します。

- ・ 中村栄啓「御旧領名所図巻」 安政 3 年(1856)頃 もりおか歴史文化館所蔵
- ・ 川口月泉「明治九年 明治天皇行幸岩手県順路絵図」 大正時代頃 岩手県立博物館所蔵

II. 汽車の窓辺～日本鉄道沿線をゆく～

日本鉄道の上野—青森間（後の東北本線）が開通した 1891 年頃に川口月村が描いた岩手県内沿線の風景を一举に公開します。

また、当時の鉄道写真を併せて展示し、今も残る明治の痕跡を探ります。

- ・ 川口月村「奥羽寒図記」 明治 24 年(1891)頃 岩手県立博物館所蔵
- ・ 川口月村「岩手県鉄道沿線名勝図巻」 明治 24 年(1891)頃 もりおか歴史文化館所蔵
- ・ 川口月村「日本鉄道陸奥地方画譜」 明治 24 年(1891)頃 青森県立郷土館所蔵

III. 畏敬と憧憬～追憶の城下町盛岡～

江戸から明治へと時代が移る中で姿を消した盛岡城や北上川の舟橋、その一方で鳴り響く新たな時代の槌音。江戸と明治が交錯する 19 世紀盛岡の風景を読み解きます。

- ・ 川井鶴亭「盛岡城下鳥瞰図」 江戸時代末期 岩手県立博物館所蔵
- ・ 作者不詳「盛岡市街鳥瞰絵図屏風」 明治20年代(19世紀) 盛岡市先人記念館所蔵

IV. 記憶の彼方～ありし日のふるさと～

街の賑わい、海辺の光景、鎮守の森・・・私たちが思い浮かべるふるさとの風景は人それぞれです。19世紀の画家たちの目に映った岩手の風景の記憶をたどります。

- ・ 伝小保内東泉「陸奥の土風」(二戸市指定文化財) 明治時代初期(19世紀) 個人蔵
- ・ 蓑虫山人「蓑虫山人絵日記」 明治時代中期(19世紀) 長母寺所蔵

〔関連事業〕

I. 展示解説会 各回 14:30～15:30 特別展示室 要入館料

- ① 3月20日(月・祝) ② 4月8日(土) ③ 4月22日(土) ④ 5月1日(月)
展示の見どころを担当学芸員が解説します。

II. 県博日曜講座 各回 13:30～15:00 講堂 当日受付 聴講無料

- ① 3月26日(日) 「川口月村の『奥羽寒図記』～日本鉄道沿線をゆく～」
講師 齋藤里香(展覧会担当学芸員)
- ② 4月23日(日) 「徒歩の旅から汽車の旅へ—福岡停車場誕生物語—」
講師 菅原孝平氏(二戸市立二戸歴史民俗資料館長)

III. ミュージアムシアター 特別上映会「岩手の輝き LIGHT OF IWATE」

5月6日(土) 13:30～15:00 講堂 当日受付 鑑賞無料

大正12年の盛岡市内の様子を記録した無声映画を解説付きで上映します。
解説：太田幸夫氏(元盛岡劇場館長)

IV. ゴールデンウィーク スペシャルイベント

- ① 明治気分で大変身！ ミニプラザ 小学生向け 当日受付 要入館料
4月29日(土)・30日(日) 両日 10:00～12:00/13:00～16:00

明治時代風のドレスやフロックコート、女学生の制服を着て変身しよう！

〔ドレスと女学生の制服は平館高等学校との共同プロジェクトで制作しました。〕

- ② ミニSLに乗ろう！ 芝生広場 幼児～小学生向け 当日受付 無料
5月4日(木)・5日(金) 運行時間 10:00～16:00

ミニSLに乗って出発進行！ 芝生広場をミニSLが走ります。

〔※悪天候の場合は館内でミニ電車を運行します。要入館料〕

運行：IGRいわて銀河鉄道

- ③ 走れ！蒸気機関車&新幹線 グランドホール 子ども～大人向け 要入館料
5月4日(木)・5日(金) 運転時間 10:00～16:00 見学随時

Nゲージ鉄道模型の展示・運転です。

Nゲージ車両持込み大歓迎！ 当日ご持参ください。

運営：岩手鉄道模型仲間の会

〔ホン×モノ コラボ〕 【岩手県立図書館×岩手県立博物館 連携企画】

- I. 岩手県立図書館企画展「いわての歴史シリーズⅦ いわてに生きる④ 街道を歩く」
(江戸時代の街道や旅に関する古文書の展示)

平成 29 年 2 月 24 日(金) ～ 5 月 7 日(日) 県立図書館 4F 企画展示コーナー

※スタンプラリー：岩手県立博物館テーマ展「絵画でたどる 19 世紀岩手の風景」と岩手県立図書館企画展「街道を歩く」の両会場を巡ってそれぞれのスタンプを集めた方に、オリジナルペーパークラフトを差し上げます。

II. 岩手県立図書館ミニ展示「日本の風景画と出会う」（関連図書の展示・貸出）

平成 29 年 3 月 1 日(水) ～ 5 月 30 日(火) 県立図書館 3F ミニ展示コーナー

(イ) 第 68 回企画展「遮光器土偶の世界」

独特の風貌で、見る者に様々な想像をかきたてる遮光器土偶。その実態を最先端の研究により様々な角度から明らかにし、用途解明に迫る。第一の角度は、伝統である。第 1 章で遮光器土偶の前の歴史、第 6 章で遮光器土偶の後から土偶の消滅までを見る。第二の角度は、遮光器土偶自身である（第 2 章）。第三の角度は、広がりである。遮光器土偶の数は、地域により極めて偏り、馬淵川～北上川中流域で 7 割が出土する（第 2 章）。本来の分布圏は東北地方だが、模倣品が関東地方を中心に北海道から兵庫県まで見られ（第 3 章）、優品に対する憧れが読み取れる。第四の角度は、脈絡で（第 4、5 章）、遮光器土偶を生み出した亀ヶ岡文化には、他にも様々な工芸品の優品が見られる。第五の角度は、使用痕である（第 7 章）。遮光器土偶は使用時に真っ赤だったことが推測できる。また、後頭部に強い磨滅痕が認められ、ここから用途を探っていく。

会期 平成 29 年 6 月 3 日（土）～8 月 20 日（日）68 日間

会場 特別展示室・グランドホール

会期中の入館者数：14,188 人

〔展示内容〕

第 1 章 土偶の歴史－遮光器土偶の前

第 2 章 遮光器土偶とは

遮光器土偶とは－大型、小型

刻々と変化する大型遮光器土偶

第 3 章 遮光器土偶の広がり

第 4 章 同じ時期の土偶

第 5 章 遮光器土偶を生んだ亀ヶ岡文化

展示品：秋田県麻生遺跡の土面（重要文化財）、軽米町大日向Ⅱ遺跡のガラス玉

第 6 章 土偶の終わり－遮光器土偶の後

第 7 章 遮光器土偶は何のために作られたのか

おわりに

コラム展示 ー考古学者は“昔の”流行の変化に敏感！ ボタン状石製品の流行の変化ー

〔関連事業〕

I. 展示解説会 各回 14：30～15：30 特別展示室

① 6 月 10 日（土） ② 7 月 30 日（日） ③ 8 月 6 日（日） 参加者計 100 人

II. 子ども向け展示解説会 各回 10：30～11：30 特別展示室

① 8 月 1 日（火） ② 8 月 11 日（金・祝） 参加者計 55 人

III. 土偶シンポジウム「土偶は壊す？壊さない？」（考古学セミナー講演会）聴講者 140 人

7月16日(日) 13:30~15:30 講堂

基調講演：小野美代子氏(元(公財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団)

「土偶は壊すものと言われてきましたが、果たして本当でしょうか。」

IV. 考古学セミナー現地見学会

「土偶の里、花巻、北上一土偶多出遺跡の謎に迫る」 参加者 15人

2017年10月14日(土) 9:45~12:10 花巻市総合文化財センター(現地集合)

花巻市総合文化財センター所長中村良幸氏の講演および展示資料の解説。

オプションツアーとして、午後希望者対象に北上市立博物館和賀分館で当館学芸員が展示解説。

V. トピック展「世界遺産を目指す！一戸町御所野遺跡をご紹介します」

5月24日(水)~2018年1月18日(木) 県立博物館グランドホール

VI. 県博日曜講座 各回 13:30~15:00 講堂

① 6月25日(日) 「遮光器土偶の使い方」

講師 金子昭彦(当館学芸員) 聴講者 136人

② 7月9日(日) 「雨滝遺跡と雨滝論争」

講師 丸山浩治(当館学芸員) 聴講者 47人

③ 7月23日(日) 「盛岡川目A遺跡・600点の土偶」

講師 高木晃氏((公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター調査課長補佐) 聴講者 56人

〔印刷物〕

ポスター B2、カラー印刷、700部

リーフレット A4、両面(表：カラー印刷、裏：2色刷)、11,000部

図録 A4、カラー印刷、56ページ、300部(配布用)、700部(販売用、売価1,600円)

(ウ) テーマ展「中世の南部氏と糠部」

中世に糠部と呼ばれた岩手県北部・青森県東部や南部氏に関する資料、写真パネルの展示を通して、地域の特質や歴史の変遷を紹介した。また、中世の当地における歴史が後世の資料ではどのように描かれているのか、歴史の描かれ方という点にも光を当てつつ、歴史研究の実状や可能性についても紹介し、地域史や歴史学そのものへの興味を喚起するよう努めた。

会期：平成29年9月23日(土)~11月26日(日) 65日間

会場：特別展示室

会期中の入館者数：10,835名(開幕前日=プレオープンの入館者数も含む)

〔展示内容〕

(1) 南部氏発祥前史

前九年合戦絵巻、人物画(川口月嶺)「新羅三郎義光於足柄山吹簫図二枚の内」、東鑑(以上、当館蔵)伝源義光筆書、伝南部光行筆書、槍(無銘、伝南部光行手銚)(以上、もりおか歴史文化館蔵)

(2) 根城南部氏の歴史

南部家文書影写本(八戸市博物館蔵)

(3) 三戸南部氏の歴史

天台寺長胴太鼓（八葉山天台寺蔵）、天台寺銅鰐口（複製、当館蔵）

(4) 描かれた歴史

御代々御画像（もりおか歴史文化館蔵）

(5) 発掘された三戸南部氏の城館

聖寿寺館跡・平良ヶ崎城跡・佐藤館跡出土遺物（青森・南部町教育委員会蔵）

(6) 編纂資料にみる南部氏の歴史

糠部記、南部根元記、奥南旧指録、九戸軍記、南部家伝旧正録（以上、当館蔵）、麒麟文硯（銘、松風）、南部政行画像（以上、もりおか歴史文化館蔵）

◆トピック

甲斐源氏・南部氏ゆかりの地（地図・写真パネル展示）

〔関連事業〕

I. 展示解説会 各回14:30～15:30 特別展示室

① 11月14日（土）参加者30人 ② 11月3日（金・祝）参加者44人

II. 県博日曜講座 各回13:30～15:00 講堂

①平成29年10月8日（日）「中世の南部氏と糠部について考える」

講師 佐々木康裕（当館学芸員） 聴講者130人

②平成29年11月12日（日）

「三戸南部氏成立の謎 ―掘り起こされた三戸南部氏の居城「聖寿寺館跡」―」

講師 布施和洋氏（南部町教育委員会社会教育課史跡対策室総括主査）

聴講者150人

III. 銀河鉄道観光企画旅行「中世・近世初期の南部氏城館めぐり」

平成29年10月24日（火）訪問先：聖寿寺館跡（青森県南部町）

三戸城跡（青森県三戸町）

九戸城跡（二戸市） 参加27人

〔印刷・広報物〕

ポスター 500部 チラシ 50,000部

(エ) テーマ展「ひとのかたち～ひなまつりを迎える前に～」

本展では、さまざまな個性をもつ人形（ひとがた・にんぎょう）が、岩手に暮らす人々にどのような形で寄り添ってきたか、民俗資料を中心に紹介した。

会期：平成30年1月8日（月・祝）～平成30年2月12日（月・休）

会場：特別展示室

会期中の入館者数：3,940名 ※実質公開日数31日

〔展示内容〕

(1) のろいのかたち

丑満画（紫波町・常光寺）

(2) はらいのかたち

藁人形（一戸町・高屋敷町内会）、藁人形（八幡平市・横間虫追いまつり保存会寄贈）、藁人形・御幣（北上市立博物館）ほか

- (3) ねがいのかたち
雪隠雛（えさし郷土文化館）、子安さま（二戸市二戸歴史民俗資料館）、ウチミドウ（二戸市浄法寺歴史民俗資料館）、金精さま（北上山地民俗資料館）、手足図絵馬・形（北上市・千手観音堂）、巻物「船大工秘事之事」（複製／岩手県立水産科学館）ほか
- (4) とむらいのかたち
供養人形と供養絵（遠野市・喜清院、遠野市・西来院）、供養飾り（遠野市・喜清院）、幽霊画（盛岡市・永泉寺、盛岡市・長松寺）ほか
- (5) あそびのかたち
大ヶ生ゆかりのクロスドール（個人蔵）、各種錦絵／写真パネル（和泉市久保惣記念美術館、仙台市博物館、東京都立図書館、内藤記念くすり博物館、早稲田大学演劇博物館）、伝統こけし（盛岡市・野崎他夫氏寄贈）ほか
- (6) まなびのかたち
胎児人形（岩手県助産師会）、捕縄人形（二戸市浄法寺歴史民俗資料館）ほか

〔関連事業〕

- I. 展示解説会 平成30年1月13日（土）14：30～15：30 特別展示室 参加者36人
- II. 県博日曜講座 各回13:30-15:00 講堂
- ① 平成30年1月14日（日）「花巻人形の源流を探る～ひとがたから雛人形へ～」
講師 高橋信雄氏（花巻市博物館長） 聴講者42人
- ② 平成30年1月28日（日）「ひとのかたち～『ひとがた』と『にんぎょう』」
講師 川向富貴子（当館学芸員） 聴講者45人
- III. ワークショップ「こけしのえつけ」〔幼児～一般対象、定員20名、材料代1000円〕
平成30年1月20日（土）10:00-12:00
講師 田山和文・和泉 工人（盛岡市・五葉社） 参加者19人（大人11人、子ども8人）

（オ）地域展「明日につなぐ気仙のたからもの -津波で被災した陸前高田資料を中心に-」

東日本大震災という未曾有の大規模自然災害発生を受け、岩手県立博物館では平成23年4月2日から今日に至るまで博物館関係機関と連携し、被災文化財、自然史標本等の救出と再生に取り組んで来た。平成25年5月には岩手県立博物館を中核館とする津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会（以下、大津波プロジェクト実行委員会）を結成し、被災地における活動に対する理解の醸成、新たに確立された安定化処理方法の普及、類似自然災害発生への備え、被災した博物館復興への支援を活動目標に掲げ、文化庁の支援を受けながら様々な活動を行ってきた。大津波プロジェクト実行委員会と連携して実施した今回の展覧会では、東北地方太平洋沖地震の震源地に近い気仙地方（現陸前高田市、大船渡市、住田町）から救出された被災文化財等の再生状況、平成26年度以降新たに構築された安定化処理技術の概要及び再生された資料が携えてきた未来へのメッセージを、イラスト等を多用し分かりやすく解説し、地域に伝わる博物館資料が、過去と未来をつなぐうえで重要な役割を果たしてきたことを示した。

会期：平成30年3月3日（土）～平成30年3月28日（水）

会場：特別展示室

会期中の入館者数：3,087人（開幕前日＝オープニングセレモニー出席者数も含む）

〔展示内容〕

- (1) 気仙の記録をつなぐー吉田家文書ー
定留・永留・御用永留帳、気仙隕石実物破片（陸前高田市立博物館蔵）
- (2) 東日本大震災発災から7年
津波で止まった時計（陸前高田市立博物館蔵）
- (3) ー1 気仙のくらしー産金ー
木造阿弥陀如来坐像（光勝寺蔵）、産金の道具と粉鉱石・自然金、写真資料、定留（陸前高田市立博物館蔵）
- (3) ー2 気仙のくらしー広田湾の漁撈ー
定留・永留、鹿角製釣針、ハンテン・テブクロ、アワビ鉤・ナマコ鉤・箱メガネ等漁撈用具、海苔漁関連漁撈用具（陸前高田市立博物館蔵）
- (3) ー3 気仙のくらしーひな節句ー
被災した土人形・修復された高田人形、的・弓（陸前高田市立博物館蔵）
- (4) 庶民の娯楽ー高田歌舞伎ー
歌舞伎幕・衣装・鬘・かんざし（陸前高田市立博物館蔵）
- (5) 失われた気仙の景観
蓑虫山人「気仙郡日記」（長母寺蔵）、高田松原に関する碑の拓本、日本百景選定書、高田松原関係自然史標本（陸前高田市立博物館蔵）
- (6) 再生された絵画
吉田啓一「冬の松原」、白石隆一「椿島」、猪熊弦一郎「猫と頭」、吉田郁也「ゴルフアースダイアリー挿絵原画」（陸前高田市立博物館蔵）

〔関連事業〕

I. オープニングセレモニー

- ・平成30年3月2日（金）16:45～17:15 於当館グランドホール 参加者53人
開会式・テープカット・内覧会（展示解説）

II. 安定化処理実施者を交えてのギャラリートーク

- ・平成30年3月3日（土）11:00～11:50 於当館特別展示室 参加者15人
神庭信幸氏（前東京国立博物館）、佐野千絵氏（東文研保存科学研究センター）
荒木臣紀氏（東京国立博物館）、武田昭子氏（昭和女子大学光葉博物館）
大崎綾子氏（女子美術大学）、土屋裕子氏（東京国立博物館）
首藤圭介氏（女子美術大学）、本多文人氏（陸前高田市立博物館）
赤沼英男、鈴木まほろ（当館学芸員）

III. 音の再生に成功したリードオルガン演奏会

- ・平成30年3月3日（土）14:00～16:00 於当館講堂 鑑賞者144人
「天に響け 陸前高田 奇跡のオルガン演奏会」
オルガン：中村由利子氏（作曲家・ピアニスト）、歌：白鳥英美子氏（歌手）
ヴァイオリン：伊禮しおり氏（遠野市在住）

IV. 平成29年度大津波プロジェクト主催支援シンポジウム

- ・平成30年3月11日（日）10:00～16:00 於当館講堂 聴講者72人
「連綿と続く被災文化財再生の歩みー博物館復興をめざしてー」
①被災文化財再生の意義
半田昌之氏（日本博物館協会）、神庭信幸氏（前東京国立博物館）
②被災博物館資料再生の現状と課題

- 土屋裕子氏（東京国立博物館）、赤沼英男、鈴木まほろ（当館学芸員）
- ③再生された資料の活用と確立された安定化処理技術の普及
水村伸行氏（福井県立歴史博物館）、長谷川賢治氏（徳島県立博物館）
- ④海を越えた絆の形成
デニー・ギュリック氏、フランシス・ギュリック氏（米国メリーランド大学）、
宮川治代氏（前米国バーミングハム公立図書館）
- ⑤天に響け 音の再生に成功したリードオルガン演奏
オルガン：中村由利子氏（作曲家・ピアニスト）、解説：神庭信幸氏（前東京国立博物館）
- ⑥被災地からのメッセージ 被災資料再生への取組と博物館復興をめざして
本多文人氏（陸前高田市立博物館）

V. 特別講演会

- ・平成30年3月18日（日） 13:30～15:00 於当館講堂 聴講者28人
「ふるさとは負けないーけんか七夕祭りに掛ける復興の願いー」
講師 河野和義氏（気仙町けんか七夕祭り保存連合会）

VI. 展示解説会 各回14:30～15:30 特別展示室

- ①平成30年3月10日（土） 18名 ②平成30年3月24日（土） 参加者19人

VII. 県博日曜講座

- 平成30年3月25日（日） 13:30～15:00 於当館教室 聴講者22人
「『どげ』って何ですかー気仙地方の婚礼習俗ー」
講師 小野寺俊彦（当館学芸員）

〔印刷・広報物〕

ポスター 500部 チラシ 35,000部

（カ）巡回展「海を越えた絆～『ミス岩手』と青い目の人形～」

昭和2年の日米人形交流から90年を迎える節目として、バーミングハム公立図書館所蔵の日米親善人形「ミス岩手（岩手鈴子）」を紹介した。また、「ミス岩手」と東日本大震災の津波で被災した陸前高田市所蔵の青い目の人形「スマダニエル・ヘンドレン」をはじめとする岩手に残る友情人形（青い目の人形）の対面を果たした。なお、本展は「岩手デジタルミュージアム構築事業（文化庁／平成29年度地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業）」の一環として開催した。

主催：岩手デジタルミュージアム構築事業実行委員会、岩手県立博物館、（公財）岩手県文化振興事業団

共催：アラバマ州・バーミングハム公立図書館、陸前高田市教育委員会、釜石市教育委員会

協力：陸前高田市立博物館、一関市博物館、(株)吉徳

担当：ミス岩手借用 / 青木勝氏（(株)吉徳顧問）
高橋廣至・赤沼英男（岩手県立博物館）

青い目の人形借用 / 小岩弘明氏・相馬美貴子氏（一関市博物館）
小野寺俊彦・近藤良子・原田祐参・佐々木康裕・
藤井忠志・川向富貴子（岩手県立博物館）

展示 / 本多文人氏・熊谷賢氏・浅川崇典氏・荒木優氏・熊谷幸奈氏（陸前高田市立博物館）

小岩弘明氏・相馬美貴子氏（一関市博物館）
藤井忠志・原田祐参・小野寺俊彦・近藤良子・川向富貴子（岩手県立博物館）

原稿作成 / 川向富貴子（岩手県立博物館）

関連事業運営 / 丸山浩治・川向富貴子・赤沼英男（岩手県立博物館）

総括 / 岩手デジタルミュージアム構築事業実行委員会

I. in 陸前高田

会期：平成 29 年 12 月 8 日（金）～10 日（日）

会場：陸前高田市コミュニティホール

会期中の入場者数：468 名 ※実質公開日数 3 日

〔展示内容〕

ミス岩手（バーミングハム公立図書館）、青い目の人形（陸前高田市立気仙小学校）

〔関連事業〕

ギャラリートーク [当日受付、一般対象] 聴講者 75 人

平成 29 年 12 月 10 日（日） 1 回目/11:00～ 2 回目/13:00～

講師：青木勝氏（柗吉徳顧問）、菅野祥一郎氏（元陸前高田市立気仙小学校長）

II. in 一関

会期：平成 29 年 12 月 12 日（火）～12 月 17 日（日）

会場：一関市博物館

会期中の入場者数：235 名 ※実質公開日数 6 日

〔展示内容〕

ミス岩手（バーミングハム公立図書館）、青い目の人形（一関市立黄海小学校、一関市立千厩小学校、一関市立新沼小学校、一関市立藤沢小学校）

III. in 盛岡

会期：平成 30 年 1 月 8 日（月・祝）～平成 30 年 3 月 22 日（木）

会場：特別展示室

会期中の入館者数：7,288 名

〔展示内容〕

ミス岩手（バーミングハム公立図書館）、青い目の人形（一関市立黄海小学校、一関市立千厩小学校、一関市立新沼小学校、一関市立藤沢小学校、一戸町立鳥海小学校、岩手町立沼宮内小学校、奥州市立江刺愛宕小学校、北上市立博物館、葛巻町立葛巻小学校、雫石町立下長山小学校、花巻市石鳥谷歴史民俗資料館、花巻市立若葉小学校、水沢こども園、盛岡市立桜城小学校、盛岡市立城南小学校、盛岡幼稚園、陸前高田市立気仙小学校）

〔関連事業〕

①特別講演会 [当日受付、一般対象] 聴講者 39 人

平成30年1月14日（日）13:30～15:00

講師 青木勝氏（柗吉徳顧問）「海を渡った人形大使～日米人形交流90周年～」

②お話しライブ「青い目のおともだち」 [当日受付、一般対象]

平成30年1月8日（月・祝） 1 回目/10:15～ 2 回目/13:00～ 聴講者計67人

出演 / 微将蓮Ren-Bisyo氏（本名 永野紀久子・お話しライブライター）

③天に響け 陸前高田 奇跡のオルガン演奏会 [当日受付、一般対象] 聴講者計91人

平成30年1月8日（月・祝） 1 回目/11:00～ 2 回目/14:00～

演奏/中村由利子氏 歌/菅野陽子氏 曲/

IV. in釜石〔特別出品〕

会期：平成30年2月16日（金）～18日（日）

会場：釜石市民ホール

会期中の入場者数：377名 ※実質公開日数3日

〔展示内容〕

ミス岩手（バーミングハム公立図書館）、青い目の人形（「スマダニエル・ヘンドレン」複製／原資料：陸前高田市立気仙小学校）

（キ）合同移動展 岩手県文化振興事業団プレゼンツ「文化・芸術が集うとき in 釜石市」

これまでに岩手県立博物館では、博物館から遠隔地に当たり来館機会に恵まれない地域を対象として、当館の貴重な所蔵品や開催地にゆかりのある所蔵品を展示・紹介する「岩手県立博物館移動展」を開催してきた。平成20年度からは、岩手県立埋蔵文化財センターとの合同展（岩手県立博物館移動展・埋蔵文化財展）という形態で実施され、さらに平成24年度からは（公財）岩手県文化振興事業団の4事業所（埋蔵文化財センター・岩手県立美術館・岩手県民会館・当館）が一堂に会し行う事業「岩手県文化振興事業団プレゼンツ」の一環として行われている。

今年度の移動展は、前年度同様、合同展であることを意識し、埋蔵文化財センター・当館の2事業所におけるそれぞれの展示資料を一つの会場スペースで展示した。これにより、各事業所がどのような資料を対象として扱い、研究・公開を行っているのかといったことから、一般向けにどのような教育普及事業を行っているのかといったことまでを伝えることができた。また、広く美しい釜石市民ホール（TETTO）という完成したばかりの会場で展示することができ、多くの来場者の方々に足を運んでいただいて、展示解説会の実施時にも混雑することなく多くの方々を会場内に案内することができた。

会期：平成30年2月16日（金）～2月18日（日） 3日間

会場：釜石市民ホール TETTO ホールB

タイトル：『合同展～平成29年度岩手県立博物館移動展・第38回埋蔵文化財展』

来場者数：377人

〔展示内容〕 展示総数 90点

（1）歴史部門：版画 釜石・尾崎白浜之図、釜石町鳥瞰図、釜石市街鳥瞰図、罫 9点、
拵 計13点

（2）民俗部門：天児と這子（布製）、横間の虫追いまつり人形（藁製）、電気やかん、
トースター、ゆで卵器、ハンドミキサー、かもめ印マジック洗濯器、電気アイロン、裁縫電化鋺、電気置きこたつ、暮しの手帖、
写真・釜石市内の街並み〔S30.11.15/1955〕、釜石市唐丹町の漁港〔S33.旧
1.15/1958〕など 計27点

（3）生物部門：動物剥製標本（ワモンアザラシ、イイズナ、アルビノのツキノワグマとその
子供、ツキノワグマの嬰兒、ハイイロオオカミ、ニホンジカ幼獣）、アオジ
（雄）・アオジ（雌）、オオジュリン、ハイイロウミツバメ、釜石の植物、釜
石の昆虫など 計21点

（4）地質部門：リンボク、植物化石、ウミユリ石灰岩、花崗閃緑岩（甲子）、花崗岩（栗
橋）、鉄鉱石、大理石、釜石石など 計29点

※ 特別展示 岩手鈴子（アメリカ・アラバマ州バーミングハム公立図書館所蔵）

スマダニエル・ヘンドレン（複製・原資料：陸前高田市立気仙小学校蔵）

〔関連事業〕

展示解説会 2月18日（日）13：30～14：10 参加者 25人

5.（2）教育普及活動

平成29年度の教育普及活動として34事業を展開した。講演会・講座としては、県博日曜講座、自然観察会、地質観察会、考古学セミナー、古文書入門講座を開催した。土曜・休日の子供向け事業では、9回目を迎えた「博物館まつり」をはじめとして、毎週日曜日に開催している「たいけん教室～みんなのためそう～」、第2・第3土曜・日曜日開催の「チャレンジ！はくぶつかん」等の事業を実施し、毎月第1土曜日には「ミュージアムシアター」を講堂にて上映した。この他、夏休み期間中の特別企画として「ワードパズル」「子ども向け定時解説」を行ない、冬休みにはクリスマスイベントとして「冬休みワクワク！ワークショップ」を「ミュージアムコンサート」と同日に開催した。また、2回目の開催となる「ナイトミュージアム」を8月に2日間にわたり実施した。なお「ミュージアムコンサート」は7月にも開催し、好評を得ている。毎年、国際博物館の日の関連イベントとして「県博バックヤードツアー」を開催し、これにも多くの方々にご参加いただいた。

学習支援や社会教育事業として、小中学校・県立学校・大学・幼稚園・各種団体等からの団体利用についても積極的に広報し、対応した。

ア. 開催事業

（ア）展示付帯事業

表5(2)-1 平成29年度開催事業

■学芸員による展示解説会（展覧会／定時）

延べ 372名

	期 日	曜日	講 師 等	演 題・イベント名ほか	参加人数
1	4月8日	土	原田祐参	テーマ展「絵画でたどる19世紀の岩手の風景」	16
2	4月22日	土	原田祐参	テーマ展「絵画でたどる19世紀の岩手の風景」	8
3	5月1日	月・祝	原田祐参	テーマ展「絵画でたどる19世紀の岩手の風景」	6
4	6月10日	土	金子昭彦	企画展「遮光器土偶の世界」	40
5	7月30日	日	金子昭彦	企画展「遮光器土偶の世界」	35
6	8月1日	火	金子昭彦	企画展「遮光器土偶の世界」（子ども向け）	33
7	8月6日	日	金子昭彦	企画展「遮光器土偶の世界」	25
8	8月11日	金・祝	金子昭彦	企画展「遮光器土偶の世界」（子ども向け）	22
9	10月14日	土	佐々木康裕	テーマ展「中世の南部氏と糠部」	30
10	11月3日	金・祝	佐々木康裕	テーマ展「中世の南部氏と糠部」	44
11	1月13日	土	川向富貴子	テーマ展「ひとのかたち」	36
12	2月18日	日	藺田貴弘	移動展「文化・芸術が集うとき in 釜石市」	25
13	3月3日	土	神庭信幸氏 他	地域展「明日につなぐ気仙のたからもの-津波で被災した陸前高田資料を中心に-」ギャラリートーク	15
14	3月10日	土	赤沼英男	地域展「明日につなぐ気仙のたからもの-津波で被災した陸前高田資料を中心に-」	18
15	3月24日	土	赤沼英男	地域展「明日につなぐ気仙のたからもの-津波で被災した陸前高田資料を中心に-」	19

■巡回展「海を越えた絆ーミス岩手と青い目の人形」

※民俗部門 [川向富貴子] 担当 延べ 8,368 名

	期 日	会 場	内 容 等	参加者数
1	平成 29 年 12 月 8 日 (金) ～10 日 (日)	陸前高田市 コミュニティホール	「ミス岩手」を「スマダニエル・ヘンドレン」とともに 展示	468
2	平成 29 年 12 月 12 日 (火) ～17 日 (日)	一関市博物館	一関市内の小学校所蔵の友情人形 4 体とともに「ミス 岩手」を展示	235
3	平成 30 年 1 月 8 日 (月・祝) ～3 月 22 日 (木)	当 館	友情人形全 18 体を「ミス岩手」とともに展示	7288
4	平成 30 年 2 月 16 日 (金) ～18 日 (土)	釜石市民ホール	事業団プレゼンツ	377

■巡回展関連事業

※民俗部門 [川向富貴子] 担当 延べ 272 名

(1) in 陸前高田

	期 日	講 師	演 題	参加人数	備 考
1	12 月 10 日 (日)	青木勝氏(株式会社吉徳顧問)・菅野祥一 郎氏(元陸前高田市立気仙小学校長)	ギャラリートーク	75	午前と午後の2回講演

(2) in 一関

	期 日	講 師	演 題	参加人数	備 考
1	1 月 8 日 (月・祝)	永野紀久子氏(お話しライブライター)	お話しライブ	67	午前と午後の2回講演
2	1 月 8 日 (月・祝)	中村由利子氏(作曲家・ピアニスト)、菅野 陽子氏(歌手)	オルガン演奏会	91	午前と午後の2回講演

(3) in 盛岡

	期 日	講 師	演 題	参加人数	備 考
1	2 月 4 日 (日)	青木勝氏(株式会社吉徳顧問)	特別講演会	39	

■特別講演会

※ 民俗部門 [小野寺俊彦] 担当

	期 日	講 師	演題・イベント名ほか	参加者数	備 考
1	3 月 18 日 (日)	河野和義氏(気仙町けんか七夕 祭り保存連合会名誉顧問)	ふるさとは負けないーけんか七 夕祭りに掛ける復興の願いー	28	

■解説員による定時解説

延べ 8,500 名

月	成立回数	参加者数	対応時間(分)
4月	10	29	775
5月	9	28	715
6月	14	39	1085
7月	13	51	905
8月	24	143	1105
9月	8	18	705
10月	11	31	1100
11月	8	21	675
12月	6	12	460
1月	9	60	355
2月	4	5	315
3月	5	12	305
合計	121	449	8500

※平成 25 年度 7 月より、原則として毎日実施している。

■解説員による依頼解説 (随時/常設)

延べ 804 名

事業名	実施日	参加者数	総合展示室					いわて文化史展示室			いわて自然史展示室		講師	団体数	
			地質	考古	歴史	民俗	現生・生物	考古	歴史	民俗	地質	生物			
解説	4月	学校等	18	1	1	1	1	1	0	0	0	0	1	解説員	
		一般	108	4	4	4	4	4	0	0	0	0	0		
	5月	学校等	1	1	1	0	1	1	0	0	0	1	1		
		一般	7	6	6	6	6	6	1	1	1	1	1		
	6月	学校等	8	7	4	4	6	5	0	0	1	1	1		
		一般	13	10	11	11	9	9	0	1	2	2	2		
	7月	学校等	4	4	3	3	2	2	0	0	0	0	0		
		一般	11	6	8	7	6	7	1	0	1	0	1		
	8月	学校等	6	2	2	3	3	2	0	0	3	0	0		
		一般	12	8	8	7	9	7	0	0	3	4	3		
	9月	学校等	7	3	2	1	3	0	0	0	5	1	1		
		一般	6	4	4	5	4	4	0	0	0	1	1		
	10月	学校等	2	1	1	1	1	1	0	0	2	1	1		
		一般	9	7	7	7	7	7	1	1	1	1	1		
	11月	学校等	8	2	3	4	2	2	1	2	4	0	0		
		一般	5	5	5	5	5	5	0	0	0	1	1		
	12月	学校等	3	1	1	1	3	1	0	0	2	0	0		
		一般	6	4	4	4	3	3	0	0	1	1	1		
	1月	学校等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		一般	11	7	7	7	7	8	2	1	3	5	6		
	2月	学校等	8	2	2	2	5	1	0	0	5	0	0		
		一般	6	4	4	5	5	4	1	1	4	1	1		
	3月	学校等	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0		
		一般	3	2	1	2	2	2	0	0	0	0	0		
	計	262	91	89	90	94	82	7	7	38	21	23			

■チャレンジ!はくぶつかん (全 52 回)

※学芸第三課 [近藤良子] 担当

延べ 1549 名

期日	当番	テーマ	参加者数	月別参加者総数	備考
1	作成: 望月貴史 当番: 望月貴史、川向富貴子	変わる	45	126	大人 33
2			51		大人 54
3			17		大人 13
4			13		大人 11
5	作成: 近藤良子 当番: 近藤良子、佐々木康裕	金	27	74	大人 18
6			19		大人 10
7			5		大人 5
8			23		大人 15
9	作成: 渡辺修二 当番: 渡辺修二、望月貴史	光	23	77	大人 19
10			27		大人 33
11			13		大人 8
12			14		大人 12

	期 日		当 番	テーマ	参加者数	月別参加者 総数	備 考
13	7月8日	土	作成：原田祐参 当番：藤井忠志	土	19	145	大人 14
14	7月9日	日			23		大人 16
15	7月15日	土			9		大人 10
16	7月16日	日			54		大人 36
17	7月17日	月・祝			40		大人 24
18	8月12日	土	作成：川向富貴子 当番：川向富貴子、望月貴史	陸	47	147	大人 37
19	8月13日	日			29		大人 31
20	8月14日	月			23		大人 25
21	8月19日	土			26		大人 27
22	8月20日	日			22		大人 13
23	9月16日	土	作成：丸山浩治 当番：丸山浩治、川向富貴子	長い	9	111	大人 7
24	9月17日	日			35		大人 18
25	9月18日	月・祝			20		大人 26
26	9月23日	土			21		大人 11
27	9月24日	日			26		大人 13
28	10月14日	土	作成：藤井忠志 当番：藺田貴弘、佐々木康裕	南	31	129	大人 14
29	10月15日	日			39		大人 17
30	10月21日	土			20		大人 8
31	10月22日	日			39		大人 18
32	11月11日	土	作成：鈴木まほろ 当番：鈴木まほろ、近藤良子	七・ 五・三	25	127	大人 21
33	11月12日	日			38		大人 28
34	11月18日	土			27		大人 13
35	11月19日	日			37		大人 27
36	12月9日	土	作成：藺田貴弘 当番：藺田貴弘、藤井忠志	大	15	156	大人 7
37	12月10日	日			53		大人 25
38	12月16日	土			29		大人 12
39	12月17日	日			59		大人 25
40	1月13日	土	作成：佐々木康裕 当番：佐々木康裕、濱田宏	犬	28	151	大人 12
41	1月14日	日			41		大人 17
42	1月20日	土			23		大人 12
43	1月21日	日			59		大人 22
44	2月10日	土	作成：濱田宏 当番：濱田宏、藤井忠志	気仙	24	130	大人 11
45	2月11日	日			30		大人 13
46	2月12日	月・祝			33		大人 14
47	2月17日	土			12		大人 5
48	2月18日	日			31		大人 10
49	3月10日	土	作成：武田麻紀子 当番：武田麻紀子、近藤良子	花	58	176	大人 48
50	3月11日	日			38		大人 74
51	3月17日	土			37		大人 32
52	3月18日	日			43		大人 41

※当館学芸員が毎月作成するワークシートを配布（4月・7月・8月は「かんたんコース」と2種作成）。今年度は13名の最優秀チャレンジャー（全12回に参加した皆勤賞、6回目1名、4回目2名、3回目3名、2回目1名、1回目6名）が誕生した。

■ガマ・ワラ細工の実演

※民俗部門 [近藤良子] 担当

延べ 62 名

	期 日		講 師	演題・イベント名ほか	参加者数	備 考
1	5月14日	日	阿部茂巳	わら細工実演・体験	16	
2	6月11日	日			20	
3	7月9日	日			21	
4	9月17日	日			5	
5	10月8日	日			—	都合により休止

■夏休みぞうり作り体験

※学芸第三課 [近藤良子] 担当

延べ 16 名

	期 日		講 師	演題・イベント名ほか	参加者数	備 考
1	8月6日	日	阿部茂巳	ぞうり作り体験教室	16	体験・見学

■民家での写真展

※学芸第三課 [近藤良子] 担当

延べ 305 名

	期 日		講 師	演題・イベント名ほか	参加者数	備 考
1	8月7日	月	後藤靖行	いわての街・里・人	8	
2	8月8日	火			13	
3	8月9日	水			26	
4	8月10日	木			37	
5	8月11日	金			67	
6	8月12日	土			87	
7	8月13日	日			67	

■「ワードパズル」

※学芸第三課 [川向富貴子] 担当

延べ 475 名

	期 日	シート作成者	テ ー マ	参加者数	備 考
1	7月20日～ 8月11日	作成:川向富貴子	かんたん	123	
			ふつう	125	
			むずかしい	94	
2	12月23日～ 1月12日	作成:川向富貴子	かんたん	51	
			ふつう	41	
			むずかしい	41	

※当館学芸員作成のワードパズルの配布

■ナイトミュージアム～くらのやみの中から語りかける資料を探る～

※学芸第三課 [川向富貴子] 担当

延べ 54 名

	期 日	時間	講 師 ・ 運 営	参加者数	備 考
1	8月10日	木 17:30 ～ 18:30	展示解説: 山岸千人(地質)、渡辺修二(生物)、小山内透 (考古)、武田麻紀子(歴史)、小野寺俊彦(民俗) ツアーガイド: 藤井忠志・近藤良子・望月貴史・濱田宏 サポート: 鈴木まほろ・協栄テックス 連絡調整: 川向富貴子	29	1名キャンセル
2	8月11日	金祝 17:30 ～ 18:30		25	7名キャンセル

※平成 28 年度から行っている事業で、29 年度は定員を 10 名程度増やして実施した。

■展示資料解説「けんぱくものしりシート」

※学芸第三課 [川向富貴子・解説員] 担当

	発 行 日	シ ー ト 作 成 者	テ ー マ
1	4月1日	中村紫保	わら細工
2	5月6日	那須優香子	モリアオガエル
3	6月3日	藤嶋マミ	万華鏡
4	7月1日	草島千香子	デイノニクス
5	8月5日	石川依子	金森遺跡の骨器
6	9月16日	三河綾乃	明治時代の盛岡駅
7	10月7日	畠香奈子	水がめ
8	11月4日	齋藤菜穂美	アナグマ
9	12月2日	伊藤敦子	おはじき
10	1月6日	田村優子	岩手県の石
11	2月3日	中村紫保	蕨手刀
12	3月3日	小田嶋麻記子	盛岡藩の参勤交代図巻

※当館解説員が毎月作成している展示資料解説カードの配布。

■トピック展「ホネの動物園」関連イベント
 組み立て体験・展示解説会・写真撮影会

※学芸第三課 [渡辺修二・望月貴史] 担当 延べ 494 名

	期 日	イ ベ ント 名	講 師	参加人数	備 考	
1	4月1日	土	組み立て体験	望月貴史・渡辺修二	19	子ども12
2	4月1日	土	展示解説会	望月貴史	17	子ども12
3	4月1日	土	写真撮影会	望月貴史・渡辺修二	115	子ども58
4	4月2日	日	展示解説会	望月貴史	23	
5	4月2日	日	写真撮影会	望月貴史	164	
6	4月8日	土	展示解説会	望月貴史	7	子ども4
7	4月8日	土	写真撮影会	望月貴史・小野寺俊彦	43	
8	4月9日	日	展示解説会	望月貴史	17	子ども8
9	4月9日	日	写真撮影会	望月貴史・小野寺俊彦	89	

(イ)教育普及事業

表5(2)-2 平成29年度教育普及事業

■県博日曜講座 [全23回]

※学芸第三課 [濱田宏] 担当 延べ 1382 名

	期 日	講 師	テ ー マ	参加者数	備 考	
1	4月9日	日	渡辺修二	魅力的な八本脚の生き物・蜘蛛	49	
2	4月23日	日	菅原孝平 (二戸市立二戸歴史民俗資料館長)	徒歩の旅から汽車の旅へ-福岡停車場誕生物語-	101	テーマ展関連講座
3	5月14日	日	望月貴史	生命史をひも解く-デボン紀・石炭紀	51	
4	5月28日	日	原田祐参	盛岡藩の武士たち	82	
5	6月11日	日	近藤良子	祈りに見る動物たち	41	
6	6月25日	日	金子昭彦	遮光器土偶の使い方	136	企画展関連講座
7	7月9日	日	丸山浩治	雨滝遺跡と雨滝論争	47	
8	7月23日	日	高木晃 (公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター調査課長補佐)	盛岡川目A遺跡・600点の土偶	56	企画展関連講座
9	8月13日	日	濱田宏	考古資料から見た塩づくり	19	
10	8月27日	日	鈴木まほろ	岩手の植物相はどこまで分かったか	33	
11	9月24日	日	小田桐睦弥 (花巻市博物館学芸員)	岩手の災害と歴史	29	
12	10月8日	日	佐々木康裕	中世の南部氏と糠部について考える	130	テーマ展関連講座 ※友の会話のサロンを兼ねる
13	10月22日	日	小山内透	発掘された岩手の中世城館	37	
14	11月12日	日	布施和洋 (南部町教育委員会社会教育課史跡対策室総括主査)	三戸南部氏成立の謎-掘り起こされた三戸南部氏の居城「聖寿寺館跡」-	150	テーマ展関連講座
15	11月26日	日	藤井忠志・斉藤友彦 (滝沢森林公園ネイチャーセンター所長)	岩手の鳥相を語る~ネイチャーセンターと日誌~	50	
16	12月10日	日	山岸千人	ドラゴンアイ(八幡平・鏡沼)のでき方を考える	84	※友の会話のサロンを兼ねる
17	12月24日	日	藺田貴弘	岩手の往来	42	
18	1月14日	日	高橋信雄 (花巻市博物館館長)	花巻人形の源流を探る-ひとがたから雛人形へ-	42	テーマ展関連講座
19	1月28日	日	川向富貴子	ひとのかたち~「ひとがた」と「にんぎょう」-	45	テーマ展関連講座
20	2月11日	日	武田麻紀子	作人館と求我社の人々~自我の確立を求めて~	33	
21	2月25日	日	赤沼英男	被災資料が語る海の交流	27	地域展関連講座

期 日		講 師	テ ー マ	参加者数	備 考	
22	3月11日	日	半田昌之 ¹ 、神庭信幸 ² 、土屋裕子 ³ 、水村伸行 ⁴ 、長谷川賢二 ⁵ 、宮川治代 ⁶ 、デニー・ギュリック ⁷ 、フランス・ギュリック ⁷ 、本多文人 ⁸ 、中村由利子 ⁹ 、赤沼英男 ¹⁰ 、鈴木まほろ ¹⁰ (¹ 公益財団法人日本博物館協会、 ² 前東京国立博物館、 ³ 東京国立博物館、 ⁴ 福井県立歴史博物館、 ⁵ 徳島県立博物館、 ⁶ 前米国バーミングハム公立図書館、 ⁷ 米国メリーランド大学、 ⁸ 陸前高田市立博物館、 ⁹ 作曲家・ピアニスト、 ¹⁰ 当館学芸員)	平成 29 年度大津波プロジェクト主催支援シンポジウム「連綿と続く被災文化財再生の歩みー博物館復興をめざしてー」	72	大津波プロジェクト主催支援
23	3月25日	日	小野寺俊彦	「どげ」って何ですか-気仙地方の婚礼習俗-	22	地域展開関連講座

当館学芸員もしくは外部講師による講演会。

■文化講演会・日本再生医療学会 市民講座「再生医療のいま」
※生物部門 [渡辺修二] 担当 延べ 30 名

期 日		講 師	テ ー マ	備 考	
1	11月5日	日	青井貴之氏 (神戸大学大学院) 八代嘉美氏 (京都大学 iPS 細胞研究所)	これからの医療のこと、わかりやすくお伝えします 1部：講演会 2部：サイエンストーク	日本再生医療学会 岩手県立博物館主催

■第3回北上川水源地域セミナー
※北上川ダム統合管理事務所共催/学芸第三課 [濱田宏] 担当 延べ 30 名

期 日		講 師	演 題	備 考	
1	1月27日	土	武田麻紀子	死の川からの再生-松尾鉱山の光と影 北上川の今と昔-	

※【平成 25 年度～】北上川ダム統合管理事務所および北上川「流域圏」フォーラム実行委員会との共催によるセミナー。当館は会場を提供し当日の運営補助を担当、職員が部門持ち回りで講師を務めている。(第1回：地質部門、第2回：民俗部門 第3回：歴史部門 第4回：生物部門 第5回：考古)。

■岩手県立博物館友の会話のサロン ※学芸第二課 [小野寺俊彦] 担当 延べ 53 名

期 日		講 師	題 題	参加人数	備 考
1	5月13日	土	佐々木勝宏氏 (杜陵高校教諭)	評価のさまざまなお殿様	28
2	2月18日	日	阿部陽子氏 (版画家・登山家)	いわて 魅惑の山々	25

■国際博物館の日記念事業 県博バックヤードツアー
※学芸第三課 [望月貴史] 担当 延べ 31 名

期 日		講 師	概 要	参加人数	備 考
1	5月21日	日	当館学芸員	文化財レスキューコース 2回 (約 80 分)	15
歴史コース (約 60 分)				7	
自然コース (約 60 分)				9	

※【平成 16 年度～】5月18日の国際博物館の日記念事業として実施。文化財レスキューコースを新設。

■古文書入門講座 [全6回] ※歴史部門 [原田祐参] 担当 延べ97名

	期 日		講 師	テ キ ス ト	参加者数	備 考
1	6月3日	土	佐々木康裕	古文書の「いろは」	18	事前申込制
2	6月4日	日	原田祐参	「寺請状之事」ほか	17	
3	6月10日	土	原田祐参	書館定	16	
4	6月11日	日	原田祐参	子供早学問	14	
5	6月17日	土	佐々木康裕	平泉往来	16	
6	6月18日	日	佐々木康裕	平泉往来	16	

■イワテミュージアムコンサート ※学芸第三課 [望月貴史] 担当 延べ263名

	期 日		出 演	参加者数	備 考
1	7月15日	土	松園シルバーダックスによる合唱コンサート	68	
2	12月23日	土	レヴァンテ・マンドリン・アンサンブルによる「親子で楽しめるクリスマス音楽会」	195	

※事業化して2回目の開催であったが、昨年度以上の参加者を得て好評を博した。

■考古学セミナー ※考古部門 [金子昭彦] 担当 延べ155名

	期 日		講 師 等	演題・イベント名ほか	参加者数	備 考
1	7月16日	日	小野美代子(元公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団)	土偶シンポジウム「土偶は壊す?壊さない?」	140	企画展関連
2	10月14日	土	中村良幸氏(花巻市総合文化財センター所長)	講演会:土偶の里、花巻・北上~土偶多出遺跡の謎に迫る~	15	企画展関連

■自然観察会 [全2回] ※生物部門 [鈴木まほろ・渡辺修二] 担当 延べ32名

	期 日		講 師 等	テ ー マ	参加者数	備 考
1	7月29日	土	千葉武勝氏(研究協力員)	第73回自然観察会:夏の自然観察会・鞍掛山山麓	8	
2	9月23日	土	千葉武勝氏(研究協力員)	第74回自然観察会:稲庭岳~秋の山を楽しむ~	24	

■地質観察会 [全2回] ※地質部門 [山岸千人・望月貴史] 担当 延べ65名

	期 日		講 師 等	テ ー マ	参加者数	備 考
1	7月2日	日	望月貴史(学芸員)	第73回地質観察会:三陸ジオパークの白亜紀の地層を読む	34	
2	10月8日	日	大石雅之(研究協力員)	第74回地質観察会:平泉~泉の仕組みを読み解く	31	

■博物館館園実習 [全7日] ※学芸第三課 [川向富貴子] 担当 延べ70名

	期 日		講 師	実 習 内 容	参加者数	備 考
1	8月17日	木	高橋廣至 川向富貴子 藺田貴弘	実習にあたって	10	
2			濱田宏 川向富貴子	岩手県立博物館概要説明及び施設見学		収蔵庫等の見学
3			小山内透	講義「地方博物館の使命と役割」		
4			花山智行	講義「管理業務の実務(概説)」		

期 日		講 師	実 習 内 容	参加者数	備 考	
5	8月18日	金	小野寺俊彦 赤沼英男 丸山浩治 鈴木まほろ	10		
6			伊藤敦子			展示解説の実務（解説会聴講を含む講義）
7	8月19日	土	金子昭彦	10	ケース・演 示 具のメンテナ ンス レプリカ型の 整理	
8			近藤良子 川向富貴子 望月貴史			展示・管理の実務
9			山岸千人 望月貴史			展示・資料整理の実務（地質）
10	8月20日	日	渡辺修二	10	「博物館まつ り」広報印刷 物発送仕分け たいけん教室 の運営 「博物館まつ り」広報印刷 物発送仕分け	
11			望月貴史 藺田貴弘 川向富貴子 濱田宏			教育普及・事業広報の実務
12			解説員 川向富貴子			普及事業の実務
13			望月貴史 藺田貴弘 川向富貴子 濱田宏 原田祐参 山岸千人			教育普及・事業広報の実務
14	8月22日	火	鈴木まほろ	10	くん蒸準備作 業ほか 展示プロジェクト	
15			鈴木まほろ 渡辺修二 藤井忠志			展示・資料整理の実務（生物）
16			藤井忠志			展示の実務（概説）
17	8月23日	水	小野寺俊彦 近藤良子 川向富貴子	10	資料保管材の 講義と製作 展示替え	
18			藺田貴弘 武田麻紀子 原田祐参 佐々木康裕			展示・資料整理の実務（歴史）
19	8月25日	木	近藤良子 小野寺俊彦	10	民家清掃 企画展撤収作 業 各種ワークシ ートの作成 展示ケースの 確認	
20			濱田宏			展示・管理の実務（考古）
21			近藤良子 川向富貴子			教育普及の実務
22			近藤良子 川向富貴子			展示・管理の実務
23			濱田宏			実習終了にあたって

※今年度は次の大学から実習生を受け入れた。岩手大学（1名）、岩手大学大学院（1名）、淑徳大学（1名）、東海大学（1名）、弘前大学（1名）、盛岡大学（4名）、八洲学園大学（1名）

■文化財等取扱講習会 [全3日]

※岩手県博物館等連絡協議会共催／学芸第二課 [小野寺俊彦] ほか担当 延べ69名

期 日	講 師	演 題	参加者数	備 考	
1月31日	丸山浩治	文化財等資料管理（文化財科学）	23		
	原田祐参 ほか	文化財等資料取扱基礎（歴史）			
	原田祐参 ほか	文化財等資料取扱基礎（古美術）			
	小野寺俊彦	文化財等資料取扱基礎（民俗）			
	金子昭彦	文化財等資料取扱基礎（考古）			
	鈴木まほろ ほか	文化財等資料取扱基礎（生物・地質）			
2月1日	木	佐々木康裕	23		
		ヤマトロジスティクス			文化財等取扱実技（資料梱包）
		みどり光学社			文化財等取扱実技（写真撮影）
2月2日	金	金子昭彦 ほか	23		
		学芸部・総務部			文化財の活用 意見交換会

※文化財の取扱いに習熟した各部門の学芸員（小野寺学芸第二課長〔民俗〕、赤沼英男・丸山浩治〔文化財科学〕、望月貴史〔地質〕、鈴木まほろ〔生物〕、金子昭彦〔考古〕、園田貴弘・原田祐参〔歴史〕）が企画立案した。当事業は昨年度から有料化して実施している。

■教員のための博物館の日 ※学芸第一課〔渡辺修二〕担当 延べ30名

期 日		講 師	内 容	参加人数	備 考	
1	12月24日	日	望月貴史	アンモナイトのストラップづくり	30	参加教員の子弟 13名
			鈴木まほろ	DNAに基づく新しい植物の分類について		
			鈴木まほろ	授業に役立つ生物標本のいろいろ		
			渡辺修二	骨からわかる生物の進化		
			渡辺修二	自然史展示ガイドツアー		
			岩崎誠司・浜野哲也 (国立科学博物館)	骨ほねウォッチング		
解説員	ワクワク！こどもツアー					

※平成28年度から実施。学校と博物館の連携を進めるため、昨年度から実施している。

■第9回岩手県立博物館まつり ※学芸第三課〔望月貴史〕担当 延べ3259名

期 日	総 括	参加者総数	備 考
10月1日 日	望月貴史	3259	岩手県文化振興事業団自主事業

※平成20年度～実施。平成29年度は盛岡少年刑務所主催の盛岡矯正展と共催で行った。当館及び事業団職員、ボランティア36名（友の会18名、愛護協会2名、学生13名、教員研修3名）により屋内外で以下のプログラムを実施した。

【屋内】まがたまづくり～おおむかしのアクセサリ～〔喫茶ひだまり〕、かせきのレプリカづくり～カラフルアンモナイト～〔教室〕、スライムどけいづくり〔実技室〕、へんしん！～むかしのコスチューム～〔体験学習室〕、まつりげんてい！かんバッジづくり〔グラントホール〕、チャレンジ！はくぶつかん〔展示室内〕、修復作業見学〔修復館〕

【屋外】たのしい!!むかしあそび〔曲がり屋〕、たんけん！がんせきえん・しょくぶつえん〔岩石園・植物園〕、民俗芸能公演「葛巻神楽」〔芝生広場〕、スタンプラリー〔芝生広場・監獄記念館（盛岡少年刑務所敷地内）〕

■たいけん教室～みんなでためそう～〔全51回〕 ※学芸第三課〔解説員〕 延べ2,048名

期 日	講 師	テ ー マ	参加者数	内 訳
1	4月2日 日	解説員	スライムであそぼう	47 子ども25名
2	4月9日 日	解説員	手づくり万華鏡	45 子ども25名
3	4月16日 日	解説員	オリジナル卵をつくろう	47 子ども27名
4	4月23日 日	解説員	化石のレプリカ	47 子ども24名
5	4月30日 日	解説員	こいのぼりづくり	42 子ども21名
6	5月7日 日	解説員	こはくの玉づくり	51 子ども26名
7	5月14日 日	解説員	まが玉アクセサリ	46 子ども24名
8	5月21日 日	解説員	ばねのキツツキおもちゃ	36 子ども19名
9	5月28日 日	解説員	チャグチャグ馬コづくり	22 子ども11名
10	6月4日 日	解説員	チャグチャグ馬コづくり	24 子ども9名
11	6月11日 日	解説員	草花のそめもの	44 子ども24名
12	6月18日 日	解説員	石から絵の具をつくろう	37 子ども25名
13	6月25日 日	解説員	土偶づくり	45 子ども26名
14	7月2日 日	解説員	3Dメガネで万華鏡	48 子ども23名
15	7月9日 日	解説員	化石のレプリカ	50 子ども24名
16	7月16日 日	解説員	砂絵	43 子ども24名
17	7月23日 日	解説員	スライムであそぼう	41 子ども20名
18	7月23日 日	解説員	スライムであそぼう	47 子ども25名
19	7月30日 日	解説員	ちぎり絵のうちわ	45 子ども23名
20	7月30日 日	解説員	ちぎり絵のうちわ	44 子ども23名
21	8月6日 日	解説員	こはくの玉づくり	45 子ども25名
22	8月6日 日	解説員	こはくの玉づくり	47 子ども24名
23	8月13日 日	解説員	天然石のフォトフレーム	49 子ども25名

	期 日		講 師	テ ー マ	参加者数	内 訳
24	8月20日	日	解説員	土器づくり	52	子ども26名
25	8月27日	日	解説員	アンモナイトの消しゴムづくり	41	子ども22名
26	9月17日	日	解説員	まが玉のアクセサリ	15	子ども8名
27	9月24日	日	解説員	手作り万華鏡	13	子ども7名
28	10月8日	日	解説員	石のオリジナルはんこ	45	子ども25名
29	10月15日	日	解説員	ウォータードームづくり	44	子ども25名
30	10月22日	日	解説員	葉っぱのカラフルカード	24	子ども14名
31	10月29日	日	解説員	砂絵	37	子ども19名
32	11月5日	日	解説員	化石のレプリカ	45	子ども25名
33	11月12日	日	解説員	手作り万華鏡	41	子ども24名
34	11月19日	日	解説員	松ぼっくりのX' mas ツリー	46	子ども25名
35	11月26日	日	解説員	松ぼっくりのX' mas ツリー	46	子ども24名
36	12月3日	日	解説員	松ぼっくりのX' mas ツリー	36	子ども22名
37	12月10日	日	解説員	まゆで干支(戌)づくり	41	子ども25名
38	12月17日	日	解説員	松ぼっくりの正月かざり	40	子ども20名
39	12月24日	日	解説員	まゆで干支(戌)づくり	41	子ども25名
40	1月7日	日	解説員	みずきだんご	34	子ども18名
41	1月14日	日	解説員	たこづくり	46	子ども25名
42	1月21日	日	解説員	こはくの玉づくり	46	子ども25名
43	1月28日	日	解説員	化石のレプリカ	25	子ども13名
44	2月4日	日	解説員	オリジナル卵をつくろう	32	子ども18名
45	2月11日	日	解説員	スライムであそぼう	47	子ども25名
46	2月18日	日	解説員	おひなさまづくり	19	子ども9名
47	2月25日	日	解説員	おひなさまづくり	30	子ども17名
48	3月4日	日	解説員	石のオリジナルはんこ	48	子ども25名
49	3月11日	日	解説員	ほのぼのあかり	45	子ども22名
50	3月18日	日	解説員	天然石のフォトフレーム	48	子ども23名
51	3月25日	日	解説員	3Dメガネで万華鏡	44	子ども24名

※【昭和56年度～】主に当館解説員による小学生対象のワークショップ。定員はプログラムごとに20～30名の範囲内で設定。児童生徒利活用促進のため、夏季休業期間中のプログラムを午前午後の2回実施した。昨年度から材料代を参加者負担としている。

■冬のワクワク！ワークショップ ※学芸第三課 [近藤良子・解説員] 担当 延べ225名

	期 日		講 師	内 容	参加者数	備 考
1	12月23日	土	解説員	化石のレプリカ	120	子ども120名、保護者105名

※【平成24年度～】当館解説員による幼児～小学生向けワークショップ。化石のレプリカはアンモナイトと恐竜の歯の2種類を用意した。

■冬の写生会 ※総務課 [石黒亜季子] 担当 延べ2540名

	期 日		概 要	参加者数	備 考
1	12/16～1/14		展示資料や岩手山を描く	49	
2	1/20～2/12		作品の展示	2491	見学者

※【平成18年度～】館内からの景色やマメンキサウルス等の展示資料を描いた作品を募集。

■県博出前講座 ※学芸第三課 [望月貴史] 担当 延べ563名

	期 日		派遣職員	依 頼 者	演題・イベント名ほか	参加者数	備 考
1	6月10日	土	渡辺修二	奥州市立伊出小学校PTA	岩手の自然について	27名	
2	7月26日	水	渡辺修二	コミュニティ広場すまいる	夏休み自由研究対応・昆虫少年育成	28名	
3	8月4日	金	鈴木まほろ 渡辺修二	奥州市立水沢南中学校科学部	フィールドワークと博物館の見学	20名	

	期 日		派遣職員	依 頼 者	演題・イベント名ほか	参加者数	備 考
4	8月25日	金	渡辺修二	盛岡市立太田小学校	総合学習「水は宝物」水に棲む生き物～身近な環境を考えよう	14名	
5	9月3日	日	望月貴史	公益社団法人日本アイソトープ協会	古生代の大量絶滅と回復-進化の影と光-	43名	
6	10月7日	土	望月貴史	株式会社エムシーエス生涯学習センター	いわてけんのかせきとれきし	37名	
7	11月7日	火	小野寺俊彦	盛岡中央公民館	ニコニコシニア講座 南部絵暦	20名	
8	11月20日	月	金子昭彦	岩手県立盛岡南高等学校	土偶の使い方	29名	
9	11月28日	火	原田祐参	岩手県立千厩高等学校	旅の歴史～江戸時代から現代まで～	149名	
10	11月29日	水	近藤良子 小野寺俊彦	盛岡市立大新小学校	昔の暮らしや年中行事を知ろう	96名	
11	1月30日	火	近藤良子 小野寺俊彦	紫波町立赤石小学校	昔の暮らし	65名	
12	2月9日	金	近藤良子 小野寺俊彦	盛岡市立北松園小学校	さぐってみよう昔の暮らし	35名	

※当館が児童生徒対象事業を実施する教育機関に限り講師派遣に係る実費を負担したのもの

■ミュージアムシアター [全11回]

※学芸第三課 [藺田貴弘] 担当 延べ382名

	期 日		運 営	内 容	参加人数	備 考
1	4月8日	土	映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会 運営：近藤、佐々木	①ヘレンと共に～アニーサリバン～ ②マザーテレサ ③六千人のピザ ④うぐいすひめ ⑤花さき山	33	子ども17 大人16
2	5月6日	土	映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会 運営：望月、丸山	岩手の輝き Light Of Iwate	38	
3	6月3日	土	映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会 運営：濱田、川向	奥様は魔女(日本語吹き替え)	11	子ども3 大人8
4	7月1日	土	映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会 運営：藤井、佐々木	カッパの三平	13	子ども3 大人10
5	8月5日	土	映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会 運営：藺田・川向	小さな世界はワンダーランド Vol.1 (日本語吹き替え)	7	子ども3 大人4
6	10月7日	土	映写：中央地域視聴覚ライブラリー 運営：濱田	晩春	21	大人20
7	11月4日	土	映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会 運営：近藤、望月	大いなる旅路	47	子ども1 大人46
8	12月2日	土	映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会 運営：藤井、望月	①クリスマスキャロル ②チップとデール ③リスの山小屋大作戦	74	子ども48 大人26
9	1月6日	土	映写：中央地域視聴覚ライブラリー 運営：藺田	①十二支のはじまり ②杜子春 ③こぶとりじいさん ④貧乏神と福の神 ⑤ぶんぶくちやがま	50	子ども33 大人17
10	2月3日	土	映写：中央地域視聴覚ライブラリー 運営：望月	アテルイ	23	子ども6 大人17
11	3月10日	土	映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会 運営：川向	①ぼくはすぐ逃げたんだ、東日本大震災から学んだこと ②むむし村の防災訓練 ③手袋を買いに ④大造じいさんとガン ⑤たぬきの糸車	55	子ども28 大人27

※【平成14年度～】盛岡教育事務所中央地域視聴覚ライブラリーとの共催による映画会。映写は16ミリ映写機操作技術講習会修了証を有するライブラリー映写ボランティア「シネマ友の会」が担当した。

(ウ) 講演会・講座に係る職員派遣

表5(2)-3 講演会・講座に係る職員派遣

※学芸第三課 [藤井忠志] 担当 延べ882人

	期 日		派遣職員	依 頼 者	演題・イベント名ほか	参加者数	備 考
1	6月21日	水	鈴木まほろ 渡辺修二	金ヶ崎町	金ヶ崎町議会町政調査会現地調査	15名	金ヶ崎町内
2	6月25日	日	鈴木まほろ	大船渡市立博物館	植物観察会	21名	碓石海岸
3	7月9日	日	鈴木まほろ	住田町教育委員会	「めざせ！森の達人」講座	30名	種山森林公園
4	7月9日	日	近藤良子	長谷寺を守り保存する委員会	長谷寺の絵馬群について	57名	長谷堂公民館
5	7月13日	木	原田祐参	盛岡市中央公民館	盛岡藩の歴史を知ろう	14名	盛岡市中央公民館
6	7月31日～ 8月3日	月～ 木	赤沼英男 鈴木まほろ	大津波プロジェクト	第1回支援ワークショップ	55名	陸前高田市立博物館
7	8月6日	日	渡辺修二	たきざわ環境パートナー会議	いきもの探偵団「キッズ観察会」	15名	滝沢市穴口
8	8月23日	水	渡辺修二	盛岡市立高等学校	総合的な学習の時間 「岩泉被災地から学ぶ防災教育」 龍泉洞復興教育講話	300名	岩泉町公民館
9	9月16日	土	渡辺修二	金ヶ崎町	生物多様性かねがさき地域戦略推進事業「カワシンジュガイ観察会」	20名	金ヶ崎町聖徳堰
10	10月8日	日	鈴木まほろ	日本文化財科学会	公開講演会「遺跡に探る災害史と被災文化遺産の継承」 「被災文化遺産の安定化処理と継承-植物標本を中心として-」	80名	大阪市立自然史博物館
11	10月13日	金	赤沼英男	大津波プロジェクト	第1回ワークショップ	36名	常総市役所
12	10月22日	日	丸山浩治	日本考古学協会	日本考古学協会2017年宮崎大会 火山灰考古学の新展開-火山噴火罹災遺跡からの視点- 「十和田平安噴火前後の遺跡動態」	50名	宮崎公立大学
13	11月7日	火	渡辺修二	岩手県盛岡広域振興局保健福祉環境部	実践！雫石川流域の森・里・川を守る取組み「りばーくん」と考えるふるさとの環境 「流域の身近な生物について」	50名	ビックルーフ滝沢
14	11月18日	土	鈴木まほろ	久慈市ガイドの会	久慈市民ガイド養成講座「久慈市周辺の植物と植生について（基本編）」	7名	久慈市役所
15	1月14日	日	赤沼英男 鈴木まほろ	大津波プロジェクト	第2回ワークショップ	28名	徳島県立博物館
16	1月22日	月	鈴木まほろ	三陸ジオパーク推進協議会	認定ガイド認定講座	15名	大船渡市商工会議所
17	1月26日	金	川向富貴子	NPO 善隣館	ミス岩手と青い目の人形	19名	盛岡市善隣館
18	2月28日	水	渡辺修二	岩泉町	龍泉洞セミナー「龍泉洞と身近な川のはなし～水源・水害・洞穴の生きものたち～」	48名	岩泉町役場分庁舎
19	3月16日	金	赤沼英男	大津波プロジェクト	第3回ワークショップ	22名	新潟県歴史博物館

※依頼者が講師派遣に係る実費を負担したもの。または共同プロジェクトとして実施したもの。

イ. 学校教育との連携

(ア) 博物館展示活動を活用した学習利用の受け入れ

今年度の教育機関の来館状況は、下記の通りである。合計で100校（昨年97校）、3,667人（昨年3,751人）が来館した。学習利用での来館者数は前年度とほぼ同様である。また、来館した施設数ベースでみると前年度を若干ながら上回った。来館施設数が横ばいないしは増加する一方で来館者数が微減となっている要因としては、少子高齢化の進展による全国的な児童生徒数の減少傾向との相関関係があるのではないかと推測される。

従前当館では、出前講座や教材貸出といった児童生徒が直接来館しなくても利用できるサービスの充実などに努めてきている。その結果、来館者数は横ばいないし微減である一方、当館のサービスの利用者数は確実に増加していると解することもできる。また、今年度も県内外の学校団体に対する広報活動の充実など、学校団体を館内に呼び込むための施策を継続的に行ってきており、そのことが数値の下げ止まりに一定の効果を発揮しているとも考えられる。

表5(2)-4 平成29年度学校種別学習利用状況一覧

【小学校】

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計
1	5月25日	宮城県	小	名取市立那智が丘小学校	修学旅行	4	39	43
2	6月9日	岩手県	小	盛岡市立北厨川小学校	社会科	3	59	62
3	6月16日	岩手県	小	一関市立涌津小学校	修学旅行	3	16	19
4	6月16日	宮城県	小	気仙沼市立九条小学校	修学旅行	5	45	50
5	6月20日	岩手県	小	盛岡市立東松園小学校	総合的な学習	3	49	52
6	6月23日	岩手県	小	宮古市立山口小学校	校外学習	3	36	39
7	6月23日	岩手県	小	盛岡市立中野小学校	社会科	4	94	98
8	6月29日	岩手県	小	盛岡市立玉山小学校	社会科	1	5	6
9	8月24日	岩手県	小	紫波町立彦部小学校	社会科	2	4	6
10	8月29日	岩手県	小	岩泉町立門小学校	遠足	10	49	59
11	8月29日	岩手県	小	盛岡市立北松園小学校	社会科	3	45	48
12	8月29日	岩手県	小	金ヶ崎町立第一小学校	校外学習	3	25	28
13	8月31日	岩手県	小	雫石町立御所小学校	校外学習	2	1	3
14	9月12日	岩手県	小	滝沢市立滝沢小学校	遠足	11	146	157
15	9月13日	岩手県	小	奥州市立衣川小学校	校外学習	3	21	24
16	9月13日	岩手県	小	奥州市立衣里小学校	校外学習	1	16	17
17	9月13日	宮城県	小	気仙沼市立階上小学校	修学旅行	5	38	43
18	9月15日	宮城県	小	大崎市立敷玉小学校	修学旅行	3	24	27
19	9月20日	岩手県	小	盛岡市立緑が丘小学校	遠足	8	106	114
20	9月20日	岩手県	小	奥州市立若柳小学校	校外学習	3	40	43
21	9月22日	岩手県	小	盛岡市立仁王小学校	見学	5	22	27
22	9月22日	岩手県	小	釜石市立釜石小学校	見学	4	45	49
23	9月26日	岩手県	小	盛岡市立北松園小学校	社会科	3	44	47
24	9月26日	岩手県	小	盛岡市立津志田小学校	社会科	6	152	158
25	9月27日	岩手県	小	滝沢市立一本木小学校	校外学習	2	22	24
26	9月29日	岩手県	小	久慈市立霜畑小学校	校外学習	6	14	20
27	10月3日	岩手県	小	八幡平市立平館小学校	社会科	3	13	16
28	10月5日	岩手県	小	岩泉町立釜津田小学校	社会科・生活科	7	12	19
29	10月31日	岩手県	小	盛岡市立山岸小学校	社会科	5	95	100
30	11月1日	岩手県	小	九戸村立山根小学校・戸田小学校	社会科	4	13	17

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計
31	11月7日	岩手県	小	宮古市立千徳小学校	総合的な学習	4	64	68
32	11月9日	岩手県	小	盛岡市立好摩小学校	社会科・理科	2	23	25
33	11月10日	岩手県	小	紫波町立佐比内小学校	校外学習	1	3	4
34	11月17日	岩手県	小	盛岡市立高松小学校	校外学習	2	63	65
35	11月22日	岩手県	小	盛岡市立洪民小学校	社会科	3	40	43
36	11月28日	岩手県	小	盛岡市立高松小学校	総合的な学習	1	3	4
37	12月6日	岩手県	小	盛岡市立永井小学校	社会科	3	61	64
38	2月1日	岩手県	小	岩手町立沼宮内小学校	社会科	3	43	46
39	2月8日	岩手県	小	滝沢市立滝沢東小学校	社会科	2	47	49
40	2月16日	岩手県	小	盛岡市立生出小学校	見学	2	5	7
41	2月22日	岩手県	小	盛岡市立厨川小学校	社会科	4	82	86
小計 41 校					小計(人)	152	1724	1876

【中学校】

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計
1	5月18日	青森県	中	八戸市立下長中学校	総合的な学習	1	24	25
2	5月30日	岩手県	中	雫石町立雫石中学校	校外学習	9	130	139
3	6月2日	岩手県	中	盛岡市立黒石野中学校北社分校	遠足	15	2	17
4	7月5日	岩手県	中	久慈市立大川目中学校	宿泊研修	2	16	18
5	8月4日	岩手県	中	奥州市立水沢南中学校	研修	1	13	14
6	8月31日	岩手県	中	陸前高田市立第一中学校	研修		7	7
7	9月16日	北海道	中	上ノ国町立上ノ国中学校	修学旅行	5	40	45
8	10月12日	岩手県	中	盛岡市立松園中学校	研修		21	21
9	10月18日	岩手県	中	盛岡市立下小路中学校	研修		3	3
10	10月19日	東京都	中	桐朋中学校	修学旅行	4	78	82
11	2月21日	岩手県	中	盛岡白百合学園中学校	社会科	4	38	42
小計 11 校					小計(人)	41	372	413

【 高等学校 】

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計
1	7月4日	岩手県	高	岩手県立盛岡工業高校	その他	4	13	17
2	7月16日	岩手県	高	岩手県立盛岡工業高校	総合的な学習	3	29	32
3	7月31日	岩手県	高	岩手県立平館高等学校	校外学習	2	6	8
4	8月2日	岩手県	高	岩手県立水沢高等学校	その他	2	6	8
5	8月6日	岩手県	高	岩手県立花巻北高等学校	校外学習	1	8	9
6	8月23日	岩手県	高	岩手県立山田高等学校	校外学習	2	26	28
7	10月21日	青森県	高	青森北高校	校外学習	2	12	14
8	12月12日	岩手県	高	岩手県立遠野緑峰高校	総合実習	2	8	10
9	12月17日	岩手県	高	盛岡市立高校	校外学習	1	10	11
10	2月6日	東京都	高	東京都立荒川工業高等学校	修学旅行	7	83	90
11	2月17日	岩手県	高	岩手県立久慈東高等学校	研修	1	9	10
12	2月27日	岩手県	高	岩手県立種市高等学校	校外学習	3	33	36
13	3月10日	岩手県	高	岩手県立大船渡東高等学校	研修	5	39	44
小計 13 校					小計(人)	35	282	317

【 大学・専門学校・一般等 】

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	学生等	合計
1	4月15日	岩手県	大	岩手大学 人文社会科学部	研修	5	89	94
2	5月11日	青森県	大	八戸工業大学 システム情報科	研修	7	96	103
3	5月27日	岩手県	大	いわて学	研修	2	63	65
4	10月7日	岩手県	大	いわて学	研修	2	12	14

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	学生等	合計
5	10月7日	岩手県	大	岩手県立大学看護学部	研修		4	4
6	10月25日	岩手県	大	岩手県立大学総合政策学部	研修		12	12
7	10月25日	岩手県	大	岩手大学留学生	研修		11	11
				小計 7 団体	小計(人)	16	287	303

【 支援学校 】

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計
1	4月28日	岩手県	特	岩手県立盛岡青松支援学校	教科	2	3	5
2	7月4日	岩手県	特	岩手県立盛岡青松支援学校	社会科	3	3	6
3	7月7日	岩手県	特	岩手県立とん支援学校	校外学習	7	5	12
4	11月10日	岩手県	特	岩手県立盛岡青松支援学校	校外学習	3	1	4
5	11月15日	岩手県	特	岩手県立盛岡聴覚支援学校	校外学習	2	2	4
6	11月17日	岩手県	特	盛岡みたけ支援学校奥中山校	校外学習	4	6	10
7	12月7日	岩手県	特	岩手県立盛岡視覚支援学校	教科(理科)	3	4	7
8	2月8日	岩手県	特	岩手県盛岡青松支援学校	社会科	2	1	3
				小計 8 校	小計(人)	26	25	51

【 保育園 】

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計
1	6月2日	岩手県	保	ハレルヤ保育園	園外学習	3	27	30
2	6月3日	岩手県	保	大新保育園	遠足	4	20	24
3	6月6日	岩手県	保	愛育園	遠足	5	47	52
4	8月22日	岩手県	保	MH ナーサリー	園外学習	5	21	26
5	8月29日	岩手県	保	矢巾町立煙山保育園	園外学習	8	63	71
6	10月4日	岩手県	保	愛育園	遠足	5	50	55
7	1月11日	岩手県	保	ハレルヤ保育園	園外学習	1	9	10
8	2月9日	岩手県	保	ハレルヤ保育園	見学	3	28	31
				小計 8 園	小計(人)	34	265	299

【 幼稚園 】

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計
1	4月6日	岩手県	幼	めぐみ幼稚園	園外学習	3	18	21
2	7月5日	岩手県	幼	水道橋くるみ幼稚園	その他(親子レク)	1	32	33
3	7月20日	岩手県	幼	めぐみ幼稚園	園外学習	14	38	52
4	8月10日	岩手県	幼	めぐみ幼稚園	園外学習	5	14	19
5	8月17日	岩手県	幼	盛岡三育幼稚園	園外学習	5	10	15
6	8月17日	岩手県	幼	めぐみ幼稚園	園外学習	3	10	13
7	9月29日	岩手県	幼	盛岡大学附属松園幼稚園	遠足	6	45	51
8	11月7日	岩手県	幼	みどりが丘幼稚園	園外学習	2	15	17
9	11月14日	岩手県	幼	盛岡三育幼稚園	遠足	9	34	43
10	1月16日	岩手県	幼	めぐみ幼稚園	園外学習	4	31	35
11	1月18日	岩手県	幼	盛岡白百合学園幼稚園	総合的な学習	3	12	15
12	2月21日	岩手県	幼	青葉幼稚園	遠足	7	87	94
				小計 12 園	小計(人)	62	346	408

合計 100 校 合計(人) 366 3301 3667

(イ) 教材貸出

昨年度は9件42点の貸出を行ったが、今年度は13件48点の貸出を行った。内訳は下のおりである。教育機関の中では小学校への貸出が多かった(6件)。小学校「社会科」の「昔の道具とくらし」で活用が可能な炭火アイロンや電話機、洗濯板など民俗資料の他、甲冑や草

履、深沓、鹿鳴館ドレス、女学生衣装などが人気であり、この傾向は今年度も同様であった。また、出前講座とのセット貸出が4件と多かった。

表5(2)-5 平成29年度の教材貸出一覧

貸出日	貸出先	点数	資料
6月6日	岩手大学教育学研究科(教職大学院)・盛岡市立緑が丘小学校	2	水干 狩衣
6月23日	盛岡市立松園中学校	5	縄文土器(3) 写真パネル(2・尖底土器、土面) 縄文土器片(20) 縄文石器(10) 黒曜石片・頁岩片(15)
7月7日	大船渡市猪川町町内会	1	甲冑
7月25日	岩手県立平館高等学校	2	伝鹿鳴館ドレス(2) 近代女学生装束(2)
8月29日	(公社) 日本アイソトープ協会茅記念滝沢研究所	3	早池峰の植物(DVD) クマガラとブナ林(DVD) 白亜紀ヘタタイムトラベルー宮古層群ー(DVD)
9月11日	盛岡市立中野小学校	3	植物化石標本(5) 動物化石標本(5) 岩石 鉱物(8)
10月6日	(一社) 岩手県芸術文化協会	5	甲冑(大人サイズ) 近代女学生の袴(大人サイズ) 鹿鳴館時代の洋服(大人サイズ) 石臼(茶臼) むかしおもちゃ(屋内用) 1セット
11月29日	盛岡市立大新小学校	2	金盥と洗濯板(2) 炭火アイロン
1月28日	盛岡市立見前南中学校	5	標本 胴乱 展翅板 展翅テープ ピンセット(三角紙、ピン) 標本箱
1月30日	紫波町立赤石小学校	6	下駄類(4) 深沓 草履・草鞋(6) 炭火アイロン 洗濯板と金盥 電話機(ダイヤル式)
2月1日	岩手県立総合教育センター 情報・産業教育	4	鹿鳴館夜会服(紺) 女学生装束 リボン 下駄
2月1日	盛岡白百合学園小学校	5	こねばち 炭火アイロン ランプ 電話機 そろばん
2月9日	盛岡市立北松園小学校	5	炭火アイロン 黒電話 そろばん(2) 草履・深沓・つまご(一式) 洗濯板・金盥(各1)

(ウ) 博物館館園実習

学芸員資格取得に係る館務実習について、当館の実習生受入方針に基づいて実施した。当館における実習は、主に県内大学に在学する者、また県出身者を対象としている。地質・考古・歴史・民俗・生物・文化財科学に係る博物館資料の整理や展示作業、教育普及事業の実務などの実習、及び社会教育機関としての博物館の役割について講義等を行っている。実習期間と受け入れ人数等は次のとおり。

実施期間 平成29年8月17日(木)～24日(木) (8月21日(月)休館日除く7日間)

参加者 盛岡大学4名、岩手大学2名、弘前大学1名、東海大学1名、淑徳大学1名、八洲学園大学1名、計10名

ウ. 職場体験・インターンシップ

今年度は6件11名の職場体験・インターンシップの申し込みがあった(28年度は4件5名)。インターンシップでは、東北地域大学間連携インターンシップからの受け入れとして、岩手大学、岩手県立大学、盛岡大学の学生6名を、ジョブカフェいわてからの受け入れとして大東文化大学の学生1名が5日間のインターンシップに参加した。

表 5 (2)-6 インターンシップ・ボランティア受け入れ状況

平成 29 年度実施職場体験・インターンシップ参加校一覧

実施日時	所属校	人数	体験内容
6/29～6/30	滝沢市立姥屋敷中学校	1	資料整理、民家解説補助、体験学習室整備
7/5	盛岡市立北松園中学校	1	資料整理、教育普及事業資料作成
10/18～10/19	盛岡市立下小路中学校	2	資料整理、体験学習室の整備、資料作成
9/24, 9/30, 10/1、10/7～8	盛岡大学、岩手県立大学	5	資料整理、体験学習室資料作成、教育普及事業資料作成、博物館まつり対応
9/24, 9/30, 10/1、10/7～8	大東文化大学	1	資料整理、体験学習室資料作成、教育普及事業資料作成、博物館まつり対応
9/27～10/1	岩手大学	1	資料整理、体験学習室資料作成、教育普及事業資料作成、博物館まつり対応

平成 29 年度実施教職 10 年研修ボランティア受け入れ先一覧

実施日	所属校	人数	研修内容
10/1	盛岡市立高等学校	1	博物館まつりボランティア
10/1	紫波町立赤石小学校	1	博物館まつりボランティア
10/1	花巻北高等学校	1	博物館まつりボランティア
合計		3	

エ. 問合せ受付

日常的に学芸員が対応する問合せについて、集計を行っている。計画されている事業に関わるものや外部研究者等との日常的な連絡以外、対応したすべての事項となっている。質問等は多岐にわたっており、即答で済む場合や回答に相当期間を要する場合など内容によってさまざまである。調査研究に関わるものも含んでいる。

表 5 (2)-7 平成 29 年度問合せ受付状況

部門	件数	問合せ方法	件数	主な対応内容
地質	50	来館	26	子どもが関わる場合は古生物（特に恐竜関係）に関する質問、化石の鑑定 拾った岩石（鉱物）の鑑定が多い。進路（職業）についての問い合わせもあった。
		電話	22	モシリユウが今後も日本初産出の恐竜化石として良いかとの問い合わせが複数回。
		FAX、メール、手紙、その他	2	塩竈石について、等
生物	137	来館	20	昆虫の同定、植物の写真の同定、何の卵か、標本閲覧、等。
		電話	43	動物剥製の受け入れ時の注意、トコロとは何か、蛍の光り方、バードカービングができる施設、等。
		FAX、メール、手紙、その他	74	鳥の写真の同定、植物の写真の同定、動物の写真の同定、被災地の植物について、等。
考古	31	来館	12	宮古市周辺の縄文・弥生時代の遺跡分布について、各種資料の借受・実見・鑑定について、等。
		電話	13	萩内遺跡の臥状遺構復元想定図について、古代製鉄について、画像借受について、資料鑑定について、蕨手刀について、等。
		FAX、メール、手紙、その他	6	企画展「遮光器土偶の世界」関連、印刷物の購入について、角塚古墳の築造年代について、資料借受について、等。

部門	件数	問合せ方法	件数	主な対応内容
歴史	78	来館	14	南部氏について、資料の寄贈について、近代貨幣の鑑定について、平泉について、七戸城について、不来方の名前の由来について、釜石市鶴住居観音堂（慈眼院）被災資料について、絵図について、等。
		電話	51	安倍貞任について、安倍という苗字の変遷について、南部氏について、盛岡藩の古文書について、津軽氏と石田三成について、釜石市鶴住居観音堂（慈眼院）被災資料について、絵図について、月山神社について、県内における平安時代の史跡について、中国古印について、岩手の仏画について、資料輸送について、刀剣について、等。
		FAX、メール、手紙、その他	13	前九年合戦関連の所蔵品を教えてほしい、画像データ提供の可否について、当館所蔵の蓄音機、紙腔琴について、太田孝太郎について、「近代へのとびら」図録の出版について、庚申塔について、前九年合戦図屏風について、尾去沢銅山について、奥羽寒図記について、藤田家資料について、鍛冶神掛図について、等。
民俗	211	来館	44	仏画鑑定、猫淵神社の所在、蓑虫山人について、南部絵巻について、婚礼習俗について、チャグチャグ馬コ装束について、お供え餅について、人形について、等。
		電話	120	盛岡藩絵師の手による幽霊画について、「がんばれ」を方言で、浮沈子のアバについて、森口多里コレクションについて、田山の絵心経について、おしらさまについて、及川全三の資料について、人形のメンテナンスについて、麻について、等。
		FAX、メール、手紙、その他	47	雛人形について、忌日法要について、学校にある人形の保存や展示の仕方について、紫根染について、廻り神楽について、調査協力の依頼、資料寄贈手続きについて、所蔵資料について、糠部三十三観音について、明治以降の田山暦について、等。
文化財科学	157	来館	7	文化財科学業務全般に関する視察、被災文化財再生について、等。
		電話	121	資料の自然科学的調査方法に関する照会、金属器の自然科学的調査について、被災資料再生について、資料の表面分析について、非鉄金属分析について、琥珀の自然科学的調査について、X線CT調査について、博物館の温湿度環境について、カビ防除について、くん蒸サービスについて、大津波プロジェクトについて、ミス岩手について、特別展について、等。
		FAX、メール、手紙、その他	29	設備装置についての照会、被災資料修復について、文化財の防災・減災について、施設見学について、資料の岩石・鉱物学的調査について、出土金属器の自然科学的調査について、琥珀の分析について、非破壊分析について、デジタル撮像について、等。
合計	664 件			

5. (3) 調査研究活動

調査研究活動は、博物館の展示活動、教育普及活動等を展開するうえでの基幹活動に位置づけられる。学芸員が取り組む研究テーマは、小テーマ、小テーマを包括する大テーマに区分され、それぞれのテーマに従い研究が行われた。一部の研究テーマについては研究協力員、他機関に所属する研究者と共同で進められた。年度末には「館内調査研究報告会」が実施され、全学芸員から平成 29 年度の研究進捗状況、研究成果が報告された。また、一定の成果が得られた研究については『岩手県立博物館研究報告』第 35 号のほか、学会、学術雑誌、各種報告書等で公表された。上記研究テーマの中には、外部機関の助成金を受け進められたものもあった。考古学部門では岩手県教育委員会からの委託による前平泉文化の研究を、文化財科学部門では外部機関から申請された研究受託を実施した。

ア. 調査研究活動の概要

地質部門 3 テーマ、生物部門 6 テーマ、考古部門 5 テーマ、歴史部門 5 テーマ、民俗部門 4 テーマ、文化財科学部門 8 テーマで調査研究活動が推進された。

表 5 (3)-1 平成 29 年度 調査研究テーマとその実施状況

部門等	テーマ	小テーマ	氏名	研究成果
地質	地域地質に関する研究 A	北上山地における地質学的資料に関する基礎的研究	望月貴史 山岸千人	・陸前高田市教育委員会からの依頼を受け、大石雅之氏（当館研究協力員）・永広昌之氏（東北大学総合学術博物館）らとともに陸前高田市の南部北上帯（上八瀬層）の層序・古生物学的研究を行った。該当地域の詳細な柱状図や地質図の作成に取り組んだ。来年度以降も継続して調査を行う予定である。
	地域地質に関する研究 B	奥羽山脈ならびに北上低地帯における地質学的資料に関する基礎的研究	山岸千人 望月貴史	・北上平野西縁・平泉付近の層序学的調査を行った。断層運動に伴う撓曲構造を確認し、地質観察会実施へと結びつけることができた。
	古生物学的研究	古生代および中生代に関する古生物学的研究	望月貴史	・田野畑村島越の宮古層群露頭とそこから産出した大型琥珀について研究を行った。また、調査成果をまとめたものを「田野畑村島越に分布する宮古層群羅賀層から産出した琥珀とその付近の地質」として、大石雅之氏（当館研究協力員）・大路樹生氏（名古屋大学博物館）・渡辺謙克氏（田野畑村役場）らと共著で岩手の地学（第 47 号）に報告した。
	地球科学的研究	地域科学的研究	山岸千人	・八幡平火山、鏡沼で 5～6 月にかけて見られる現象「ドラゴンアイ」について、その成因を明らかにすることができた。
生物	地域生態系の研究	北東北三県のブナ林を中心とした森林生態系の生物相に関する研究	藤井忠志 鈴木まほろ 渡辺修二	・新たなクマゲラの生息拠点発見のため、現在、情報を収集するとともに、25,000 分の 1 の地形図をもとに十和田湖西側一帯の調査を実施予定である（藤井）。 ・岩手県初のニホンオオカミ（江刺玉里産）頭骨の寄託を受けた（20170912）。
	日本産鳥類の生態学的研究	北東北三県における本州産クマゲラ個体群の生息状況およびその生態に関する研究	藤井忠志	・世界自然遺産の青森県側白神山地及び秋田県森吉山を中心とした本州産クマゲラ個体群の追跡調査を実施したが、秋田県森吉山で 4 月 30 日に確認したオス 1 個体のみで、その後、繁殖期においても繁殖つがいや生息個体すら確認できなかった。今後は、無人カメラの設置や無人音声録音機等を導入しながら、個体確認に努める。
	国内および県内における鳥類分布に関する研究	岩手県産の鳥相に関する研究	藤井忠志	・岩手県 4 例目の珍鳥・オオホシハジロが高松の池に出現し、岩手県産珍鳥詳細記録に追記した。また、マスコミ各社からコメントを求められ、その際、珍鳥詳細記録が役だった。その他、レンジャク類等、冬鳥の渡来調査も実施した。
	地域の生物分布と生態に関する研究	岩手県内における生物分布と生態に関する研究	渡辺修二	・滝沢市、金ケ崎町の依頼により、各河川のカワシンジュガイの生息状況を確認し、新規生息地を明らかにした。 ・盛岡市、滝沢市、北上市、一関市でクモの分布調査を行い、5 種の県未記録種を採集した。 ・昨年度にオソノエラ洞穴で採集した、未記載種と推定されるプラナリアの遺伝学的系統解析の結果を当館研究報告第 35 号に投稿した。
植物	地域の植物相と植物生態に関する研究	県内の絶滅危惧植物を中心とする生態系の研究	鈴木まほろ	・環境省レッドリスト改訂のための調査や県レッドデータブック追跡調査を兼ねて、県内の絶滅危惧植物の生育と個体数の確認を行い、結果を県などに報告した。調査地は早池峰山・栗駒山・八幡平市・宮古市・岩泉町など。また、早池峰山登山道沿いにおいてニホンジカの食痕調査を行い、3 年間の調査結果を当館研究報告第 35 号に投稿した。
		県内の植物相の研究	鈴木まほろ	・岩手県植物誌調査会との合同事業として、過去に調査記録の少ない地域を選んで植物相の現地調査を行い、2000 点以上の標本を新たに採集した。また、当館及び県内市町村博物館の収蔵する標本の調査・同定作業を行った。これらの成果として、2018 年 2 月に『岩手県産維管束植物チェックリスト（第 3 版）』を刊行し、同会のウェブサイト上で公開した。

部門等	テーマ	小テーマ	氏名	研究成果
考古	考古学史の研究	岩手県における埋蔵文化財保護、研究のあゆみ	小山内透 濱田 宏 金子昭彦	・鳥畑壽夫コレクション・草間俊一コレクションについて、収蔵目録の発刊に向け、資料調査と整理を継続した。小岩末治コレクションについては、「収蔵目録考古Ⅶ 小岩末治コレクション その1」を刊行しており、「その2」の発刊に向け、残る資料の写真・古文書等の資料調査・整理を継続した。
	先史時代の考古学的研究	縄文時代のアクセサリ研究	金子昭彦	・東北地方に隣接する埼玉、群馬、新潟県に資料調査に出かけ、比較検討を行った。また、隣接する弥生時代のアクセサリとも比較し、縄文時代のアクセサリの特徴を鮮明にした。その成果を館内調査研究報告会で発表する。
	歴史時代の考古学的研究	縄文時代、古代における狩猟と生産	濱田 宏	・岩手における製塩関連遺跡の情報を再整理し、個々の遺跡の性格（塩の生産地か消費地か）について、他県の状況とも比較しつつ検討した。結果、県内では平安時代に属する洋野町「二十一平遺跡」だけが、塩生産を行っていた可能性があることが判明した。
		岩手の古代鉄生産の研究	小山内透	・閉伊地方の古代～中世製鉄遺構の構造変遷の傾向について博物館だより No154 で検討の経過報告を行った。復興関連調査について報告書未刊の遺跡が多いことから、今後随時報告されるデータから、傾向の検討結果について検証を行い、個別遺構の具体について精査し、検討を継続する。また、今年度発掘調査が行われた洋野町南八木遺跡の製鉄遺構の現地調査を行った。
		平泉文化についての研究	小山内透 濱田 宏 金子昭彦	・昨年度に引き続き、古代寺院の可能性のある金ヶ崎町観音寺廃寺跡(町史跡)の詳細測量調査を行った。今年度は遺跡西側の約20,000㎡を調査し、主体部となる礎石建物跡の広がる範囲を把握できた。次年度には、主体部の個別遺構の分布測量調査を行う予定。
	歴史	古代～中世史の研究	古代・中世における岩手と中央政治との関係に関する研究	佐々木康裕
近世史の研究		岩手の往来の研究	藪田貴弘	・一般国道106号線の歴史について盛岡から区界までを担当した岩手河川国道事務所から資料を提供していただいた。岩手県庁・広聴広報課からは工事の記録映像を研究資料として提供していただいた。 ・読売新聞「土曜博物館」では、盛岡を中心とした往来に関して中津川の橋の歴史にふれながら紹介した。 ・テーマ展の展示内容に関連して、旧国道106号線に架かる橋や案内標識、旧宮古街道開削に携わった牧庵鞭牛和尚について調査をおこなった。 ・青森県五戸町 藤田武兵衛 について関連調査をおこなった。
前近代における美術工芸の研究(古美術)		藩政期の美術工芸の研究	原田祐参	・『雑書』及び『諸職人身帯帳』をもとに、盛岡藩の刀鍛冶、打物鍛冶の系譜や藩との関わりについて考察した。また、当館が所蔵する新藤家、宮川秀一の刀等について、制作年代の検討を行った。
近代・現代史の研究		日本人の自我観念および死生観の変遷	武田麻紀子	・幕末から明治にかけての時代の転換期、人々の自我形成がどのように成されたのか、明治維新および自由民権運動を岩手の視点から再検討すべく調査研究した。 ・盛岡藩の藩校である作人館の人々の思想形成(戊辰戦争敗北を契機とする形成過程)について調査研究をおこなった。 ・岩手の自由民権運動の組織であった求我社の活動と成果(鈴木舎定の思想とその活動成果を中心に)について調査した。

部門等	テーマ	小テーマ	氏名	研究成果
民	無形民俗資料に関する研究	岩手の民具一般に関する基礎研究	小野寺俊彦 近藤良子 川向富貴子	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵資料情報を館内職員で共有・活用するためのデータベースの運用について検討しマニュアルを作成した。また、所蔵資料のうち1000点の撮影・再調査を行いデータベースを編纂した。(小野寺、川向) ・収蔵資料のうち、寄託資料340点・借受資料14点・国県文化財物件38件の撮影・再調査を行いデータベース化した。(小野寺、川向) ・岩手県に現存する日米親善人形(友情人形)全18点の状態調査を行った。人形交流90周年記念事業を開催する三重県、愛知県、宮城県との交流を図った。その成果を巡回展で公表した。(小野寺、近藤、川向)
		岩手の無形民俗一般に関する基礎研究	小野寺俊彦 近藤良子 川向富貴子	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵写真資料情報を館内職員で共有・活用するための記録保存について検討し整理した。(小野寺、川向) ・収蔵資料のうち、諸権利者から承諾を得た映像のデジタル化を図り映像視聴サービスの充実を図った。また、成果品の一部は肖像権者である関係団体へ寄付した。(近藤、川向) ・民俗芸能関連道具の材となる自然素材のうち、苧麻、麻、馬の毛、各種樹皮の調達に係る調査と記録保存を行った。また、県内在住の織物作家や県競馬組合等の協力を得て民俗芸能団体へ素材を提供するためのネットワークの構築に動いた。その過程は県民俗芸能団体連絡協議会「いわて民俗芸能」や読売新聞コラム等で発表した。(川向) ・早池峰岳神楽の依頼により、今年限りで廃絶する地区の祭礼並びに廻り神楽について記録保存を行った。(川向) ・岩手県農林水産部農業普及技術課の依頼により、主に年中行事や民俗芸能を調査し、月刊「農業普及」に毎月「ムラの伝統」を執筆した(小野寺・近藤)
俗	民家の保存と活用に関する研究	岩手の民家に関する研究	近藤良子	<ul style="list-style-type: none"> ・民家の活用事業について、他民家の実績を調査しながら、わら細工実演を4月～9月の第2日曜に実施した。 ・夏休み民家活用企画として、8月6日に親子による藁草履の制作イベントを行った。また、民家の開放的な作りを活用し、「いわての街・里・人～Scenery&Portrait～」と題したアマチュア写真家による写真展を8月7日から14日まで開催した。 ・民家の適切な保存管理にあたるため、常居の床の昔ながらの磨き方を浄法寺歴史民俗資料館にご相談し、漆の実を使った清掃法など研究した。
	民間信仰に関する研究	動物にまつわる信仰・俗信の研究	近藤良子	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県秩父市の三峯神社において、南部藩寄進の銅鐘や現在の御眷属信仰について現地調査を行った。 ・雫石町の上和野馬頭観世音の絵馬について文化財科学と共同で現地調査を行った。 ・葛巻町小田真山神社にて、小田念仏剣舞の保存会の方から聞き取りで、装束や現在の活動の様子などについて現地調査を行った。 ・盛岡市無形民俗文化財山岸獅子踊保存会の方より装束と現在の活動の様子について現地調査を行った。 ・軽米町南部駒踊について、テーマ展に向けた装束の借用依頼や現在の活動の様子について調査を行った。
	人の一生に関する研究	岩手の産育史及び習俗に関する研究	川向富貴子	<ul style="list-style-type: none"> ・二戸市二戸歴史民俗資料館と合同で二戸市金田一集落の子安講に係る現地調査を行った。また、岩手県助産師会の依頼により盛岡八幡宮等で同会の来歴を調べた。

部門等	テーマ	小テーマ	氏名	研究成果
文化財科学	文化財の保存環境に関する研究	省エネを意識した文化財の湿度環境保全方法の開発	赤沼英男 丸山浩治	・収蔵庫、展示場フロー、展示ケース内、資料保存箱等にパッシブインジケータを設置し、それぞれの空気内環境調査を実施した。その結果、相当量の酸性ガスおよびホルムアルデヒドの発生が確認され、その原因の究明と対策についての検討が必要となった。
	文化財の製作技法に関する研究	前近代の鉄製文化財の製作技法に関する文化財科学的研究	赤沼英男	・九州・近畿・北陸・関東・東北地方・北海道の遺跡から出土した鉄器・鉄塊の金属考古学的調査結果を集成し、前近代の鉄・鉄器生産技術の変遷と原料鉄及び製品の流通状況の変遷解明を図るための基礎資料作成を進め、一部成果を岩手県立博物館研究紀要第35号、北海道考古学54号で発表した。2016年トルコ共和国カマン・カレホック遺跡から出土した鉄関連資料の補足調査を実施し、中央アナトリア高原における前期青銅器時代の鉄生産状況について、公益財団法人アナトリア考古学主催、第28回トルコ調査研究会(学習院大学, H30. 3. 26)で報告した。
		前近代の非鉄金属文化財の製作技法に関する文化財科学的研究	赤沼英男	・これまでに実施してきた中世銭貨の組成分析結果を整理し、いわゆる公鑄銭、私鑄銭及び模鑄銭の組成上の特徴を基に、中世銭貨流通の変遷を整理し、その結果を2017年度鶴島科研究集会(東ユーラシアにおける中世貨幣)(2017. 11. 3)で報告した。
		土製文化財の製作技法に関する文化財科学的研究	赤沼英男 丸山浩治	・昨年度に引き続き、土器の製作に使用された素材に混和された各種鉱物の化学組成とりわけ火山ガラスの化学組成をEPMAで分析し、化学組成比から分類する方法を開始した。
		前近代における彩色・塗膜技法に関する研究	赤沼英男	・中世に大陸から伝来した漆工芸品とほぼ同時代に比定される列島内出土漆器の下地調整技法を調査し、その特徴をまとめ、大陸から船載された漆器と列島内で製作された漆器の塗膜断面構造解析結果に基づく下地調整技法の推定を行った。
	文化財の保存修復に関する研究	土製文化財の保存処理方法の研究	赤沼英男 丸山浩治	被災して接合不能となった縄文土器小片を使用し、脱塩と素材強化方法及び接合法について予備的実験を行った。
		海水損資料の安定化処理法および修理技術に関する研究	赤沼英男 丸山浩治	海水損した紙製資料から発する異臭と変色の原因とその対処法について東京文化財研究所と連携して調査し、その成果を整理し安定化処理法の改良を図った。被災した写真関係資料の安定化処理、とりわけ脱塩の有効性について調査し、その結果を第34回文化財科学会(東北芸術工科大学, 2017. 6. 9)で発表した。
	文化財科学的手法を用いた前近代における物質文化の変遷に関する研究	文化財科学的手法を用いた自然災害史研究	丸山浩治	十和田平安噴火前後の集落動態から、堅穴住居と土器の地域性及び変化を導出し、その結果を日本考古学協会2017年度宮崎大会(宮崎公立大学, 2017. 10. 22)で発表した。

表5(3)-2 調査研究活動に関わる製作・同定・借り上げ

部門	事業名	内容
地質	岩石標本箱製作	岩石標本箱を9個作成した。
	岩石薄片製作	岩石薄片を9枚製作した。
生物	植物等標本同定	蘚苔類標本8点を関太郎氏(広島医科大学名誉教授)に同定していただいた。
文化財科学	微小X線構造解析	微小X線構造解析を1件委託した。

イ. 館内調査研究報告会

日時： 平成30年3月5日（月） 9：30～16：00 講堂

I. 個別調査研究

八幡平・鏡沼の”ドラゴンアイ”について	山岸 千人
田野畑村の宮古層群羅賀層から産出した琥珀とその意義	望月 貴史
サンコウチョウの謎の生態	藤井 忠志
早池峰山登山道におけるニホンジカの食痕調査	鈴木まほろ
家のクモは殺す？ 殺さない？ 蜘蛛の伝承と文化史	渡辺 修二
県内動物供養碑にみる供養の諸相	近藤 良子
「庶民の暮し」の理解を深めるための文献利用について	小野寺俊彦
日米人形交流～岩手に残る友情人形	川向富貴子
岩手の往来 ～ 未来への道しるべ ～	藪田 貴弘
盛岡藩の刀鍛冶について	原田 祐参
中世の南部氏と糠部	佐々木康裕
作人館と求我社の人々～自我の確立を求めて～	武田麻紀子
岩手の古代製塩	濱田 宏
北東北における古代～中世製鉄遺構構造の相異	小山内 透
岩手・弥生時代のアクセサリー	金子 昭彦
X線による文化財の調査—被災資料に視点を当てて—	赤沼 英男・丸山 浩治

II. 部門別調査研究

III. 40周年展・各分科会からの報告

ウ. 調査研究成果の公表

(ア) 『岩手県立博物館研究報告』第35号 (A4判・54頁・平成30年3月27日発行)

鈴木まほろ「早池峰山南面登山道周辺におけるニホンジカの食痕調査」, 1-8.

末永崇之・渡辺修二・柳澤忠昭・升屋勇人「オソノエラ洞穴地底湖に生息するプラナリアの遺伝学的系統」, 9-14.

小野哲也・赤沼英男・目時和哉・小杉山大輔「前近代の北方社会における鉄器流通実態の解明（4）～列島内鉄生産関連遺跡出土資料との比較検討～」, 15-30.

金子昭彦「企画展『遮光器土偶の世界』をふりかえって」, 31-46.

(イ) 「岩手県立博物館調査研究報告書」

H29年度は発行無し

(ウ) 学会・研究会・他機関での発表、および著作（* 共同発表の際の当館職員）

a. 口頭発表等

- ・武田昭子・赤沼英男*・土谷信高：大聖寺藩上屋敷跡出土漆器の下地調整技法の研究. 日本文化財科学会第34回大会, 2017年6月, 山形市
- ・内田優花・佐野千絵・赤沼英男*：津波被災紙資料から発生する臭気について-安定化作業中の処理水の分析-. 日本文化財科学会第34回大会, 2017年6月, 山形市

- ・赤沼英男：カマン・カレホユック遺跡前期青銅器時代の遺構から出土した資料の組成とその成因,第28回トルコ調査研究会,2018年3月,東京都
- ・丸山浩治：十和田平安噴火前後の遺跡動態. 一般社団法人日本考古学協会 2017年度宮崎大会, 2017年10月, 宮崎市

b. 論文・報文

- ・赤沼英男 (2017) 大津波で被災した文化財の再生-登録有形民俗文化財 陸前高田の漁撈用具に視点を当てて-.月間文化財, (65) : 220-22 査読なし
- ・内田優花・佐野千絵・赤沼英男* (2018) 津波被災資料洗浄水の分析-塩化物イオン濃度と細菌数,保存科学,57 : 169-179 査読あり
- ・小野哲也・赤沼英男*・目時和哉 (2018) 6~9世紀における北海道出土鉄器の供給地域について. 北海道考古学, 54 : 75-88 査読あり
- ・金子昭彦 (2017) 多出遺跡から土偶の用途を考える. 山本暉久先生古稀記念論集 二十一世紀考古学の現在 : 329-339.査読なし
- ・金子昭彦 (2017) 東北地方「亀形土製品」の一類型. 縄文時代, (28) : 103-120.査読あり
- ・金子昭彦 (2017) 遮光器土偶の使用痕. 理論考古学の実践 II 実践編 : 331-349.査読なし
- ・金子昭彦 (2018) 東北地方・縄文晩期の土偶関連遺物(3). (公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター紀要, (37) : 1-26.査読なし
- ・金子昭彦 (2018) 企画展「遮光器土偶の世界」をふりかえって. 岩手県立博物館研究報告, (35) : 31-46. 査読なし
- ・金子昭彦 (2018) 縄文土偶の二つの使い方. 青森県考古学, (26): 35-48.査読なし
- ・Suzuki Mahoro*・Makoto Manabe: Salvage and restoration of natural history collections damaged by the 2011 tsunami in Japan. In book: Harufumi Nishida, Jun Yokoyama, Steven J. Wagstaff, Paul Callomon (Eds.). Disaster and Biodiversity (Biology International Special Issue No36). Chapter: Natural history collections, their importance and conservation. Publisher: International Union of Biological Sciences. pp. 119-132. July, 2017. 査読なし
- ・Makoto Manabe・Suzuki Mahoro*・Martin J. Janal, Masaru Kumagai: Why natural history specimens were ‘rescued’. In book: Harufumi Nishida, Jun Yokoyama, Steven J. Wagstaff, Paul Callomon (Eds.). Disaster and Biodiversity (Biology International Special Issue No36). Chapter: Natural history collections, their importance and conservation. Publisher: International Union of Biological Sciences. pp. 104-107. July, 2017. 査読なし
- ・Takeshi Osawa・Takehiko Yamanaka, Yukinobu Nakatani, Jun Nishihiro, Shiori Takahashi, Suzuki Mahoro*, Hironobu Sasaki: A crowdsourcing approach to collecting photo-based insect and plant observation records. Biodiversity Data Journal, 5: e21271. November, 2017. 査読あり
- ・丸山浩治 (2017) 十和田平安噴火前後の遺跡動態. 一般社団法人日本考古学協会 2017年度宮崎大会資料集 : 83-92. 査読なし
- ・望月貴史*・田鎖康之・白土豊・工藤彩・濱村伸治 (2017) 地域巡回展示が秘める可能性-博物館から地域の連携・活性化へ-. 金属, (87(7)): 3-8. 査読なし

- ・望月貴史*・大石雅之・大路樹生・渡辺謙克 (2017) 田野畑村島越に分布する宮古層群羅賀層から産出した琥珀とその付近の地質. 岩手の地学, (47): 23-29. 査読なし
- ・吉田充・望月貴史*「平成 28 年度岩手県立博物館第 71 回地質観察会報告 釜石鉦山跡を探る」岩手の地学, (47): 53. 査読なし
- ・望月貴史*・吉田充「平成 28 年度岩手県立博物館第 72 回地質観察会報告 一関市東山町の古生層を訪ねて」岩手の地学, (47): 54. 査読なし
- ・Tatsuo Oji, Stephen Q. Dornbos, Keigo Yada, Hitoshi Hasegawa, Sersmaa Gonchigdorj, Takafumi Mochizuki*, Hideko Takayanagi and Yasufumi Iryu: Penetrative trace fossils from the late Ediacaran of Mongolia: early onset of the agronomic revolution. ROYAL SOCIETY OPEN SCIENCE, 5(2), 172250. February, 2018. 査読あり

c. 新聞その他の著作

- 読売新聞岩手版 土曜博物館前期 各月毎週土曜日掲載
- ・藤井忠志 (生物部門) 「アオバト-鳴き声不気味な魔王鳥-」 2017 年 4 月 15 日
- ・小山内透 (考古部門) 「たたら-精錬炉跡切り取り展示-」 2017 年 5 月 13 日
- ・原田祐参 (歴史部門) 「巡幸図-明治天皇の滞在地記す-」 2017 年 5 月 20 日
- ・佐々木康裕 (歴史部門) 「東鑑-奥羽征伐「武士道の」の兆し-」 2017 年 5 月 27 日
- ・渡辺修二 (生物部門) 「クモ相撲-小さな体でがっぷり四つ-」 2017 年 6 月 3 日
- ・金子昭彦 (考古部門) 「遮光器土偶-出土例最多の岩手特産-」 2017 年 6 月 10 日
- ・丸山浩治 (文化財科学部門) 「雨滝論争-土器の変遷巡り議論-」 2017 年 7 月 1 日
- ・望月貴史 (地質部門) 「化石や地層-岩手国内有数の発掘現場-」 2017 年 7 月 15 日
- ・山岸千人 (地質部門) 「ドラゴンアイ-「開眼」の仕組み水位影響-」 2017 年 7 月 29 日
- ・小野寺俊彦 (民俗部門) 「田山暦-絵で表す暦に潜む「謎」-」 2017 年 8 月 5 日
- ・鈴木まほろ (生物部門) 「外来種-知らぬ間に侵入し定着-」 2017 年 8 月 19 日
- ・藺田貴弘 (歴史部門) 「盛岡の橋めぐり-川の街の交通支える-」 2017 年 8 月 26 日
- ・川向富貴子 (民俗部門) 「学芸員、山へ入る-民俗芸能調査多彩な活動-」 2017 年 9 月 2 日
- ・赤沼英男 (文化財科学部門) 「津波流出の金鉦石-洗浄→脱塩→乾燥で復元-」 2017 年 9 月 9 日
- ・濱田 宏 (考古部門) 「鐸形土製品-儀式に使われた垂飾品か-」 2017 年 9 月 16 日
- ・近藤良子 (民俗部門) 「大絵馬が語りかけるもの-自由に想像画題楽しむ-」 2017 年 9 月 23 日
- ・武田麻紀子 (歴史部門) 「代表的岩手人-熱狂生む演説家鈴木舎定-」 2017 年 9 月 30 日
- 読売新聞岩手版 土曜博物館後期 各月隔週土曜日掲載
- ・佐々木康裕 (歴史部門) 「糠部の歴史-中世南部氏の活躍に焦点-」 2017 年 10 月 14 日
- ・藤井忠志 (生物部門) 「サンコウチョウ-子育て雌に主導権-」 2017 年 10 月 28 日
- ・原田祐参 (歴史部門) 「金小札茶糸緘二枚胴具足 -甲冑が語る南部重信像-」 2017 年 11 月 11 日
- ・金子昭彦 (考古部門) 「亀型土製品-人、動物の特徴が混在-」 2017 年 11 月 25 日
- ・渡辺修二 (生物部門) 「ニホンオオカミ-伝染病や山林開発で絶滅-」 2017 年 12 月 9 日
- ・小山内透 (考古部門) 「考古資料と科学分析-文化史解明の一助担う-」 2017 年 12 月 23 日
- ・丸山浩治 (文化財科学部門) 「被災オルガン-明治期の音色修理で復活-」 2018 年 1 月 6 日

- ・川向富貴子（民俗部門）「サイトギ-祭りの儀礼氏子に役割-」2018年1月20日
- ・山岸千人（地質部門）「火山との関係-噴火記録防災に役立てる-」2018年2月3日
- ・小野寺俊彦（民俗部門）「エジコ-赤ちゃんのけが防止に-」2018年2月17日
- ・鈴木まほろ（生物部門）「被災押し葉標本-自然の歴史詰まった資料-」2018年3月3日
- ・赤沼英男（文化財科学部門）「鉄鍋-火所かまどから囲炉裏へ-」2018年3月25日
- ・望月貴史（地質部門）「新種の名付け方-化石発見者学名に-」2018年3月31日

● 朝日新聞岩手版 県立博物館へようこそ 各月第二金曜日掲載

- ・藤井忠志（生物部門）「クマゲラ-生息地にツキノワグマも-」2017年4月14日
- ・望月貴史（地質部門）「よみがえる古生物-今の生物を参考に復元-」2017年5月12日
- ・金子昭彦（考古部門）「遮光器土偶の世界-どう使った？観察を元に」2017年6月9日
- ・渡辺修二（生物部門）「ムジナ-同じく穴にすむけれど-」2017年7月14日
- ・原田祐参（歴史部門）「刀の鏝-江戸時代に芸術性高く-」2017年8月11日
- ・佐々木康裕（歴史部門）「中世の南部氏と糠部-甲斐ルーツ歴史像に迫る-」2017年9月8日
- ・小野寺俊彦（民俗部門）「雑水釜-台所に流しがないわけは-」2017年10月13日
- ・小山内透（考古部門）「中世南部氏と糠部-城主気分で山城登っては-」2017年11月10日
- ・近藤良子（民俗部門）「ゆく酉くる戌-犬めぐる風習と信仰紹介-」2017年12月8日
- ・川向富貴子（民俗部門）「展覧会「ひとのかたち-人形に込められた思い-」2018年1月12日
- ・丸山浩治（文化財科学部門）「文化財の大敵-極小の虫、侵入防止へ腐心-」2018年2月9日
- ・赤沼英男（文化財科学部門）「吉田家文書-被災資料を未来につなぐ-」2018年3月9日

● 河北新報

- ・山岸千人（地質部門）「八幡平『竜の目』仕組み解明」 2018年2月16日

● 書籍

- ・渡辺修二（共著）「洞窟の疑問 30 -探検から観光、潜む生物まで、のぞきたくなる未知の世界-（みんなが知りたいシリーズ 7）」成山堂書店：p68-72 2018年2月，東京都

エ. 研究受託実施状況

文化財の自然科学的調査によって、内部構造、材質、製作技法、劣化状況等に関する客観的情報を得ることができる。得られた情報を基に、後世に長く伝えるための保存修復方法が施され、同時に過去の物質文化交流を解明するための研究が進められる。自然科学的方法を用い、過去を解明する手がかりとなる学術情報を提供している機関は全国的にみてもきわめて少ない。

岩手県立博物館では調査研究成果の還元と学術情報の一層の収集を目的として、平成2年度から文化財の自然科学的調査・保存修復に関する研究受託を実施している。平成24年度からは東日本大震災で被災した文化財の安定化处理および修理を開始した。平成29年度の研究受託実績は表5(3)-3に示すとおりである。一連の研究を通して得られた学術情報に、人文社会科学の研究成果を重ね合わせ、文化財の保存を図るとともに、過去を解明するうえでの学術情報の発信に努めている。

表 5 (3)-3 平成 29 年度研究受託実地実績

受託内容	件数	委託機関
被災紙製資料安定化処理及び修理業務	1	教育委員会
被災自然史関連資料修理業務	1	教育委員会
被災昆虫標本修理業務	1	教育委員会
資料の生物学的劣化防除（くん蒸）	5	教育委員会、資料館等
被災民俗資料修理業務	1	教育委員会
被災コレクション安定化処理及び修理業務	1	教育委員会
被災考古資料安定化処理業務	1	教育委員会
非鉄金属製品科学分析業務	1	教育委員会
鉄製品の科学分析及び保存処理	3	埋蔵文化財センター
金属製品の科学分析及び保存処理	1	埋蔵文化財センター
鉄製品の保存処理業務	1	教育委員会
鉄関連資料の科学分析業務	1	教育委員会

オ. 前平泉文化研究受託事業（前平泉文化の研究）

当館考古部門では、岩手県教育委員会の委託により、平成 12 年度から奥州藤原氏に関連する遺跡の考古学調査として ①衣川流域及び人首川流域における遺跡の分布調査 ②紫波町域における積石状塚の調査 ③比爪館跡の微細地形測量調査を行ってきた。平成 28 年度からは、安倍氏との関係が深い金ヶ崎町観音寺廃寺遺跡（金ヶ崎町永沢字不同沢）の微細地形測量調査を三か年計画で新たに着手し、今年度はその二年目にあっている。

今回の調査は、遺跡の南端から北西側にかけての約 20,000 m²を対象として、平成 29 年 11 月 13 日から 11 月 22 日までの期間で、実働 8 日間の地形測量作業を実施した。これまで 2 か年の調査により遺跡全体のおよそ三分の二程度の作業を終えたが、最終年度については、以前金ヶ崎町教育委員会が行った遺構確認調査との整合を図るべく、礎石が確認されている建物群の周辺についても詳細な測量調査を行う予定である。

なお、調査で得られた測量データ等は館内の室内作業で調整し、作図後に岩手県教育委員会への成果報告を行っている。

カ. 自然史標本データ整備事業

独立行政法人国立科学博物館が運営する科学系博物館情報ネットワークシステムの自然史標本情報検索システムに掲載するため、当館で所蔵する生物標本資料 7,000 件について、データ整理・整形を行い、提供した。

キ. 研究協力員制度

当館の調査研究活動の増進に資するため、当館学芸員の推薦により館外研究者を研究協力員として認定し、当館の調査研究等に従事する制度を平成 11 年度から実施している。研究協力員としての活動期間は 3 年間で、申請・審査を経て更新することができる。

平成 29 年度は 8 名の更新が承認された。平成 29 年 3 月末現在で 14 名（下記一覧、順不同）となっている。

● 研究協力員（更新）

- 1 吉田 充（元当館学芸第三課長・生涯学習文化財課文化財専門員）：大鉢森山周辺に分布する母岩変性岩類から産出する金属資源（金）の研究等[地質部門]

- 2 大石雅之（元当館学芸部長）：岩手県産脊椎動物化石を中心とする古生物学的研究〔地質部門〕
- 3 工藤紘一（元当館学芸第二課長）：岩手の年中行事をはじめとする民俗事象の研究〔民俗〕
- 4 玉山光典（盛岡中央高等学校教諭）：日本（特に岩手県）の変形菌相〔生物部門〕
- 5 後藤友明（岩手大学農学部准教授）：魚類分類学〔生物部門〕
- 6 大友令史（岩手県病虫害防除所）：病虫害の生態的研究〔生物部門〕
- 7 藤井千春（元当館主任専門学芸員・盛岡市立高等学校教諭）：北日本における発光生物の生態学的研究〔生物部門〕
- 8 目時和哉（元当館学芸調査員・岩手県立盛岡第一高等学校教諭）：前近代の東日本太平洋沿岸部における他地域との物質文化交流に関する学際的研究〔文化財科学部門〕

● 研究協力員（継続）

- 9 吉田裕生（元当館学芸第二課長）：東北地方産鉱物の記載鉱物学的研究、とくにマンガン硼酸塩・硫酸塩鉱物の研究〔地質部門〕
- 10 千葉武勝（元岩手県病虫害防除所長）：昆虫標本の整理、とくに鞘翅目、膜翅目昆虫の同定、標本作製、調査研究手法に関する助言〔生物部門〕
- 11 沼宮内信之（日本森林技術協会）：岩手県の植物相〔生物部門〕
- 12 沼宮内耕作（元当館学芸部長）：岩手県の蘚苔類相〔生物部門〕
- 13 土谷信高（岩手大学教育学部教授）：岩石・鉱物を素材とする文化財の材質・製作技法に関する研究〔文化財科学部門〕
- 14 女鹿潤哉（元主任専門学芸員）：古代・中世の東北地方と北海道における物質文化交流についての文化財科学的研究〔文化財科学部門〕

5.（4）資料収集保管活動

ア. 資料の収集整理

平成29年度3月末現在の登録資料数は14,008点で、開館以降の累計は302,111点にのぼる（表5(4)-1）。県内外の方々のご厚意によって今年度当館が受贈した資料は30件、約11,518点である（表5(4)-2）。

表5(4)-1 平成29年度資料登録状況

	年度区分	地質	生物	考古	歴史	民俗	区分計
採集	28年度末累計	2,878	25,529	922	3	77	29,409
	29年度計	81	3,868	-	-	-	3,949
	累計	2,959	29,397	922	3	77	33,358
発掘	28年度末累計	209	-	3,470	-	-	3,679
	29年度計	-	-	-	-	-	-
	累計	209	-	3,470	-	-	3,679
寄贈	28年度末累計	4,376	122,114	53,408	32,571	16,497	228,966
	29年度計	9	8,265	-	19	1,722	10,015

	年度区分	地質	生物	考古	歴史	民俗	区分計
	累 計	4,385	130,379	53,408	32,590	18,219	238,981
購 入	28年度末累計	1,397	12,166	267	6,975	2,515	23,320
	29年度計	1	-	-	-	5	6
	累 計	1,398	12,166	267	6,975	2,520	23,326
製 作	28年度末累計	115	510	95	114	428	1,262
	29年度計	-	-	-	-	38	38
	累 計	115	510	95	114	466	1,300
所管換	28年度末累計	1	84	-	1,104	278	1,467
	29年度計	-	-	-	-	-	-
	累 計	1	84	-	1,104	278	1,467
合 計	28年度末累計	8,976	160,403	58,162	40,767	19,795	288,103
	29年度計	91	12,133	-	19	1,765	14,008
	累 計	9,067	172,536	58,162	40,786	21,560	302,111

新規登録資料点数は生物部門が最も多い。昆虫標本を主体に 12,133 点で全体の約 86%を占める。

地質部門ではヴェロキラプトルの頭骨や宮古層群産の琥珀や宮古層群産の石炭、アンモナイトや三葉虫など 91 点を、生物部門では千葉武勝氏の二戸市稲庭岳調査関連の昆虫標本、当館と岩手県植物誌調査会が採集した植物標本など 12,133 点を、歴史部門では寄贈された戦争中ポスター、防空絵とき、奉公袋や御慰問袋など 19 点を、民俗部門では寄贈された、伝統こけし、土人形、レコード、絵葉書、マッチ箱ラベルのコレクション、助産道具、民具など 1,765 点を、それぞれ登録した。

毎年増加する膨大な資料の登録を円滑に進め、将来的に多くの資料情報を当館ホームページ上で公開することを目指し、平成 23 年度の試行結果を踏まえ、当館では資料登録を平成 24 年 4 月から早稲田システム開発(株)が提供する I.B.Museum SaaS により行うこととした。本システムは文字情報と画像情報をデータベース上で統合できること、登録情報のうち選択した部分のみをインターネット上で公開できること、クラウド型システムのため自館でのハードの更新が不要であることなどの利点がある。また、東日本大震災でクローズアップされたクラウド型システムの利点として、登録情報が遠隔地で保管されるため、災害等によるデータ喪失の危険性が大幅に軽減されている。平成 25 年 4 月からこのシステムを使用し、岩手県立博物館が所蔵する資料の一部について情報公開を行っている。現在 686 点の資料情報を公開中である。

表5(4)-2 29年度の主な受贈資料

部門	寄贈者(敬称略)	居住地所在地	資 料 名	数量
地質	田野畑村	田野畑村	宮古層群産の琥珀、宮古層群産の石炭	6
生 物	(株) 横山空間情報研究所	盛岡市	全国立体地形斜度図(50 万分の 1)	3
	武田眞一	盛岡市	さく葉標本	365
	森 誠一	—	イトヨ液浸標本	15
	小守一男	一戸町	押し葉標本	2000
	西田ユリ	紫波町	貝殻標本	60
	武田眞一	盛岡市	スミレ科押し葉標本	460
	向井田愛子	盛岡市	チョウの標本、雑誌、本	2353
	片岡 充	盛岡市	クモ類等調査資料、文献	1445
	中屋敷徳	盛岡市	押し葉標本	105

部門	寄贈者(敬称略)	居住地所在地	資 料 名	数量
	佐々木匡	奥州市	獣骨	1
歴史	齊藤孝司	滝沢市	幕末から昭和初期の紙幣、貨幣	32
	金田一要三	盛岡市	金田一家資料	6
	池野靖一	盛岡市	金田一家資料	2991
	八木光則	盛岡市	戦争中ポスター	4
	足澤輝夫	紫波町	帯(藤島静村画)	2
	佐々木匡	奥州市	奉公袋、武運長久祈願旗等	16
	鎌田 隆	盛岡市	防空絵とき	1
	平野佳則	盛岡市	平金商店所有機械類コレクション	15
	照井 剛	盛岡市	銃剣、ラッパ	2
民俗	北口勝三郎	八幡平市	樽(漆掻き用具)	2
	長岡昌彦	盛岡市	はきご、桶、他民具	9
	金森三郎	一関市	こけし、色紙	32
	吉田真奈美	滝沢市	炭俵	1
	長瀬 清	盛岡市	レコード	16
	畠山正徳	八幡平市	藁人形	2
	—	—	燐寸箱、絵はがき、雑器類、分娩介助道具、母子センター活動記録画像	1482
	—	盛岡市	セルロイド人形	1
	—	—	カラーテレビ、電子炊飯ジャー	2
	—	—	北上川漁鑑札	1
	佐々木匡	奥州市	民具	28
	野崎他夫	盛岡市	花巻人形ほか	60

— は、寄贈者の希望により掲載しない。

合計 11,518 点

表5(4)-3 資料の製作

部門	名 称	内 容 の 概 略
民俗	無形資料レプリカ製作	宮古地方の仏事で調製される団子のレプリカを製作した。
生物	水田のナガコガネグモのジオラマ	稲にナガコガネグモが網をかけた様子を再現したもの。
生物	クモの視野体験模型	クモの拡大模型。頭胸部が空洞になっており、模型の眼を通して外部を見ることができる。

表5(4)-4 資料の補修、用品類の購入

部門	事業名	内 容
学芸第三課	ケースの補修	絵巻ケース側面の欠損部品の補充を行った。

表5(4)-5 機器類の保守点検と修繕

項目	部門	機器名または内容
保守点検	歴史	マイクロリーダープリンター

項目	部門	機器名または内容
保守点検	文化財科学	文化財科学実験システム(文化財科学室・器具庫・X線分析室空気清浄化システム)、表面分析装置(蛍光 X 線分析装置・X 線回折装置・走査型電子顕微鏡)、微量化学分析装置(ICP 発光分光分析装置)、汎用科学分析装置(赤外分光光度計・微小表面拡大観察装置・示差熱熱重量同時分析装置)、保存処理機器(小型真空凍結乾燥機・真空樹脂含浸装置)、博物館資料滅菌システム(文化財滅菌装置・ガス漏れ検知器)
修繕	文化財科学	X 線回折装置、ICP 発光分光分析装置、示差熱熱重量同時分析装置、塩素イオンメーター、エアブレイシブル装置
その他	文化財科学	全館くん蒸消毒、文化財科学作業環境測定、使用済薬品等廃棄処分

イ. 資料の保管管理

収集整理した資料は部門別または材質別に、第1～5収蔵庫で保管される。収集した資料については調査研究が行われ、学術的に重要と判定されたものが博物館資料として登録される。調査研究の過程で得られた学術データはデータベース化される。登録資料および学術データは常設展示や特別展示で公開されるほか、「収蔵資料目録」の刊行、資料貸出し等をとおり、他機関における活用にも積極的に協力している。

(ア) 資料の貸出

本年度についても、博物館や出版社をはじめとする様々な機関から、所蔵資料および写真類について多数の貸出しの要請があり、実物資料については25件・1108点、画像(写真)資料については64件・497点の貸出しを行った。博物館関係機関はもとより、教科書および学術書への掲載を目的とする借用が多くを占めた。

表5(4)-6 資料の貸出

担当部門	貸出先(所在地)	資料名	数量
地質	岩手県立図書館	角閃石黒雲母花崗閃緑岩、蛇紋岩、磁鉄鉱など	12
	奥州市牛の博物館	鯨類肋骨片化石、ヒメマスオ化石など	22
	公益社団法人日本アイソトープ協会	マンモスの臼歯など	37
	岩手県立図書館サイエンスシンポジウム実行委員会	始祖鳥(骨格標本)、モンリュウの上腕骨など	6
	奥州市牛の博物館	鯨類肋骨片化石、ヒメマスオ化石、ゴイサギガイ化石など	22
生物	奥州市牛の博物館	タヌキ成獣1剥製、タヌキ幼獣1剥製、キツネ成獣1剥製、キツネ幼獣1剥製、縄文柴犬頭骨	5
	東北歴史博物館	アルビノのツキノワグマ、伝狼毛皮、ツキノワグマ幼児剥製、熊ミナグロ剥製、熊ミナシロ剥製、ニホンジカ剥製、ニホンイノシシ剥製、ニホンタヌキ剥製、ホンダギツネ剥製、ニホンザル剥製、ニホンカモシカ剥製、	10
	山田町立鯨と海の科学館	大型海藻押し葉標本、小型海藻押し葉標本	10
	門田裕一	キンボウゲ科カラマツソウ属ミョウギカラマツなど	34
考古	北上市立博物館和賀分館	北上市和賀町愛宕山遺跡出土資料	6
	国立歴史民俗博物館	岩手県柳之御所遺跡出土資料	31
民俗	岩手県立農業科学博物館	今野幸正氏寄贈フィルム	842
	国立歴史民俗博物館	各種アバギ	12

担当部門	貸出先 (所在地)	資料名	数量
民俗	花巻市博物館	及川全三関係ホームスパン資料	15
	もりおか歴史文化館	竹スキー、下駄スケート、かんじき、湯たんぽ、電気足温器、夜着物、奥羽寒図記、原家の祝い膳	12
	岩手県芸術文化協会	岩手県立博物館製作 DVD「早池峰岳神楽」	1
歴史	山田町教育委員会	佐々木藍田 「鯨鱈を運ぶ人足図」など	5
	公益財団法人盛岡市文化事業団 原敬記念館	川井鶴亭「盛岡城下鳥瞰図」	1
	もりおか歴史文化館	橋本雪蕉「虎の図」、高橋雲峯「狗図」など	13
	花巻市博物館	「龍図屏風」	1
	もりおか歴史文化館	銀本小札紫糸緘二枚胴具足、鍾馗など	3
	盛岡市文化振興事業団盛岡市先人 記念館	川口月村スケッチ帳、川合鶴亭「盛岡城下鳥瞰図」	2
	国立歴史民俗博物館	枝菊文四重椀	1
	もりおか歴史文化館	奥羽寒図記	2
	小坂町立総合博物館郷土館	檜山佐渡書状案（澤田家文書）盛岡藩武庫刀など	7

合計 1,108 点

表 5 (4)-7 画像資料の貸出

部門名	貸出先	資料名	点数
地質	岩手県立図書館	角閃石黒雲母花崗閃緑岩、蛇紋岩、床板サンゴ シェドハリシテス、 磁鉄鉱、琥珀大塊、琥珀、紡錘状火山弾、バラ輝石、石英（両鍾水 晶）、岩手山火山噴出物、雲母状赤鉄鉱、石英（紫水晶）	12
	株式会社昭と土木設計	釜石市栗林町産の餅鉄	1
	株式会社キウイラボ	モシリユウ上腕骨	1
	株式会社オリーブグリーン	モシリユウ復元図	1
	株式会社平凡社	モシリユウの化石	1
	朝日新聞社	モシリユウ上腕骨	1
	NHK 仙台放送局	モシリユウ	1
	株式会社テレビ朝日	モシリユウ上腕骨、モシリユウの復元図	2
	朝日新聞社盛岡支局	モシリユウの復元図	1
	株式会社レマン	デスモスチルスの下乳臼歯（二戸市金田一湯田標本）、パレオバラ ドキシア臼歯（和井内標本）、ウシ 頭骨、カモシカ 頭骨、シカ 頭骨	5
株式会社ベネッセコーポレーション	ハナイズミモリウシ	1	
生物	NHK 盛岡放送局	在来と外来のタンポポ	2
	株式会社岩手日報社	ミヤマアカネ（未成熟）、ミヤマアカネ、エゾイトトンボ、チョウ トンボ、ハッチョウトンボ（雄）、ハッチョウトンボ（雌）	6
	株式会社コールサック社	鳥羽源藏肖像写真	1
考古	(株)クリエイティブネクサス	蒜内遺跡エリ状遺構イラスト	1
	岩手大学人文社会学部教授 玉澤友基	太田幸太郎はがき	1
	岩瀬恵美	豊岡遺跡出土遮光器土偶、企画展「遮光器土偶の世界」のチラシ 表	2
	株式会社同成社	豊岡遺跡出土遮光器土偶後頭部、豊岡遺跡出土遮光器土偶側面	2
	岩手日報社	豊岡遺跡出土遮光器（正面）、土偶豊岡遺跡出土遮光器土偶（側 面）	2
	季刊誌 旅鶴	手代森遺跡出土遮光器土偶	1
	高橋信雄	豊岡遺跡出土遮光器土偶	1
	株式会社目の眼	豊岡遺跡出土遮光器土偶	1
	株式会社 NHK 出版	手代森遺跡出土遮光器土偶	1
	株式会社ニューサイエンス社	手代森遺跡出土遮光器土偶	1
	株式会社小学館	豊岡遺跡出土遮光器土偶	1
	株式会社フォト・オリジナル	手代森遺跡出土遮光器土偶	1

部門名	貸出先	資料名	点数
考古	滝沢市埋蔵文化財センター	比爪と平泉かわらけ、高屋敷Ⅲ遺跡常滑産三筋壺	2
	(株)ニルソンデザイン事務所	萩内遺跡の大型土偶頭部	1
	株式会社フォト・オリジナル	手代森遺跡出土遮光器土偶	1
	岩手県文化振興事業団 埋蔵文化財センター	手代森遺跡出土遮光器土偶、萩内遺跡出土大型土偶頭部	2
	株式会社山と溪谷社	豊岡遺跡出土遮光器土偶	1
	株式会社KADOKAWA	手代森遺跡出土遮光器土偶	1
	株式会社かみゆ	手代森遺跡出土遮光器土偶	1
		手代森遺跡出土遮光器土偶	1
民俗	陸前高田昔がたりの会	森口多里写真コレクションのうち陸前高田のセックマチ	2
	盛岡大学 熊谷常正	長母寺蔵『蓑虫山人絵日記』	22
	花巻市博物館 高橋信雄	古今雛、享保雛	3
	岩手県立大学 菊池直子	雫石地方の野良着のうち汗はじき	1
	岩手女性史を紡ぐ会	長バンテン、カデキリ	2
	旭川市博物館 瀬川拓郎	森口多里写真コレクションのうち大船渡市吉浜のスネカ	1
	もりおか歴史文化館	国策湯たんぼ	1
	京都造形芸術大学 染谷聡	泉山恵一漆器コレクション	368
歴史	株式会社ランズ	毛越寺・観自在王院模型	3
	大島晃一	岩手公園全図	2
	青森県	煎海鼠、干鮑、1823（文政6）年に設置された大畑陣屋の絵図、儒道統之図、ペリー横浜行列之図並江戸湾警備諸大名配置絵図、1859（安政6）年蝦夷地6藩分領図	6
	株式会社国書刊行会	（折本）観光と産業の岩手県、岩手県観光鳥瞰図原図	2
	世界淡水魚園水族館アクア・トトギス	鯨尾兜	1
	新潟市文化財センター	大槌畑屋鍛冶絵巻	1
	(株)TBS ビジョン	東方見聞録 複製	1
	株式会社教育統計会	俵物 干し鮑、干し海鼠、鯨のひれ	3
	株式会社日企	橋野高炉絵巻	1
	岩手県立図書館	中国古印、銅造阿彌陀如来立像（松岩寺）	1
	株式会社碧水社	鯨尾兜	1
	青森県	大畑陣屋絵図、煎海鼠、干鮑	3
	神奈川県教育委員会	被災古文書など	1
	株式会社ランブル・ビー	蒲生氏郷所用黒漆塗燕尾形兜	1
	鎌倉歴史文化交流館	毛越寺伽藍復元模型写真	1
	株式会社昭和土木設計	餅鉄の画像	1
	岩手県高等学校教育研究会地歴・公民部会	小学読本、民間備忘録	2
	金ヶ崎町教育委員会	前九年合戦図屏風	1
	株式会社現代書館	准胝観音菩薩	1
	伊藤朱実	盛岡城下鳥瞰図、小操舟模型、體舟模型	3
	もりおか歴史文化館	奥羽寒図記	1
	国立歴史民俗博物館	枝菊文四重椀	1

合計 497 点

ウ. 文化財科学部門

岩手県立博物館には先人から伝えられた貴重な文化財、自然界の営みを知るうえでの重要な自然史標本をはじめとする数多くの学術資料が収蔵・展示されている。これらの資料が携えている様々な情報を、自然科学的方法で解析し読み解くと共に、貴重な学術資料をできるだけ長くそのままの状態の後世に伝えることを目的として、文化財科学部門が設置されている。

(ア) 資料の保管・管理

博物館資料をできるだけ長く後世に伝えるためには、資料の素材に適した保存環境を設定する必要がある。岩手県立博物館では収蔵庫及び展示場に温湿度記録計を設置し、継続的に温湿度変化を観察している。その結果にもとづき空調機を制御し、更に必要に応じて除湿器や加湿器を使用しながら、展示場、収蔵庫内の温度を18～23℃、湿度を55～65%に維持することに努めている。今年度は老朽化したデータログを更新し、収蔵庫、展示場、展示ケース内の温湿度変動をきめ細かく計測できるようにした。

特に精度の高い湿度管理を施す必要がある資料については、調湿剤をセットしたエアタイトケースに収納し公開している。劣化が進んだ出土金属器・木器については、脱酸素剤、調湿剤を入れた透湿抵抗の高いガスバリアフィルムに封入し、劣化の進行防止を図っている。

(イ) 生物学的劣化からの防除

文書、書籍類、繊維製品、自然史標本等有機化学物質を素材とする資料は、虫や黴により食害される心配がある。また、新たに博物館に搬入される資料には有害な虫や黴が付着している可能性がある。固着する有害生物を駆除することなく収蔵庫や展示場に運び込まれた場合、急激に繁殖する恐れがある。有害な虫や黴から資料を守るため、岩手県立博物館では新規に搬入された資料について、必ず滅菌装置でくん蒸を行っている。平成29年度の滅菌装置によるくん蒸実施状況は、表5(4)-8に示すとおりである。

表5(4)-8 滅菌装置によるくん蒸実施状況

部門	資料種別	数量	単位	備考
民俗	民具等	53	件	テーマ展・巡回展用資料等
	委託製作品	2	箱	
生物	押し葉標本	17	箱	文献・書籍類、クモ卵のう等
	昆虫標本（ドイツ箱入）	56	箱	
	その他	19	件	
地質	岩石・化石標本	5	箱	測量器（資料）、文献・書籍類
	その他	6	箱	
歴史	文書類	5	件	ラップ等
	その他	17	件	
考古	土器	9	箱	

平成29年9月1日から10日まで、密閉くん蒸法により、第1・第2・第3収蔵庫、歴史・古美術整理室、第2資料登録室及び書庫、第4倉庫をくん蒸した。その後、有害な虫や黴の発生源となる空調機の送排風口、収蔵庫の棚に固着する塵埃の除去を行った。なお、平成29年7月および平成29年11月には、館内の害虫生息状況について実態調査を実施している。

平成30年度も、有害な虫や黴の発生を抑制する良好な展示・収蔵環境の確立を図るため、労働安全衛生法および関連諸規則を順守しつつ、生物学的劣化防除のための対策を施す予定である。

(ウ) 資料の科学分析・保存処理

資料を現状のまま長く保存し活用するためには、資料の内部構造や製作に使用された素材を把握する必要がある。岩手県立博物館では、EPMA(エレクトロ・プローブ・マイクロアナライザー)、蛍光X線分析装置をはじめとする表面分析装置、高周波誘導結合プラズマ発光分光光度計などの微量分析機器を使用して、文化財を自然科学的方法で調査し、資料の素材に関する基礎情報を収集している。

調査の結果、劣化の進行が著しく、形状保全が難しいと判断された資料については、保存修復を施している。平成29年度の岩手県立博物館関係資料の分析・保存処理実施状況は表5(4)-9のとおりである。

表5(4)-9 館関係資料の分析・保存処理実施状況

分析・処理内容	点数
漆資料の自然科学的調査	8
紙製資料の自然科学的調査	62
土製資料の自然化学的調査	13
非鉄金属資料の自然科学的調査	54
鉄製試料の自然科学的調査	11
ガラス資料の自然科学的調査	1
コハク資料の自然科学的調査	3

既述のとおり、文化財の科学分析、保存修復には様々な理化学機器が使用される。それらの安全で円滑な使用を図るため、労働安全衛生法および関連諸規則等に定められている機器の保守点検、作業環境測定及び使用済薬品の無害化処理の委託(表5(4)-10)を実施した。様々な機器を使って得られた情報は、資料の保存方法、良好な保存環境の維持にも生かされている。

表5(4)-10 委託事業

委託事業名	数量	単位	備考
全館くん蒸消毒(7,354m ³)	7	個所	第1・第2・第3収蔵庫、歴史・古美術整理室、第2資料登録室、書庫、第4倉庫
文化財科学機器保守点検	6	件	表面分析装置、微量化学分析装置、汎用科学分析装置、保存処理機器、博物館資料滅菌システム、文化財科学実験システム
文化財科学作業環境測定	1	件	
使用済薬品等廃棄処分	1	件	

5. (5) 総務企画調整

ア. 総括出版広報

(ア) 印刷物

a. 博物館だより No. 153~156 (A4判、8頁、各3,000部)

153号：目次／第68回企画展「遮光器土偶の世界」表紙／事業報告「教員のための博物館の日」p.2／事業報告 ミュージウムコンサート 活動報告 平成28年度文化財等取扱講習会 p.3／展覧会案内 遮光器土偶は何に使われたのかー第68回企画展「遮光器土偶の世界」p.4-5／いわて文化ノート 蚕と猫と馬～養蚕をめぐる動物たち～p.6-7／インフォメーション p.8

- 154号：目次／テーマ展 中世の南部氏と糠部 表紙／いわて文化ノート 発掘調査から見えてきた閉伊の古代～中世鉄生産 p.2-3／展覧会案内 テーマ展「中世の南部氏と糠部」 p.4-5／事業報告 ゴールデンウィークスペシャルイベント p.6／事業報告 県博バックヤードツアー p.7／インフォメーション p.8
- 155号：目次／テーマ展 ひとのかたち～ひなまつりをむかえる前に～ 表紙／いわて自然ノート 里山の鳥・サンコウチョウの生態 p.2-3／展覧会案内 巡回展「海を越えた絆～『ミス岩手』と青い目の人形～」 p.4／展覧会案内 テーマ展「ひとのかたち～ひなまつりをむかえる前に～」 p.5／事業報告 岩手県文化振興事業団自主事業「なつやすみ★スペシャル！」 事業報告 第74回自然観察会「稲庭岳～秋の山を楽しむ～」 p.6／活動レポート 第9回岩手県立博物館まつり・第39回盛岡矯正展－タッグフェスタ in 松園－ p.7／インフォメーション p.8
- 156号：目次／地域展 明日につなぐ気仙のたからもの－津波で被災した陸前高田資料を中心に－ 表紙／展覧会案内「明日につなぐ気仙のたからもの－津波で被災した陸前高田資料を中心に－」の開催に当たって p.2-3／事業報告 トピック展「ゆく酉くる戌」 解説員室より ～博物館を2倍楽しむ「？」から「！」へ「ワクワク！こどもツアー」～ p.4／展覧会案内 トピック展「知られざる切手の世界」 事業報告 県博日曜講座 p.5／館長エッセイ「青い目の人形と答礼人形（日本人形）の辿った歴史を訪ねて」 p.6-7／インフォメーション p.8

b. 平成28年度岩手県博物館年報

平成29年5月1日発行（A4判相当PDF版、74頁、ホームページ掲載）

c. 行事案内リーフレット

平成29年度下半期分（B4変形・巻四ツ折、26,000部、平成29年8月発行）

平成30年度上半期分（B4変形・巻四ツ折、26,000部、平成30年3月発行）

d. 子ども向け行事案内リーフレット「おやすみの日は博物館に行こうよ！」

平成29年7月～3月分（A4・田四ツ折、27,000部、平成29年6月発行）

（イ）広報活動

a. 当館独自の広報

- ①イベントガイド（毎月、市内外公共施設および松園地区配布、約2,000部）、行事案内リーフレット（年2回、公共施設および観光施設等配布、26,000部）、子どもリーフレット（年1回、近隣小学校等に配布、30,000部）、「冬・春休み子ども新聞」（年1回、二戸～奥州市の小学校等に配布、45,000部）

- ②新聞広告(岩手日報ぽらん)、その他各事業別ちらし（随時） 等

b. その他の公所

教育記者クラブ、日博協、全科協、県観光協会、盛岡観光コンベンション協会 等

c. 新聞各社への情報

胆江日日新聞、デーリー東北、東海新報、盛岡タイムス、秋田魁新報 等

d. ミニコミ誌等

acute、Amuse、vivitto、マ・シェリ、游悠、rakra 等

e. テレビ・ラジオによる広報

①テレビ広報 214回 ②ラジオ広報 25回。

(ウ) 博物館公式ホームページ及び SNS の運営

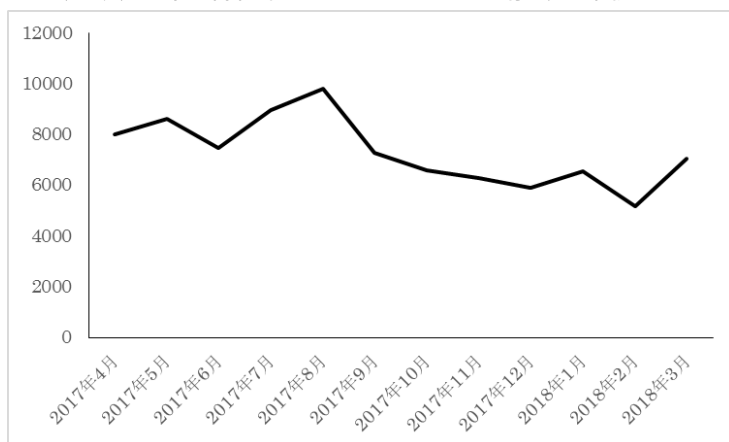
岩手県立博物館公式ホームページ

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>

公式ホームページは、平成 13 年 3 月 1 日に正式公開された。平成 24 年度末に委託製作によりデザインを刷新し、またウェブサーバの cgi プログラムを介して内容を更新できるシステムを導入することにより、更新頻度を高めた。平成 29 年度は、特別展が好評を博したことなどの効果により、トップページの閲覧回数は 87,708 回と前年度より約 15%増加した(表 5(5)-1)。その他のページでは、博物館の概要、展覧会案内、利用案内、展示室案内の順にページの閲覧回数が多かった。

平成 29 年度には、英語の案内ページを全面刷新したほか、新規に中国語(大陸・台湾)、韓国語の案内ページを公開した。また、当館で行っている文化財レスキュー事業に関する情報のページを全面更新した。

表5(5)-1 県立博物館ホームページトップの閲覧数の推移



SNS の利用としては、開館 30 周年を機に平成 22 年 9 月 30 日からツイッターアカウントを運用しているほか、平成 28 年 1 月 5 日からフェイスブックの正式運用を開始した。平成 29 年度内のツイート回数は 191 回であった。年度末時点のツイッターアカウントのフォロワー数は約 4,420 人と、前年度に比べて約 10%増加している。

イ. 情報機器の管理

平成 29 年度は、ネットワーク共有サーバのバックアップ用ハードディスク、カラーレーザープリンタの感光体等を更新した。

ウ 委員会等職員派遣

表5(5)-2 平成 29 年度外部団体等への委員の派遣一覧

No.	月 日	委嘱元	委員会等名称	内 容	派遣職員
1	4 月 17 日	岩手県環境生活部環境保全課	県環境影響評価技術審査会	第 67 回審査会	鈴木まほろ
2	4 月 27 日	北上市史編さん室	北上市史編さん自然部会	第 3 回自然部会会議	鈴木まほろ
3	5 月 8 日	大津波プロジェクト実行委員会	同 左	平成 29 年度事業計画について	赤沼英男
4	5 月 11 日	釜石市教育委員会	平成 29 年度第 1 回釜石市橋野高炉史跡整備検討委員会	橋野高炉史跡整備に係る検討	赤沼英男
5	5 月 12 日	八幡平市教育委員会	平成 29 年度第 1 回八幡平市博物館協議会		小野寺俊彦

No.	月 日	委嘱元	委員会等名称	内 容	派遣職員
6	5月24日	滝沢市教育委員会文化振興課		滝沢市カワシンジュガイ分布調査	渡辺修二
7	6月9日	県沿岸振興局大船渡土木センター		希少植物調査	鈴木まほろ
8	6月6日	岩手県教育委員会	平成29年度教育振興運動推進研修会		小野寺俊彦
9	6月11日	北上市史編さん室	北上市史編さん自然部会	北上市クモ相調査	渡辺修二
10	6月20日	滝沢市教育委員会文化振興課		滝沢市カワシンジュガイ分布調査	渡辺修二
11	6月22日	北上市史編さん室	北上市史編さん自然部会	第1回市史編さんに係る事務調整会議(生物編)	鈴木まほろ 渡辺修二
12	6月22日	釜石市教育委員会	平成29年度第1回釜石市橋野高炉史跡整備に係る検討	橋野高炉史跡整備に係る検討	赤沼英男
13	6月24日	日本植物分類学会 絶滅危惧植物・専門第一委員会		植物レッドリスト見直し調査	鈴木まほろ
14	6月26日	日本植物分類学会 絶滅危惧植物・専門第一委員会		植物レッドリスト見直し調査	鈴木まほろ
15	6月27日	岩手県環境生活部環境保全課	県環境影響評価技術審査会現地調査	地熱発電所・風力発電所予定地視察	鈴木まほろ
16	6月28日	日本植物分類学会 絶滅危惧植物・専門第一委員会		植物レッドリスト見直し調査	鈴木まほろ
17	7月1日	日本植物分類学会 絶滅危惧植物・専門第一委員会		植物レッドリスト見直し調査	鈴木まほろ
18	7月8日	日本生態学会	日本生態学会理事会	第1回理事会	鈴木まほろ
19	7月11日	岩手県環境生活部環境保全課	県環境影響評価技術審査会	第68回審査会	鈴木まほろ
20	7月11日	岩手県教育委員会	平成29年度教育振興運動第1回推進幹事会		小野寺俊彦
21	7月14日	岩手県環境生活部自然保護課	岩手県自然環境保全指針見直し検討委員会	第1回検討委員会	鈴木まほろ
22	7月14日	滝沢市教育委員会文化振興課		滝沢市カワシンジュガイ分布調査	渡辺修二
23	7月15日	北上市史編さん室	北上市史編さん自然部会	北上市クモ相調査	渡辺修二
24	7月17日	日本植物分類学会 絶滅危惧植物・専門第一委員会		植物レッドリスト見直し調査	鈴木まほろ
25	7月25日	東北森林管理局	平成29年度早池峰山周辺地域のニホンジカ生息状況・森林影響等調査検討委員会	第1回委員会	鈴木まほろ
26	7月27日	岩手県沿岸広域振興局	希少野生動物調査検討委員会	第1回委員会	鈴木まほろ
27	7月28日	岩手県復興局	平成29年度第1回高田松原津波復興祈念公園震災津波伝承施設検討委員会	津波伝承施設の整備検討	赤沼英男
28	7月31日	日本植物分類学会 絶滅危惧植物・専門第一委員会		植物レッドリスト見直し調査	鈴木まほろ
29	8月3日	岩手県環境生活部環境保全課	県環境影響評価技術審査会	第70回審査会	鈴木まほろ
30	8月7日	日本植物分類学会 絶滅危惧植物・専門第一委員会		植物レッドリスト見直し調査	鈴木まほろ
31	8月10日	岩手県環境生活部環境保全課	県環境影響評価技術審査会	第71回審査会	鈴木まほろ
32	8月19日	北上市史編さん室	北上市史編さん自然部会	北上市植物相調査	鈴木まほろ
33	8月28日	日本植物分類学会 絶滅危惧植物・専門第一委員会		植物レッドリスト見直し調査	鈴木まほろ
34	8月31日	大船渡土木センター住田整備事務所		希少植物調査	鈴木まほろ
35	9月14日	岩手県環境生活部環境保全課	県環境影響評価技術審査会	第72回審査会	鈴木まほろ
36	9月15日	岩手県環境生活部自然保護課	岩手県自然環境保全指針見直し検討委員会	第2回委員会	鈴木まほろ
37	9月19日	日本植物分類学会 絶滅危惧植物・専門第一委員会		植物レッドリスト見直し調査	鈴木まほろ
38	9月20日	県沿岸広域振興局農林部大船渡農林振興センター		希少植物調査	鈴木まほろ
39	9月22日	釜石市教育委員会	平成29年度第3回釜石市橋野高炉史跡整備に係る検討	橋野高炉史跡整備に係る検討	赤沼英男

No.	月 日	委嘱元	委員会等名称	内 容	派遣職員
40	9月24日	北上市史編さん室	北上市史編さん自然部会	北上市植物相調査	鈴木まほろ
41	9月27日	日本植物分類学会 絶滅危惧植物・専門第一委員会		植物レッドリスト見直し調査	鈴木まほろ
42	9月29日	岩手県環境生活部自然保護課	岩手県環境審議会自然・鳥獣部会	同左	鈴木まほろ
43	10月5日	県沿岸広域振興局土木部	希少野生動植物調査検討委員会	希少種移植作業	鈴木まほろ
44	10月17日	金ケ崎町生活環境課		金ケ崎町カワシンジュガイ分布調査	渡辺修二
45	10月30-31日	三陸ジオパーク推進協議会	日本ジオパーク再認定審査	学術アドバイザーとしての同行	望月貴史
46	11月2日	北上市史編さん室	北上市史編さん自然部会	第2回北上市史編さん自然部会	鈴木まほろ
47	11月8日	滝沢市教育委員会文化振興課		滝沢市カワシンジュガイ分布調査	渡辺修二
48	11月8日	岩手県環境生活部環境保全課	県環境影響評価技術審査会	第73回審査会	鈴木まほろ
49	11月9日	金ケ崎町生活環境課		金ケ崎町カワシンジュガイ分布調査	渡辺修二
50	11月9日	大津波プロジェクト実行委員会	同左	平成29年度下半期事業計画について	赤沼英男
51	11月16日	北上市史編さん室	北上市史編さん自然部会	第2回市史編さんに係る事務調整会議（生物編）	鈴木まほろ 渡辺修二
52	11月17日	金ケ崎町生活環境課		金ケ崎町カワシンジュガイ分布調査	渡辺修二
53	11月27日	岩手県環境生活部環境保全課	県環境影響評価技術審査会	第74回審査会	鈴木まほろ
54	12月1日	滝沢市教育委員会文化振興課		滝沢市カワシンジュガイ分布調査報告会	渡辺修二
55	12月6日	岩手県高等学校教育研究会理科部会	第64回岩手県高等学校理科研究発表会ならびに第40回岩手県高等学校総合文化祭自然科学部門研究発表会	発表論文事前審査	渡辺修二
56	12月6日	東北森林管理局	平成29年度早池峰山周辺地域のニホンジカ生息状況・森林影響等調査検討委員会	第2回委員会	鈴木まほろ
57	12月13日	岩手県高等学校教育研究会理科部会	第64回岩手県高等学校理科研究発表会ならびに第40回岩手県高等学校総合文化祭自然科学部門研究発表会	審査員	山岸千人 渡辺修二
58	12月16日	日本生態学会	日本生態学会理事会	第2回理事会	鈴木まほろ
59	1月23日	金ケ崎町生活環境課	生物多様性かねがさき地域戦略推進協議会	同左	鈴木まほろ
60	1月25日	岩手県環境生活部自然保護課	平成29年度岩手県希少野生動植物保護検討委員会	同左	鈴木まほろ
61	1月30日	陸前高田市教育委員会	第1回岩手県指定文化財大肝入吉田家住宅復旧計画検討委員会	岩手県指定文化財吉田家住宅再建についての検討	赤沼英男
62	2月6日	岩手県環境生活部環境生活企画室	岩手県環境審議会・同自然鳥獣部会	同左	鈴木まほろ
63	2月8日	岩手県環境生活部環境保全課	県環境影響評価技術審査会	第76回審査会	鈴木まほろ
64	2月17日	日本生態学会	日本生態学会理事会	第3回理事会	鈴木まほろ
65	2月21日	岩手県教育委員会	平成29年度教育振興運動第2回推進幹事会		小野寺俊彦
66	2月23日	県沿岸広域振興局	希少野生動植物調査検討委員会	第2回委員会	鈴木まほろ
67	2月28日	北上市史編さん室	北上市史編さん自然部会	北上市博植物標本調査	鈴木まほろ
68	2月28日	四十四田ダム水源地域ビジョン推進会議	平成29年度四十四田ダム水源地域ビジョン推進会議総会	平成29年度の活動状況報告と次年度計画について	濱田宏
69	3月7日	北上市史編さん室	北上市史編さん自然部会	北上市博植物標本調査	鈴木まほろ
70	3月9日	盛岡市教育委員会	第2回盛岡市子ども科学館運営協議会		小山内透

No.	月 日	委嘱元	委員会等名称	内 容	派遣職員
71	3月13日	岩手県環境生活部自然保護課	岩手県自然環境保全指針見直し検討委員会	第3回委員会	鈴木まほろ
72	3月14日	岩手県政策地域部地域振興室	共同企画展「三陸の海」の開催に向けた検討会		山岸千人
73	3月19日	岩手県環境生活部自然保護課	平成29年度早池峰地域シカ対策部会	同左	鈴木まほろ
74	3月20日	北上市史編さん室	北上市史編さん自然部会	北上市博植物標本調査	鈴木まほろ
75	3月21日	北上市史編さん室	北上市史編さん自然部会	北上市博植物標本調査	鈴木まほろ
76	3月27日	大津波プロジェクト実行委員会	同左	平成30年度事業計画について	赤沼英男

エ 外部助成

研究助成 平成29年度は、外部助成として1件の採択があった。

表5(5)-3 平成29年度 岩手県立博物館職員研究助成採択状況

	氏 名	部門	研究テーマ名	助成の名称	申請先
1	鈴木まほろ	生物	市民と博物館の協働による地域植物相の解明	平成29年度笹川科学研究助成 実践研究部門	公益財団法人日本 科学協会

6. 文化財レスキュー活動

(1) はじめに

2011(平成23)年3月11日に発災した東日本大震災で、東日本太平洋沿岸部に立地する博物館関係施設をはじめ、図書館、学校、宗教法人及び個人等が所有する膨大な数の文化財、自然史標本等が被災した。文化財保護法制定以後最大規模の自然災害発生を受け、岩手県立博物館（以下、当館という。）では、2011年4月2日から今日まで、岩手県沿岸部の被災資料救出とその再生に取り組んできた。

救出された資料は多量の塩分を含み、津波によってもたらされた様々な物質が固着していた。それらを長期にわたり安定的に保管できる状態に再生させるには、大津波がもたらした有害な物質を除去し、資料の劣化進行を防止するための安定化処理が不可欠である。そこで当館では、全国の博物館、大学、文化財科学の研究者等と連携しながら、救出された古文書、民具、自然史標本等に対する安定化処理方法を構築し、その再生を図ってきた。平成30年3月末現在、岩手県太平洋沿岸部から救出された25万点余りの資料の再生を果たしてきたが、それでも未だ25万点を超える資料が救出されたままの状態に保管され、再生の時を待っている。それらの中には新たな方法を構築し、対処しなければならない資料が相当数含まれている。津波で被災した資料を再生させるうえで不可欠な安定化処理については、国内はもとより国際的にも実践経験がない。試行錯誤を繰り返し再構築された安定化処理方法で再生された資料については、処理後の状態を注意深く経過観察しなければならない。今も当館では、処理と並行し全国の専門機関と連携して様々な試験研究を行いながら、被災資料の再生を進めている。以下に、平成29年度 of 取組状況について報告する。

(2) 安定化処理

当館では平成23年4月5日、岩手県陸前高田市立図書館から救出された古文書や書籍類の安定化処理に着手した。試行錯誤を重ねながら安定化処理方法を構築し、必要に応じて改良を加えながら処理を進めてきた。既述のとおり、大津波で被災した資料を再生するためには、資料の劣化要因、展示・収蔵施設の環境汚染につながる様々な要因を可能な限り取り除き、救出した資料を長期にわたり安定的に保管できる状態にする必要がある。そこで救出した資料に対し、除菌、除泥、脱塩を目的とする安定化処理方法を構築し、その処理を施してきた。さらに、構築した方法論を民俗資料用に改め、民俗資料の処理も進めてきたところである。



図1 民俗資料の経過観察

平成27年度以降の経過観察によって、一連の措置を施した紙を素材とする資料や、繊維及び木材を素材とする民俗資料の中に、異臭の発生や黄褐色への変色が確認される資料が散見されるようになった。その原因について東京文化財研究所と連携し調査したところ、魚の油脂等の発酵に起因する可能性の高いことがわかった。津波によってもたらされた物質の中に、海底のヘドロが含まれていて、その中に養殖や水産加工に起因する魚類の油脂やタンパク質が混在していたことが主因と推定された。この課題への対処として、これまで実施してきた処理工程に医療用中性洗剤（ホワイト7P）に

よる洗浄工程を新たに加えた。平成 28 年度からは中性洗剤による洗浄処理を民具にも拡大し導入している。平成 29 年度は平成 27 年度までに安定化処理を施した登録漁撈用具の状態を点検した。その結果、登録漁撈用具の中にも異臭や発生する酸性ガスで錆化が進行した資料が確認されたため、紙を素材とする資料同様、中性洗剤による再処理を施している。現在、平成 27 年度以降に処理した紙を素材とする資料及び民俗資料についても注意深く経過観察を行っている（図 1）。

紙を素材とする資料の安定化処理において技術的に克服しなければならない課題の一つに、インクや染料といった水に溶出する描画材料が使用された資料の洗浄が挙げられる。水への浸漬が困難なこれらの資料の安定化処理を実現するため、絵画の修復に使用されるサクシオンテーブルを導入した（図 2）。この装置を駆使することで、水洗により溶出の危険性が高い描画材料で描写された領域を回避し、水洗による汚損の心配がない領域を局所的に洗浄するという措置方法を取ることができるようになった。一方、安定化処理が終了した資料の多くは、欠失した部分や破損した部分、脆弱な部分が多々あり、それらに対する修理が不可欠である。紙を素材とする資料については、腐敗の進行によって大きく欠失した部分にオリジナルと同質の和紙を補填し強度を高める措置が施される。これまで、この措置は一定の修理技術を有する技術者が手作業で行ってきたが、作業効率の向上を図るため新たに、すきばめ機を導入した（図 3）。今後はこれらの機器を有効活用し、円滑な処理の実現を図っていきたいと考える。

自然史標本については発災時、全国の研究者が連携して標本の種類に適した措置方法を構築し、安定化処理及び修理を進めてきた。昆虫標本については平成 29 年度、整理の過程で新たに発見された標本に対する安定化処理及び修理を行った。植物標本については、標本の洗浄と関連する学術資料の安定化処理を実施した。平成 29 年度の安定化処理、修理等の実績を表 1 に、平成 23 年 4 月 2 日から平成 29 年 3 月末日までの被災文化財救援活動の推移を図 4 に示す。



図 2 サクシオンテーブルによる洗浄



図 3 すきばめ機による修理

表 1 平成 29 年度被災文化財等安定化処理および修理の実施状況

No.	実施内容	安定化処理・修理（点数）
1	陸前高田市立博物館所蔵被災紙製資料の安定化処理及び修理業務	4,870
2	陸前高田市立博物館所蔵被災民俗資料修理業務	693
3	陸前高田市立博物館所蔵被災鳥羽源蔵コレクション安定化処理及び修理業務	9,810
4	陸前高田市立博物館所蔵被災土器・土製文化財安定化処理業務	16
5	陸前高田市立博物館所蔵被災昆虫標本修理業務	350
6	陸前高田市立博物館所蔵被災押し葉標本修理業務	1,500

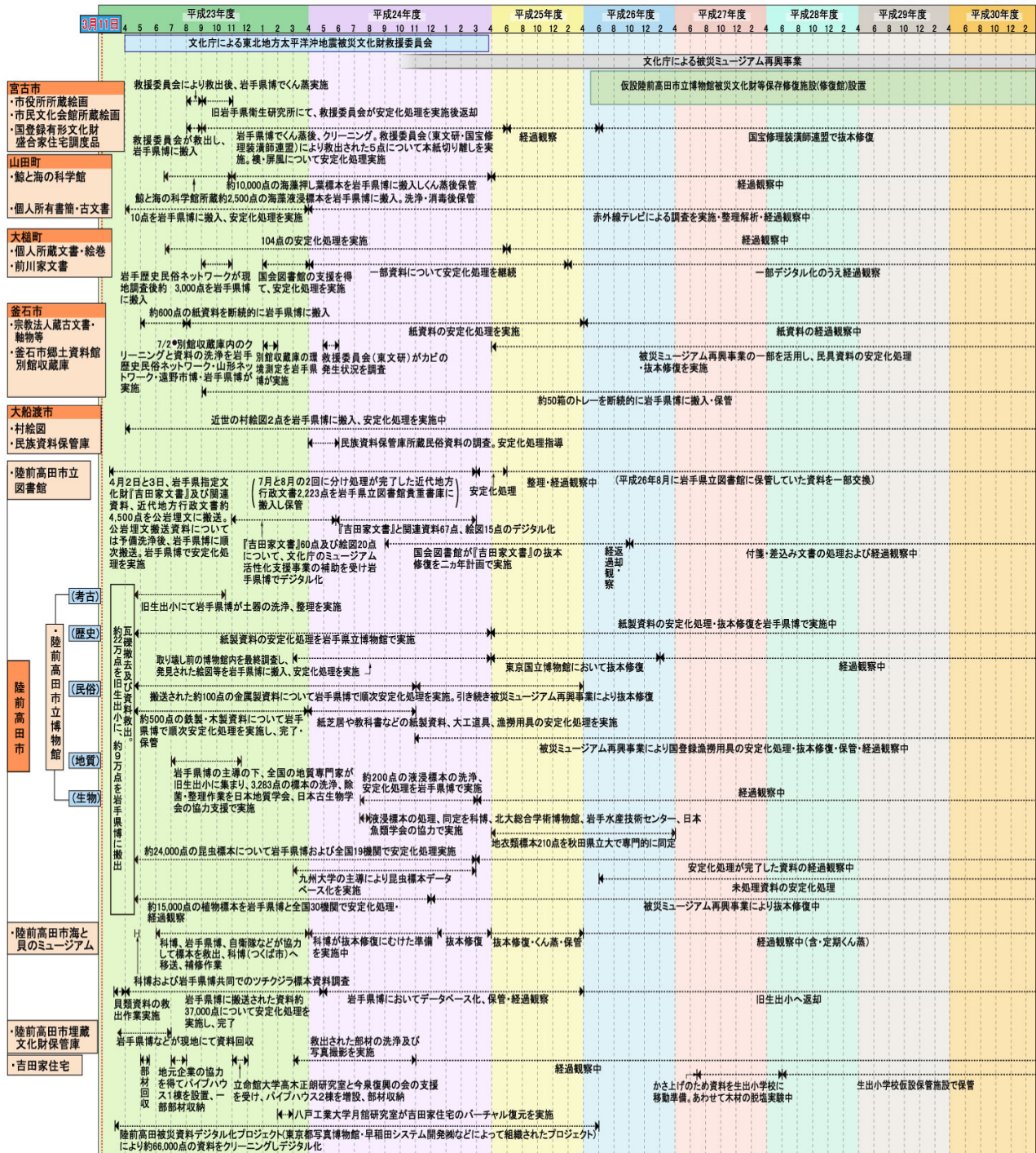


図4 岩手県立博物館が実施した岩手県沿岸部に所在する被災博物館および関連施設の救援活動状況

機関名略称：東北太平洋沖地震被災文化財等救援委員会=救援委員会、北海道大学総合学術博物館=北大総合学術博物館、国立国会図書館=国会図書館、国立科学博物館=科博、岩手県立博物館=岩手県博、旧陸前高田市立生田小学校=旧生田小(現仮設陸前高田市立博物館)、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター=公岩埋文

(3) 確立した安定化処理技術の普及

既述のとおり、津波で被災した資料の安定化処理は、国内はもとより国際的にみても未確立である。当館では、展示・教育普及活動を通じ、多くの方々に被災資料再生の現状と確立された技術を公開してきた。平成26年5月には、岩手県立博物館を中核館とする「津波により被災した文化財の保

存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会」(会長 岩手県立博物館長)を結成し、ア. 連綿と続く被災文化財等再生に対する取り組み状況を多くの方々に理解していただく、イ. 多くの専門機関の連携により構築された安定化処理技術を全国の博物館関係者と共有し、その普及を図る、ウ. 今後も発生が懸念される大規模自然災害に備える、エ. 被災した博物館の復興を支援する、という4項目、すなわち「活動に対する理解の醸成」、「技術の共有と普及」、「大規模自然災害への対応」、「被災機関の復興支援」を主な活動目的に掲げ、文化庁の支援を得ながら様々な活動を続けてきた。平成29年度については徳島県立博物館、新潟県立歴史博物館でそれぞれ、「よみがえる、ふるさとの“たからもの”－大津波被災文化財の再生から未来へー」(平成29年12月16日～平成30年1月21日)、「守れ!文化財－博物館のチカラ、市民のチカラ」(平成30年1月13日～3月21日)を開催した。

確立された安定化処理技術を全国の博物館関係者と共有し、今後発生が懸念される類似の自然災害に備えるため、上記特別展の開催に併せ平成30年1月14日に徳島県立博物館で、平成30年3月16日には新潟県立歴史博物館でそれぞれ、安定化処理をテーマとするワークショップを実施した。いずれのワークショップでもまず、被災文化財等救出から再生に至るまでの状況と今後の課題について説明し、円滑な救出を図る上での留意点や安定化処理を円滑に進めるうえで準備すべき事項等をわかり易く解説した。次に徳島のワークショップでは植物標本、民具、紙を素材とする資料、新潟では民具及び紙を素材とする資料の安定化処理実習を行った。実習後に設けられた質疑応答のコーナーでは参加者から、被災した資料の救出方法、救出された資料の保管方法、脱塩方法等、多岐にわたる技術的質問がなされた。

常総市の鬼怒川水害、熊本地震、台風10号による東日本大震災被災地の直撃、九州北部豪雨にみられるように、東日本大震災発災以降、水損を伴う自然災害が多発している。鬼怒川水害では常総市役所に保管されていた貴重な永年文書の再生を進めてきた国立公文書館及び常総市役所職員の方々と大津波プロジェクト実行委員会のメンバーが、海水と淡水で被災した資料の再生方法について情報交換を行った。参加者からは今後も類似の情報交換会を開催し、再生の質と速度を高めていきたい旨の感想が出された。

(4) 被災地支援

被災文化財再生に取り組んできた機関では、資料再生を図る一方で、新しい処理技術の開発が進められてきた。平成28年度以降新たに構築された処理方法を被災地に紹介し、被災地で実施されている安定化処理を円滑に進めることを目的に、平成29年7月31日、8月1日及び8月3日の3日間、仮設陸前高田市立博物館と岩手県立博物館において支援ワークショップが開催された。仮設陸前高田市立博物館では文化庁の調査官から、「三陸地方の漁撈用具の重要性と価値」、「大規模災害への文化庁等の対応について」お話をいただいた後、水溶性描画材料で洋紙に描かれた作品の安定化処理方法、安定化処理済資料の異臭、変色の原因とその対処方法、被災植物標本



図5 岩手県立博物館で実施された支援シンポジウム
救出された被災絵画関係資料の安定化処理方法について説明する東京国立博物館保存修復室長 土屋裕子氏

に発生したカビの処理方法についての講義と実習が行われた。8月3日には岩手県立博物館で、アクリル画の安定化処理方法について実演がなされた。一連の取り組みを通し、被災地に新たに伝達された最新の安定化処理技術が定着し、これまで困難視されてきた資料の再生が進むものと期待される。8月2日、陸前高田市から盛岡市への移動の途中、岩泉町教育委員会に立ち寄り、平成28年8月の台風10号による被災状況及び被災文化財再生状況を視察した。個人所有で近世から明治初頭の古文書、軸装類が相当数被災し、その再生を図っている旨の説明が担当者からあった。

平成30年3月3日～3月28日には岩手県立博物館において、支援特別展「明日につなぐ気仙のたからもの一津波で被災した陸前高田資料を中心にー」を、3月11日には「連綿と続く被災文化財再生の歩みー博物館復興をめざしてー」をテーマとする支援シンポジウムを開催した(図5)。これらの事業を通じ、発災から今日まで全国の様々な機関、個人の方々の支援を得て取り組んできた被災文化財等の再生に対する理解が得られると共に、今後の活動を進めるうえでの数多くの有益な情報交換がなされた。

(5) 今後の課題

陸前高田市に限っても未だ約24万強の資料が救出されたままの状態では保管されている。その中には、水洗不能な資料や、海水損によって変質したため、被災前の物性を回復しなければならない資料など、新たな安定化処理方法を構築し対処しなければならない資料が多数含まれている。岩手県立博物館ではこれまでの専門機関の連携を一層強化し、大津波プロジェクト実行委員会とも連携しながら、残された資料の一刻もはやい再生を図り、被災した博物館の復興と新たな大規模自然災害への対応を視野に入れた様々な活動に取り組んでいる。読者の皆様には引き続き御支援をお願いしたい。

7. 岩手県立博物館友の会

(1) 概要

本年度は、「自然観察会」や「地質観察会」「話のサロン（講演会）」など多彩な事業を実施した。現地見学会は一昨年、昨年には「いにしへの都に学ぶ」「いにしへの都・奈良に学ぶⅡ」を実施、次は京都に、という声に答え、「平安のみやこ・京都に学ぶ」を実施した。参加者12名であった。また、被災文化財レスキュー活動に数名の会員の方がボランティアとして従事している。高齢会員の退会などがあり、会員数は減少傾向にあるが、40歳代～60歳代の新規会員も少数ではあるが入会している。また、団体会員・賛助会員の増員を今後も望むところである。友の会活動は博物館の支援と生涯学習の場としても期待されており、事業内容の厳選と更なる充実が求められている。

(2) 会員数

平成29年度 327件 527人
一般会員 193人（平成28年度 207人）
家族会員 87件・287人（平成28年度 105件・318人）
小中高会員 0人（平成28年度 0人）
終身会員 25人（平成28年度 24人）
賛助会員 16件・28口（平成28年度 18件・29口）
団体会員 6件（平成28年度 6件）

(3) 主催事業

ア. 現地見学会

(ア) 第1回 「平安のみやこ・京都に学ぶ」

10月25日（水）～10月27日（金） 参加者 12人

イ. 野外観察会

(ア) 第1回 「自然観察会」 博物館行事に参加

「森や草原の昆虫を追いかけよう」 鞍掛山

7月29日（日） 参加者 13人

講師 元県農業試験場研究員 千葉武勝氏

(イ) 第2回 「自然観察会」 博物館行事に参加

「稲庭岳～秋の山を楽しむ～」 二戸市

9月23日（日） 参加者 21人

講師 元県農業試験場研究員 千葉武勝氏

(ウ) 第1回 「地質観察会」 博物館行事に参加

「三陸ジオパークの白亜紀の地層を読む」 野田村

7月2日（日） 参加者 39人

講師 盛岡市立高等学校教諭 小野寺弘幸氏

- (エ) 第2回 「地質観察会」 博物館行事に参加
「平泉～泉の仕組みを読解く」 平泉町
10月8日(日) 参加者31人
講師 県立博物館研究協力員 大石雅之氏

ウ. 話のサロン(講演会)

- (ア) 第1回「評価さまざまなお殿様」
5月13日(土) 参加者 28人
講師 杜陵高等学校教諭 佐々木勝弘氏
- (イ) 第2回「中世の南部氏と糠部について考える」(県博日曜講座)
10月8日(日) 参加者130人
講師 岩手県立博物館専門学芸員 佐々木康裕氏
- (ウ) 第3回「ドラゴンアイ(八幡平・鏡沼)のでき方を考える」(県博日曜講座)
12月10日(日) 参加者88人
講師 岩手県立博物館主任専門学芸調査員 山岸千人氏
- (エ) 第4回「いわて 魅惑の山々」
30年2月18日(日) 参加者25人
講師 版画家 日本山岳会会員 阿部陽子氏

エ. 会報発行等

- (ア) 「友の会会報」発行(A4版8頁、500部)
4回(No.108~111)発行(4,7,10,2の各月)
- (イ) 「友の会通信」発行(A4版両面刷り2頁、500部)
4回(No.113~116)発行(6,9,12,3の各月)
- (ウ) 「岩手県立博物館だより」発送
年4回発送(No.153~156)(6,9,12,3の各月)
- (エ) 「岩手県立博物館行事案内」発送
年2回(4,9各月)
- (オ) 県博の行事等の案内、要項を年9回開催の友の会企画委員会で随時発送。
- (カ) ボランティア活動
「文化財レスキュー」被災標本・古文書などのレスキュー ボランティア募集したところ会員数名が、現在被災標本のカビ等を洗浄・除去、乾燥・整理などの活動に従事している。

オ. 博物館事業への協力

県博日曜講座の一部を博物館行事への参加とし、博物館まつりの昔遊びでは企画委員のほかに数名の会員の協力を得て、いろいろな昔遊びを子供たちと一緒に遊び指導することができた。

8. 博物館利用者入館状況

開館以来の入館者数（総利用人数）

年度	総利用人数				開館日数	1日平均 利用人員
	一般	高大学生	小中学生	計		
昭55	95,469	6,563	22,960	124,992	146	856
昭56	145,756	10,908	50,621	207,285	298	696
昭57	106,400	8,673	44,210	159,283	297	536
昭58	87,531	8,903	34,405	130,839	298	439
昭59	81,247	8,451	36,357	126,055	299	422
昭60	78,701	10,825	36,703	126,229	297	425
昭61	69,226	9,765	37,551	116,542	298	391
昭62	65,570	9,500	40,731	115,801	299	387
昭63	58,908	9,526	36,922	105,356	296	356
平元	56,379	11,139	37,960	105,478	297	355
平2	65,021	11,049	34,432	110,502	299	370
平3	60,880	11,917	30,926	103,723	298	348
平4	55,309	10,793	28,354	94,456	298	317
平5	98,842	9,995	32,034	140,871	298	473
平6	42,164	6,246	19,460	67,870	297	229
平7	52,296	5,546	19,038	76,880	298	258
平8	44,719	4,855	16,773	66,347	297	223
平9	34,682	4,123	14,435	53,240	289	184
平10	43,966	4,980	12,669	61,615	298	207
平11	26,762	4,576	9,997	41,335	298	139
平12	24,315	3,624	12,175	40,114	297	135
平13	24,436	2,780	11,709	38,925	300	130
平14	28,859	2,219	12,281	43,359	297	146
平15	23,742	1,852	11,741	37,335	298	125
平16	27,149	1,337	10,099	38,585	297	130
平17	39,795	2,090	12,081	53,966	299	180
平18	23,947	1,644	12,649	38,240	303	126
平19	24,473	1,515	13,221	39,209	304	129
平20	25,287	836	14,858	40,981	302	136
平21	25,010	1,279	15,051	41,340	300	138
平22	23,510	1,293	11,276	36,079	292	124
平23	16,021	1,018	13,604	30,643	301	102
平24	21,069	1,027	15,309	37,405	302	124
平25	25,006	960	18,244	44,210	303	146
平26	19,181	1,227	12,438	32,846	303	108
平27	24,048	1,605	14,605	40,258	302	133
平28	26,620	1,417	16,931	44,968	304	148
平29	31,074	1,631	17,614	50,319	303	166
総計	1,823,370	197,687	842,424	2,863,481	11,202	-
平均	47,983	5,202	22,169	75,355	295	264

平成29年度月別入館者数

区分 月	総利用人数				開館日数	1日平均 利用人員
	一般	高大学生	小中学生	計		
4	2,793	150	1509	4,452	26	171
5	4,341	269	2,519	7,129	27	264
6	2,616	75	1,064	3,755	26	144
7	3,557	165	1,355	5,077	27	188
8	3,986	281	2,021	6,288	29	217
9	1,186	30	1,182	2,398	17	141
10	3,604	177	2,775	6,556	26	252
11	2,112	66	993	3,171	26	122
12	1,394	66	1173	2,633	24	110
1	1,896	59	1032	2,987	24	124
2	1,413	194	822	2,429	24	101
3	2,176	99	1,169	3,444	27	128
計	31,074	1,631	17,614	50,319	303	166

開館以来の入館者数（利用区分別）

区分 年度	個人利用				団体利用				免除利用			
	一般	高大学生	小中学生	計	一般	高大学生	小中学生	計	一般	高大学生	小中学生	計
昭55	69,259	4,275	16,657	90,191	24,506	465	2,036	27,007	1,704	1,823	4,267	7,794
昭56	87,659	5,233	21,762	114,654	54,724	637	4,458	59,819	3,373	5,038	24,401	32,812
昭57	66,727	3,275	16,722	86,724	35,538	648	3,498	39,684	4,135	4,750	23,990	32,875
昭58	51,058	2,348	11,723	65,129	33,072	775	2,743	36,590	3,401	5,780	19,939	29,120
昭59	48,286	2,195	11,338	61,819	28,982	635	2,378	31,995	3,979	5,621	22,641	32,241
昭60	46,054	2,137	10,007	58,198	29,308	411	2,104	31,823	3,339	8,277	24,592	36,208
昭61	39,516	1,911	8,830	50,257	25,888	445	2,010	28,343	3,822	7,409	26,711	37,942
昭62	39,761	1,803	8,647	50,211	22,645	339	1,860	24,844	3,164	7,358	30,224	40,746
昭63	37,362	1,910	8,018	47,290	18,817	551	2,155	21,523	2,729	7,065	26,749	36,543
平元	34,617	1,866	7,386	43,869	18,465	208	1,224	19,897	3,297	9,065	29,350	41,712
平2	38,272	2,034	8,334	48,640	21,014	827	1,046	22,887	5,735	8,188	25,052	38,975
平3	35,073	1,851	6,993	43,917	18,810	1,026	2,031	21,867	6,997	9,040	21,902	37,939
平4	33,581	1,743	6,735	42,059	15,239	1,423	1,190	17,852	6,489	7,627	20,429	34,545
平5	36,726	2,018	8,406	47,150	10,300	844	1,197	12,341	51,816	7,133	22,431	81,380
平6	26,121	1,415	5,588	33,124	9,112	755	673	10,540	6,931	4,076	13,199	24,206
平7	30,654	1,768	5,980	38,402	9,193	947	610	10,750	12,449	2,831	12,448	27,728
平8	25,328	1,464	4,674	31,466	7,597	559	593	8,749	11,794	2,832	11,506	26,132
平9	21,204	1,463	4,277	26,944	4,955	314	483	5,752	8,523	2,346	9,675	20,544
平10	20,459	1,211	4,189	25,859	6,477	749	276	7,502	17,030	3,020	8,204	28,254
平11	15,532	928	4,055	20,515	4,808	207	292	5,307	6,422	3,441	5,650	15,513
平12	14,262	1,149	4,564	19,975	4,174	299	184	4,657	5,879	2,176	7,427	15,482
平13	12,301	833	3,548	16,682	6,491	42	213	6,746	5,644	1,905	7,948	15,497
平14	18,160	1,012	6,704	25,876	4,147	208	362	4,717	6,552	999	5,215	12,766
平15	13,957	676	5,335	19,968	2,660	60	348	3,068	7,125	1,116	6,058	14,299
平16	13,897	661	4,033	18,591	3,850	138	363	4,351	9,402	538	5,703	15,643
平17	26,603	1,164	6,935	34,702	3,417	128	218	3,763	9,775	798	4,928	15,501
平18	14,019	666	7,102	21,787	1,479	298	335	2,112	8,449	680	5,212	14,341
平19	14,436	622	7,226	22,284	1,739	119	381	2,239	8,298	774	5,614	14,686
平20	14,317	511	6,928	21,756	1,822	71	320	2,213	9,148	254	7,610	17,012
平21	12,914	547	7,055	20,516	1,516	82	374	1,972	10,580	650	7,622	18,852
平22	14,016	634	6,448	21,098	1,536	443	286	2,265	7,958	216	4,542	12,716
平23	8,833	374	6,135	15,342	830	110	806	1,746	6,358	534	6,663	13,555
平24	12,603	458	7,437	20,498	1,084	251	521	1,856	7,382	318	7,351	15,051
平25	14,799	532	9,106	24,437	1,169	230	638	2,037	9,038	198	8,500	17,736
平26	10,928	538	6,218	17,684	861	247	104	1,212	7,392	442	6,116	13,950
平27	15,213	716	8,190	24,119	880	130	228	1,238	7,955	759	6,187	14,901
平28	17,703	687	10,974	29,364	967	192	128	1,287	7,950	538	5,829	14,317

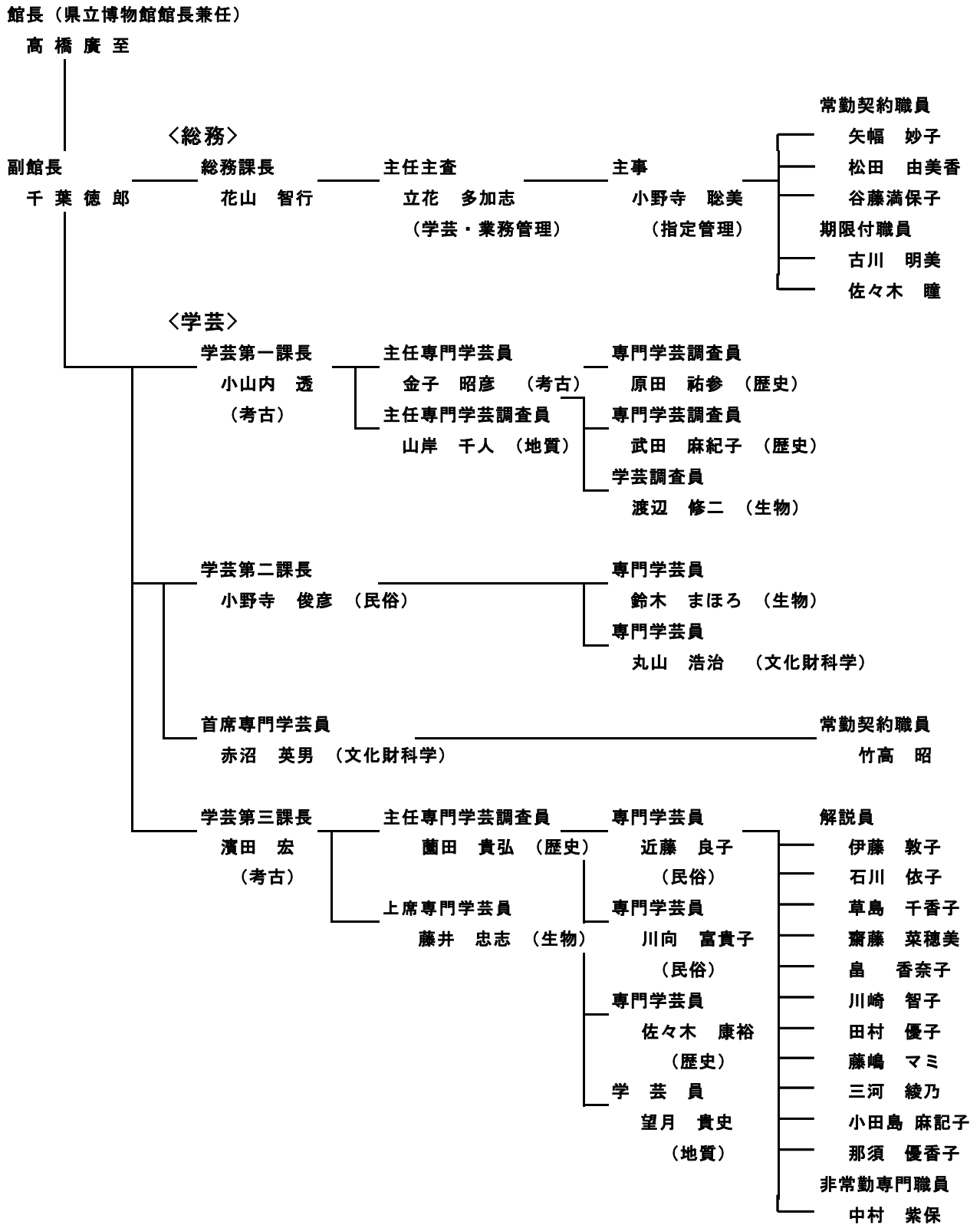
区分 年度	個人利用				団体利用				免除利用			
	一般	高大学生	小中学生	計	一般	高大学生	小中学生	計	一般	高大学生	小中学生	計
平29	20,101	945	10,266	31,312	1213	281	333	1,827	9,760	405	7,015	17,180
総計	1,072,311	55,573	304,525	1,432,409	439,285	16,094	38,999	494,378	311,774	126,020	498,900	936,694
平均	28,219	1,462	8,014	37,695	11,560	424	1,026	13,010	8,205	3,316	13,129	24,650

平成29年度月別入館者数（利用区分別）

区分 月	個人利用				団体利用				免除利用			
	一般	高大学生	小中学生	計	一般	高大学生	小中学生	計	一般	高大学生	小中学生	計
4	2,086	59	1326	3,471	63	89	0	152	644	2	183	829
5	2,454	105	1369	3,928	103	159	0	262	1784	5	1150	2,939
6	1,862	74	564	2,500	91	0	0	91	663	1	500	1,164
7	2,529	80	985	3,594	229	32	102	363	799	53	268	1,120
8	3,361	167	1,591	5,119	57	0	0	57	568	114	430	1,112
9	707	30	327	1,064	241	0	59	300	238	0	796	1,034
10	1,691	161	959	2,811	203	0	59	262	1,710	16	1,757	3,483
11	1,118	56	528	1,702	153	0	2	155	841	10	463	1,314
12	752	34	563	1,349	0	0	0	0	642	32	610	1,284
1	1215	52	743	2,010	24	0	0	24	657	7	289	953
2	871	69	409	1,349	42	0	0	42	500	125	413	1,038
3	1,455	58	902	2,415	7	1	111	119	714	40	156	910
計	20,101	945	10,266	31,312	1213	281	333	1,827	9,760	405	7,015	17,180

9. 平成 29 年度公益財団法人岩手県文化振興事業団博物館組織

H29. 4. 1



学芸部門職員の部門別人員

地質	考古	歴史	民俗	生物	古美術	文化財科学	計
2人	3人	4人	3人	3人	(1)人	2人	17(1)人

10. 岩手県立博物館使命書

(平成20年3月25日制定)

私たち岩手県立博物館は、岩手県が誇る豊かな自然史及び文化史に関する資料と情報を収集保管して、調査研究によりその資料価値を見出し、成果を展示や教育普及などの事業で公開する全県的な機関として、教育・学術・文化の振興・発展に大きく貢献してきました。

近年の地球環境保全に対する危機意識の高まり、急速に進む国際化及び生活様式の多様化といった社会情勢の変化の中で、県民の学習意欲に応える生涯学習中核機関として、より一層充実した役割を果たすことが期待されています。

このため、私たち岩手県立博物館は、5億年にわたる大地、多様な生物相、縄文・平泉などの歴史の変遷、地域性豊かで多彩な民俗事象を背景とし、広大な岩手の地域的特性を活かしながら新たな価値の発見に努め、県民の要請に応じて県民とともに歩む博物館としての機能を強化し、新たな地域文化の創造を目指して博物館の使命を次のようにまとめました。

1 ユニークで多彩な資料の蓄積とその活用に基づく岩手の自然史・文化史の拠点

- (1) 岩手県及び関連する地域の自然や人間の営みの証拠となる資料と情報を継続的に収集・整理して適切に保管・管理し、県民共有の知的財産として次世代に確実に継承していきます。
- (2) 収集した自然史・文化史資料と情報について、自らの研究を通して岩手の地域的特性を明らかにするとともに、グローバルな視点に立って資料の価値を新たに見出します。
- (3) ユニークで多彩な質の高い資料とその情報を各種の事業によって公開・活用し、県民の知的欲求を刺激する場を提供します。

2 幅広い交流による知的活動への寄与と新たな地域文化の創造

- (1) さまざまな機関との資料の相互交流を進めながら、県民はもとより国内外に情報を発信し、自然環境や文化遺産の保全を支援して県民の知的活動に寄与することにより、岩手県の教育・学術・文化の振興・発展に貢献していきます。
- (2) 開かれた博物館として県民との積極的な交流を進めながら、自主的な学習の場を提供することにより、県民の生涯学習活動と次世代の育成のための学校教育活動を積極的に支援します。
- (3) 資料を公開・活用する各種の事業について県民の要請に応え、わかりやすく伝える方法を探り、ともに学び、楽しみを分かちあいながら、新たな地域文化の創造と発展に県民とともに取り組んでいきます。

3 社会から託された博物館の役割を実現するための基盤整備

- (1) 使命書に基づいて活動計画を立案し、実績を点検しながら、さらによりよい博物館活動を目指します。
- (2) 社会から託された博物館の役割を積極的に実現するために、機能的で効果的な組織と財務基盤を整備し、優れた人材の育成に努めます。
- (3) 県民が集い、交流・活動し、やすらぎと潤いのある、安全・安心で、清潔な、また来たいと感じてもらえる快適空間を提供し、県民の共有財産である収蔵資料の保管・管理機能の整備を図ります。

1 1. 関係条例・規則等

(1) 博物館条例

昭和 55 年 7 月 15 日条例第 41 号

(設置)

第 1 条 歴史、芸術、民俗等に関する資料の収集、保管、展示等を行い、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
岩手県立博物館	盛岡市

(指定管理者による管理)

第 1 条の 2 博物館の管理は、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 244 条の 2 第 3 項の規定に基づき教育委員会が指定するもの（以下「指定管理者」という。）に行わせる。

(指定管理者が行う業務の範囲)

第 1 条の 3 指定管理者は、この条例の規定により指定管理者が行うこととされた業務のほか、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) 施設及び設備の維持管理に関する業務
- (2) その他博物館の利用の促進に関する業務

(入館等の許可)

第 2 条 博物館に入館しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

2 指定管理者は、前項の入館が次の各号のいずれかに該当する場合は、同項の許可をしてはならない。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗に反するおそれがあるとき。
- (2) 施設、設備又は資料を汚損し、損傷し、又は亡失するおそれがあるとき。
- (3) その他博物館の管理上適当でないと認めるとき。

3 指定管理者は、博物館の管理上必要があると認めるときは、第 1 項の許可に条件を付することができる。

第 3 条 博物館において、館内の資料の撮影、模写、模造等をしようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

2 前条第 3 項の規定は、前項の許可について準用する。この場合において、同条第 3 項中「指定管理者」とあるのは、「教育委員会」と読み替えるものとする。

(行為の禁止)

第 4 条 博物館においては、次に掲げる行為をしてはならない。

(1) 施設、設備又は資料を汚損し、損傷し、又は亡失すること。

(2) 指定された場所以外の場所にはり紙若しくははり札をし、又は広告を表示すること。

(3) 静粛を害し、他人に迷惑をかけること。

(4) 指定された場所以外の場所で喫煙し、又は飲食をすること。

(5) 立入禁止区域に立ち入ること。

(入館許可の取消し等)

第 5 条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する場合は、第 2 条第 1 項の許可を受けた者に対し、当該許可を取り消し、その効力を停止し、同条第 3 項の条件を変更し、又は行為の中止、原状の回復若しくは博物館からの退去を命ずることができる。

(1) この条例又はこの条例の規定による処分に違反したとき。

(2) 第 2 条第 3 項の条件に違反したとき。

(3) 偽りその他の不正な手段により第 2 条第 1 項の許可を受けたとき。

(4) 博物館の管理上必要があると認めるとき。

(5) その他公益上やむを得ない必要が生じたとき。

2 前項の規定は、第 3 条第 1 項の許可について準用する。この場合において、前項中「指定管理者」とあるのは「教育委員会」と、「同条第 3 項」とあり、及び「第 2 条第 3 項」とあるのは「第 3 条第 2 項において読み替えて準用する第 2 条第 3 項」と読み替えるものとする。

(入館料)

第 6 条 第 2 条第 1 項の許可を受けた者（以下「入館者」という。）は、別表に掲げる入館料を納付しなければならない。

2 前項の入館料は、許可の際に徴収する。

(入館料の免除)

第 7 条 知事は、次の各号のいずれかに該当する場合は、入館料を免除することができる。

(1) 教育課程に基づく教育活動として、小学校児童、中学校生徒又は高等学校生徒を引率する者が入館するとき。

(2) 身体障害者福祉法（昭和 24 年法律第 283 号）第 15 条第 4 項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者（15 歳未満の者につき、その保護者が身体障害者手帳の交付を受けているときは、当該 15 歳未満の者）、

精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和 25 年法律第 123 号）第 45 条第 2 項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者その他規則で定める者が入館するとき。

(3) その他知事が適当と認めるとき。

(入館料の不還付)

第 8 条 既納の入館料は、還付しない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、その全部又は一部を還付することがある。

(1) 第 5 条第 1 項第 4 号又は第 5 号の規定に基づき指定管理者が入館の許可を取り消したとき。

(2) 入館者の責めに帰することができない理由により利用することができなかつたとき。

(3) その他知事が特別の理由があると認めるとき。

(損害賠償等)

第 9 条 施設又は設備を汚損し、損傷し、又は亡失した者は、指定管理者の指示するところにより原状に回復し、又は損害を賠償しなければならない。

2 前項の規定は、資料について準用する。この場合において、同項中「指定管理者」とあるのは「知事」と読み替えるものとする。

(博物館協議会)

第 10 条 博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 20 条第 1 項の規定に基づき、博物館に岩手県立博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会は、委員 15 人以内で組織し、委員は次に掲げる者のうちから任命する。

- (1) 学校教育の関係者
- (2) 社会教育の関係者
- (3) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (4) 学識経験のある者

3 委員の任期は、2 年とする。ただし、欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(補則)

第 11 条 この条例の実施に関し、第 6 条から第 9 条までについて必要な事項は知事が、博物館の管理その他について必要な事項は教育委員会が定める。

附 則

この条例は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

別表（第 6 条関係）

区 分	個 人	20 人以上の団体
-----	-----	-----------

学生	140 円	1 人につき 70 円
一般	310 円	1 人につき 140 円

備考 1 特別な資料を展示した場合において、その資料を観覧しようとする者については、特別な資料の展示を行うのに要した費用を勘案してその都度知事が定める額（以下「特別入館料」という。）を別に徴収する。

2 幼児に係る入館料並びに小学校児童、中学校生徒及び高等学校生徒に係る入館料（特別入館料を除く。）は、無料とする。

(2) 博物館条例施行規則

昭和 55 年 9 月 26 日

規則第 78 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、博物館条例（昭和 55 年岩手県条例第 41 号。以下「条例」という。）の実施に関し必要な事項を定めるものとする。

(領収書)

第 2 条 条例第 6 条第 1 項に規定する入館料の領収書については、岩手県立博物館管理運営規則（昭和 55 年岩手県教育委員会規則第 9 号）第 4 条第 2 項に規定する入館券をもってこれに代えるものとする。

(条例第 7 条の規則で定める者)

第 3 条 条例第 7 条第 2 号の規則で定める者は、次のとおりとする。

- (1) 知事の定めるところにより療育手帳の交付を受けている者（知的障害者又は知的障害児につき、その保護者が療育手帳の交付を受けている時は、当該知的障害者又は知的障害児）及びその介護を行う者
- (2) 条例第 7 条第 2 号の身体障害者手帳の交付を受けている者（15 歳未満の者につき、その保護者が身体障害者手帳の交付を受けているときは、当該 15 歳未満の者）若しくは精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者又は前号の療育手帳の交付を受けている者（知的障害者又は知的障害児につき、その保護者が療育手帳の交付を受けているときは、当該知的障害者又は知的障害児）と同等以上の障害があると知事が認める者及びこれらの介護を行う者
- (3) 条例第 7 条第 2 号の身体障害者手帳の交付を受けている者（15 歳未満の者につき、その保護者が身体障害者

手帳の交付を受けているときは、当該 15 歳未満の者)
又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者の
介護を行う者

(入館料の免除及び還付)

第 4 条 条例第 7 条又は第 8 条の規定により入館料の免
除又は還付を受けようとする者（以下「申請者」とい
う。）は、別に定める様式による入館料免除（還付）申
請書を知事に提出しなければならない。ただし、知事が
別に定める場合にあつては、この限りではない。

2 知事は、前項の入館料免除（還付）申請書を受理した
ときは、その内容を審査し、入館料を免除し、又は還付
することを適当と認めるときは、別に定める様式による
入館料免除（還付）承認書を申請者に交付するものとす
る。

附 則（平成 21 年 3 月 13 日規則第 7 号）

- 1 この規則は、平成 21 年から 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規則による改正後の県立学校授業料等条例施行規
則、学校施設設備基金条例施行規則、高等学校定時制課程
及び通信制課程等修学資金貸付条例施行規則、博物館条例
施行規則、岩手県に所有権が帰属する埋蔵文化財の取扱い
に関する規則及び美術館条例施行規則（以下「県立学校授
業料等条例施行規則等」という。）に規定する別に定める
様式は、この規則の施行の日以後に提出し、又は交付する
申請書等又は通知書について適用し、同日前に提出し、又
は交付した申請書等又は通知書についてはなお従前の例に
よる。
- 3 この規則による改正前の県立学校授業料等条例施行規則
等に規定する様式による用紙は、当分の間、これを取り繕
って使用することができる。

(3) 岩手県立博物館管理運営規則

昭和 55 年 9 月 26 日
教育委員会規則第 9 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、岩手県立博物館（以下「博物館」と
いう。）の管理運営に関し必要な事項を定めるものとす
る。

(休館日)

第 2 条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日（国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律
第 178 号）に規定する休日（以下「休日」という。）
に当たるときは、その翌日以後の日であつて当該休日
に最も近い休日でない日）

(2) 資料整理日（資料の整理、点検等を行う 9 月 1 日か
ら 9 月 10 日までの 10 日間をいう。）

(3) 12 月 29 日から翌年 1 月 3 日まで

2 博物館条例（昭和 55 年岩手県条例第 41 号。以下「条例」
という。）第 1 条の 2 に規定する指定管理者（以下「指
定管理者」という。）は、必要があると認めるときは、
博物館の館長（以下「博物館長」という。）の承認を得
て、前項の休館日以外の日において臨時に休館し、又は
同項の休館日において臨時に開館することができる。

(開館時間)

第 3 条 博物館の開館時間は、午前 9 時 30 分から午後 4 時
30 分までとする。ただし、入館時間は、午後 4 時までと
する。

2 指定管理者は、必要があると認めるときは、博物館長
の承認を得て、前項の開館時間及び入館時間を臨時に変
更することができる。

(入館許可の申請)

第 4 条 条例第 2 条第 1 項の規定による許可を受けよう
とする者は、指定管理者が定めるところにより申請しな
ければならない。

2 指定管理者は、条例第 2 条第 1 項の規定による許可を
したときは、指定管理者が別に定める入館券を交付する
ものとする。

(撮影、貸出等の許可)

第 5 条 条例第 3 条第 1 項の規定による許可を受けよう
とする者は、別に定める様式による資料撮影等許可（変
更）申請書又は別に定める様式による資料貸出許可（変
更）申請書を博物館長に提出しなければならない。

2 博物館長は、条例第 3 条第 1 項の規定による許可をし
たときは、別に定める様式による資料撮影等許可書又は
別に定める様式による資料貸出許可書を交付するものと
する。

3 資料の貸出期間は、30 日以内とする。ただし、博物館
長が特に必要と認めるときは、その期間を延長すること
ができる。

4 資料の貸出しを受けた者が、当該資料を汚損し、損傷
し、又は亡失したときは、速やかに、別に定める様式に
よる資料汚損（損傷、亡失）報告書を博物館長に提出
し、その指示を受けなければならない。

(汚損等の届出)

第 6 条 施設又は設備を汚損し、損傷し、又は亡失した者
は、速やかに、指定管理者に届け出なければならない。

2 前項の規定は、資料について準用する。この場合において、同項中「指定管理者」とあるのは、「博物館長」と読み替えるものとする。

(協議会の所掌)

第7条 条例第10条の規定による岩手県立博物館協議会(以下「協議会」という。)は、博物館長の諮問に応じ、次に掲げる事項に関し、調査審議するとともに、博物館長に対して意見を述べることができる。

- (1) 資料の収集、保管、展示等に関すること。
- (2) 資料の調査研究、利用等に関すること。
- (3) その他博物館の運営に関すること。

(会長)

第8条 協議会に会長を置き、委員の互選とする。

- 2 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
- 3 会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、あらかじめ会長が指名する委員が、その職務を代理する。

(会議)

第9条 協議会は、会長が招集する。

- 2 協議会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(補則)

第10条 この規則の実施に関し必要な事項は、博物館長が定める。

附 則(平成21年3月6日教育委員会規則第2号)

- 1 この規則は、平成21年から4月1日から施行する。
- 2 この規則による改正後の岩手県教育教員免許状に関する規則、学校教育法施行細則、岩手県立高等学校の管理運営に関する規則、博物館の登録に関する規則、教育財産管理規則、岩手県文化財保護条例施行規則、岩手県立図書館管理運営規則、岩手県立博物館管理運営規則、岩手県立総合教育センター宿泊施設の利用に関する規則、技能教育施設の指定等の手続きに関する規則、岩手県教育委員会が行う聴聞の手続きに関する規則、岩手県教育委員会の所管に属する公益信託の引受けの許可及び監督に関する規則、岩手県教育委員会が保有する個人情報の保護等に関する規則、岩手県立美術館管理運営規則及び岩手県教育委員会行政組織規則の一部を改正する等の規則附則第3項の規定によりなおその効力を有することとされる廃止前の岩手県教育委員会の所管に属する公益法人の設立及び監督に関する規則

(以下「岩手県教育職員免許状に関する規則等」とい

う。)に規定する別に定める様式は、この規則の施行の日以後に提出し、又は交付する申請書等又は通知書等について適用し、同日前に提出し、又は交付した申請書等又は通知書等については、なお従前の例による。

- 3 この規則による改正前の岩手県教職員免許状に関する規則等に規定する様式による用紙は、当分の間、これを取り繕って使用することができる。

平成 29 年度岩手県立博物館年報

平成 30 年 5 月 1 日

編 集： 岩 手 県 立 博 物 館

〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷 34

Tel 019-661-2831 Fax 019-665-1214

発 行： 公益財団法人岩手県文化振興事業団

〒020-0023 盛岡市内丸 13-1

Tel 019-654-2235